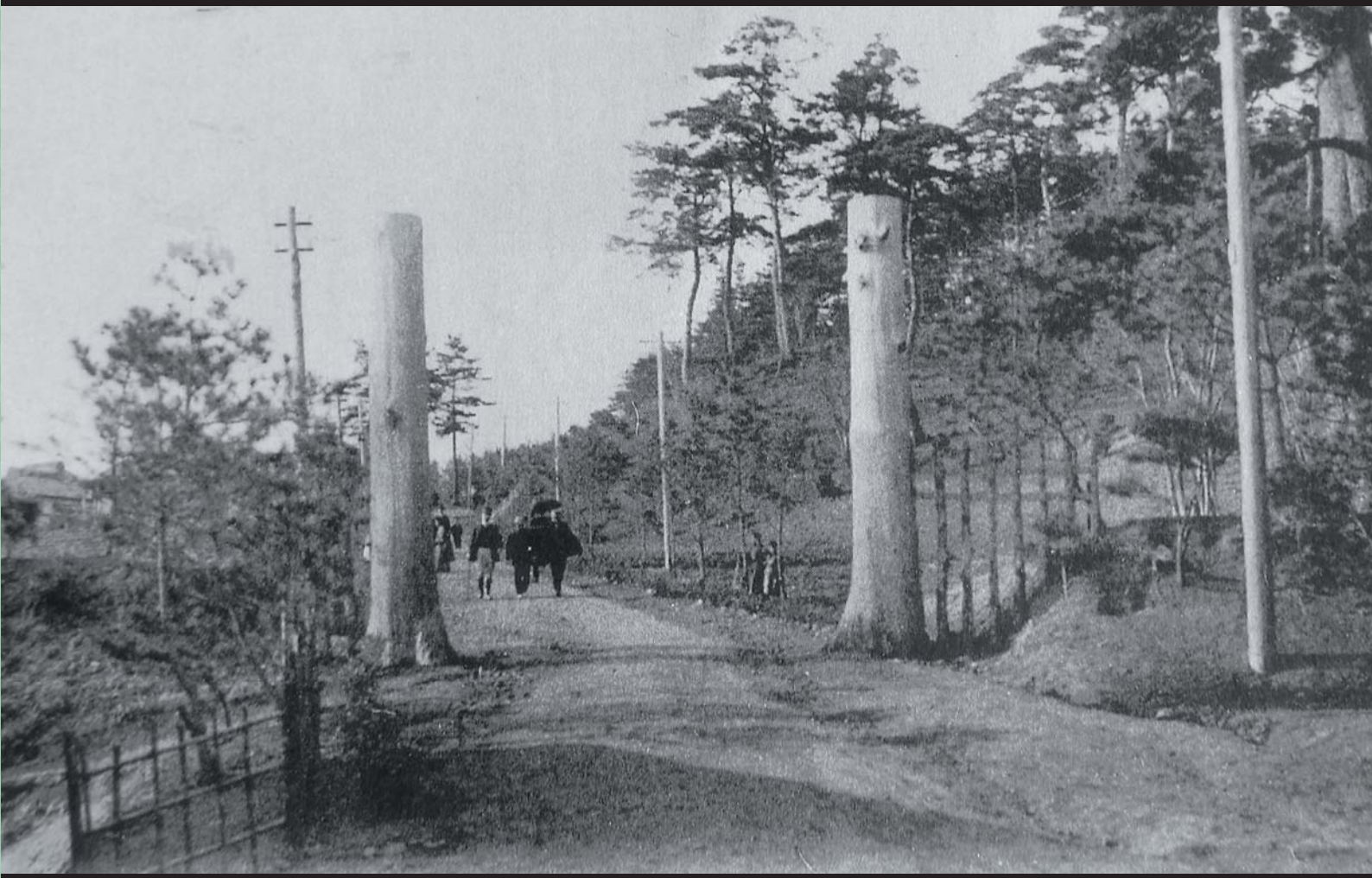


# 郷土の歴史と 常盤台連町40年



(常盤園入口)

常盤台地区連合町内会

### 表紙写真の説明

現国道16号線沿いに「常盤園下」というバスの停留所がある。この場所から常盤公園入口までの坂道を「公園坂（富士見坂）」と言い、坂道の両側には桜が植えられ大変ににぎわった。

当時の常盤園は広大で、現在の峰岡町三丁目公園の端（国道16号線寄り）辺りが常盤園の入口（写真）であった。現在は狭い車両一方通行道路となっていて面影はないが唯一見晴らしの良さだけが残る。





常盤台地域上空より「横浜みなとみらい」「横浜港」を臨む。中央は横浜国立大学、周辺は常盤台の各自治会町内会（平成 20 年）



中央は程ヶ谷カントリー倶楽部・右下は三ツ沢グランド・周辺は常盤台各自治会町内会（昭和 38 年）



# 郷土の歴史と常盤台連町 40 年



後光に輝く常盤台の夜明け 2012/08/30



盆踊り・国大留学生（2010 年）



拠点防災訓練（2009 年）



ワイワイウォーク（2010 年）



## 40歳の連合町内会



賀詞交歓会（2012年）



横浜国大常盤台まちづくり応援隊



高齢者会食会  
（地区社協）2012年

常盤台の笑顔





# 目次

5	刊行のことば
	・ 第八代常盤台地区連合町内会会長 有澤文紀
6	発刊によせて
	・ 保土ケ谷区長 鈴木和宏
	・ 第七代常盤台地区連合町内会会長 山口和秀
	・ 第五代常盤台地区連合町内会会長 高崎治郎
8	郷土の歴史 近代史にも登場する常盤台
23	幼きころのわがまち
24	昭和15年 秋の思い出(常盤園内での暮らし)
26	歴代会長の横顔
27	連合町内会40年を振り返って(歴代役員と識者による座談会)
34	誇れる連合町内会を目指して(各会の活動)
46	常盤台地区連合町内会の一員として(横浜国立大学と近隣住民との共存)
48	常盤台連町の自治会・町内会
59	神奈川東部方面線羽沢駅(仮称)の開業
61	常盤台地区社会福祉協議会の歴史と活動
65	常盤台地区連合町内会・社会福祉協議会年表
68	常盤台と周辺の豆辞典
	編集後記

本書の最終ページには、本書に掲載できなかった資料・写真のCDが添付されています。

## 刊行のことば



第八代常盤台地区連合町内会会長  
有澤 文 紀

保土ヶ谷区常盤台地区連合町内会は昭和 47 年 5 月 1 日に発足し、今年で 40 周年を迎えました。この間、歴代連合町内会会長を核心として、地域の発展にご尽力を頂いた歴代自治会長・町内会長をはじめ、多くの住民の皆様には深甚なる敬意を表するとともに記念誌の発行を心からお慶び申し上げます。特に、発行に際し資料の収集・提供にご協力頂くとともに積極的に編集委員会に参画して頂いた委員の皆様には改めて感謝申し上げる次第です。

発足 40 周年という節目としてはやや半端な年に連町史を発行する理由は、これまで地域を支え、その発展に多大の貢献をされた諸先輩方にも世代交代の波が押し寄せ、その方々の功績をしるした記録や資料は瞬く間に散逸してしまうといった危機感からです。

現在の常盤台は一昔前に比べると大きく様変わりしました。「常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス」ができ、地域の皆さんの交流の場・憩いの場となっております。

横浜国大との関係も極めて緊密になりました。連町納涼盆踊りへの国大の参加、大学「常盤祭」への地域の参加、新年賀詞交換会などイベントを通した交流も年々盛んになっております。特に近年、J R 羽沢貨物駅に隣接して新駅建設が進行中であり、完成の暁には都心とのアクセスが飛躍的に向上し便利になります。

反面、人口が増加し新駅周辺は都市化の波が押し寄せることでしょう。羽沢に隣接する常盤台もその影響を受け、大きく変わろうとしています。

時代の節目に当り、常盤台の過去の歴史を振り返り、地域を再認識し、来るべき変革の時代に備える意味を込めて、地域の皆様には珠玉の一冊となるであろう本書をお贈りしたいと思います。



保土ヶ谷区長  
鈴木 和宏

常盤台地区連合町内会が創立四十周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴連合町内会が創立された昭和 47 年という年は、札幌冬季オリンピック開催や、沖縄の返還、第一次田中角栄内閣の発足など、日本社会は激動の年でありました。常盤台地区においてもまた、日本初の本格的ゴルフ場である「程ヶ谷カントリー倶楽部」の跡地に「横浜国立大学」の移転が進行中で、大きく街が変貌する過渡期であったかと思います。

そして、創立以来今日まで、社会経済情勢が大きく変化する中、地域の皆様とともに、新しい街づくりのため様々な課題に取り組んでこられ、地域の活性化や福祉の増進に貢献いただきましたことに、深く敬意を表します。

引き続き、常盤台地区の発展にご助力をお願いしますとともに、貴連合町内会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。





第七代常盤台地区連合町内会会長  
山口 和 秀

常盤台が第一の故郷であるみなさん、また第二の故郷としているみなさん、「郷土の歴史と常盤台連町 40 年」の刊行おめでとうございます。私も常盤台に住み続けて 45 年、第二の故郷というよりもっともっと思い出の深い第一の故郷に近い存在です。歴史書の必要性はいうまでもありません。この変革の激しい時代にあって、多種多様な課題が山積していますが、それはわがまち常盤台においても例外ではありません。そんな折、常盤台を顧みる歴史書編纂の話があり、その編集長として、またこの書の協賛団体でもある常盤台地区社会福祉協議会の会長として、この事業に直接携われたことは大変に光栄なことです。

当初「40 年史」ではなく「50 年史」ではだめなのか・・・という先延ばしの意見が多くありました。その私の答えは、「10 年間は待てません」ということでした。理由はただ一つ、その間に貴重な記録が失われ、10 年後の歴史書の発行は不可能だからです。

この機会に地域にとって計り知れない大変貴重な多くの記録を次世代につなげられたことに、またこの書の作成にご協力をいただいた関係者の皆様に感謝しお祝いの言葉とします。



第五代常盤台地区連合町内会会長  
高 崎 治 郎

常盤台地区連合町内会 40 年史の刊行誠におめでとうございます。

昭和 47 年に和田地区連合町内会から常盤台地域の 9 自治会と 1 町内会が分離して常盤台地区連合町内会を結成し、発足してから 40 年が経過しました。その間消滅や合併、加入等の出入りはありましたが、現在では発足当時とほぼ同数の 11 自治会・町内会で活発な活動がなされています。

一方で各自治会の引率者としてご苦勞されて来られた会長さん、役員さんも多くの方が世を去られ、過去の貴重な記録も失われつつあるのも事実です。そんな中での本誌刊行は時宜を得たものであり、編集、発刊にご尽力された関係者に敬意を表します。

常盤台地区は緑にも恵まれた大変良い環境のうえ、横浜国立大学とも良好な関係となり、また念願であった活動拠点としての福祉施設も建設されました。これも連合町内会長はじめ役員みなさんのご努力の賜物と感謝しています。

平成 27 年には羽沢貨物駅に併設して旅客駅が完成しますが、これにより常盤台地区も大きく変貌すると思われます。地域のみなさんの意見も反映されて更に住み易い地域となる様にと願っています。最後に常盤台地区連合町内会の益々の発展を祈念してお祝いの言葉といたします。

# 郷土の歴史

## 近代史にも登場する常盤台

山口 和秀

### 常盤台の誕生（峰岡町は生みの親）

昭和2年帷子町の分割により峰岡町（現在の峰岡町一丁目から三丁目および常盤台地区、釜台町）が誕生しました。それから12年後の昭和14年、横浜市が隣接町村との合併と編入を実施し、保土ヶ谷区においても大規模な町の再編がなされました。この編成では新たに22町が誕生しましたが、「常盤台」「釜台町」もその中の一つの町として、昭和15年（1940年）に峰岡町から分離して誕生したのです。（峰岡町が誕生した時の周囲の町・保土ヶ谷ものがたりから）

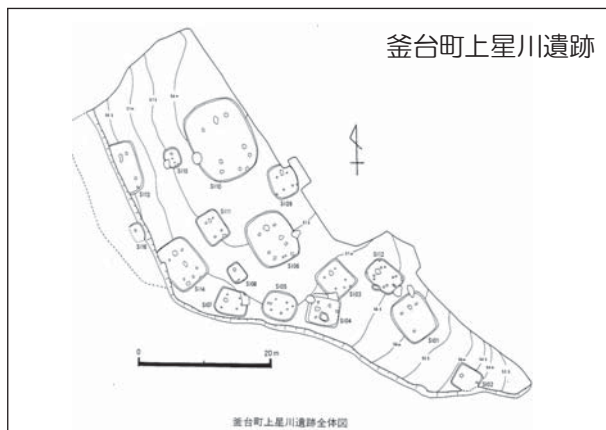
### 常盤台地域の歴史

**原始、古代**の常盤台周辺は、帷子川を中心に両側に広がる台地、常盤台方面と仏向方面に別れ、双方から大小多くの遺跡が発見されています。常盤台では2つの遺跡が確認されていますが、その1は明治45年に常盤園の運動場造成工事（現中部自治会域）において石器時代の大量の石器物が出土したと常盤園案内書中に記されていますが、今ではその遺跡は残っていません。

その2の「常盤台遺跡」は、縄文時代中期BC2000年から2500年頃の遺跡で現在の横浜国立大学内にあり、「帷子貝塚」として知られていたようですが、その後の程ヶ谷カントリー倶楽部のゴルフ場建設、その後の横浜国立大学研究棟建設でほとんどが破壊され、昭和51年に行われた調査で縄文中期の住居址7戸が確認されています。（横浜国立大学作成『常盤台遺跡』）

近隣では、縄文時代初期の遺跡と弥生時代後期の「釜台町上星川遺跡」です。この遺跡は保土ヶ谷中学校校庭の脇、標高60mの高台（釜台公園）にあります。昭和60年にマンション建設（現ルネ上星川自治会の地）時、大がかりな調査が行われました。5世紀から6世紀にかけて**古墳時代**の古墳遺跡も確認され

ています。その他、釜台町の保土ヶ谷中学校敷地内にも6基の古墳群（釜台古墳群）がありましたが、十分な調査が行われず破壊されてしまい詳細は不明だといえます。



**奈良・平安時代**になりますと律令制で、全国は60余ヶ国となり、その国はいくつかの郡によって構成されていました。常盤台地域は武蔵国橘樹郡に属していました。

（武蔵国の領域は東京都・埼玉県・神奈川県の一部で、21郡で構成されていました。現神奈川県下には橘樹郡・都築郡・久良郡の3郡で、この体制は江戸時代まで続いていました。）

**鎌倉時代**は武家支配の戦国時代、常盤台地域内で残る歴史的なものは、畠山重忠公に関わる



歴史が有名です。鎌倉幕府の北条氏にとっては相模の国鎌倉の隣国でもある武蔵国は重要な国でした。武蔵武士団の有力者畠山重忠を配下にして安定を図っていましたが、1205年鎌倉に向かう重忠は、叛逆人として鶴ヶ峰で北条氏の軍勢数万騎に撃たれてしまいました。

この戦いは鶴ヶ峰を中心に広範囲にわたり繰り広げられ、多くの遺跡が残されています。

常盤公園内には「畠山重忠公郎党恩讐慰霊塔」が建立されています。これは常盤公園の中、常盤台小学校の校庭等にあった戦士の塚を慰霊し常盤台の開拓者、川田修三氏を代表に昭和32年に建立されたものです。慰霊塔の裏面には次のように記されています。

「重忠公は北条時政及び後妻牧の方陰謀により元久二年六月武蔵国鶴ヶ峰に於いて一族郎党百三十四騎は各所進撃して戦死当時の敵味方の別なく埋葬この地にあり二十騎の塚は世の変遷となり消滅を憂い茲に合同慰霊塔を建立するものなり 地元有志一同 地元婦人会」



常盤公園内の  
慰霊塔

**江戸時代**は武州（武蔵国）橘樹郡帷子郷の一部に属していました。常盤台地区は帷子郷の山間部、歴史上にはまだ表れてきません。

上星川駅の裏側に帷子川に架かる橋がありますが、その橋の名は「両郡橋」、こ



帷子川に架かる両郡橋

の橋が当時の橘樹郡と都築郡の郡境であったのです。橋の和田町側は橘樹郡坂本村、西谷側は都築郡上星川村でした。

江戸時代に入り、保土ヶ谷付近も小田原北条氏の支配から徳川氏の支配下になり、道路（東海道）が新たに造成され、宿場（保土ヶ谷宿）がつくられました。このころ（1753年9代将軍徳川家重）の帷子町の家数は128戸と馬数が33との記録があります。常盤台は帷子町の一部とはいえ、深い深い雑木林であったと思われます。

保土ヶ谷宿は東海道に沿って形成されましたが、帷子川に沿って西に向かう八王子道が通っています。

八王子道は「芝生村境追分（現在の松原商店会の端）から帷子峰（峰岡町）の麓に沿って台地より西に向かい和田村から上星川村、川島村を抜けて」とあります。その八王子道の道幅は1間から1間半（1.8m～2.5m）で、この辺りが、悪路、難路で大変な難所であったことが「和田村道橋改修碑」にも記されています。

（国道16号線保土ヶ谷中学校入口に建立）

## 明治・大正時代

常盤台地区の属する帷子町は明治に入り次のように変遷しています。

- ・明治4年 神奈川県橘樹郡保土ヶ谷宿帷子町となる。（廃藩置県施行）
- ・明治11年 神奈川県橘樹郡保土ヶ谷宿帷子町となる。（郡区町村制施行再編するも同名）
- ・明治17年 神奈川県橘樹郡保土ヶ谷駅帷子町となる。
- ・明治22年 神奈川県橘樹郡保土ヶ谷町帷子町となる。



## 帷子葡萄園

明治 35 年に葡萄栽培の第一人者であった中垣秀雄は、岡野欣之助のすすめで、現峰小学校付近に「皇国葡萄酒醸造所」を建設し、同時に現東部自治会内の常盤台住宅の地に 2 町 5 反歩（7500 坪）の「帷子葡萄園」を開設しました。

その後の明治 44 年には岡野公園が完成し、帷子葡萄園は公園の一部として管理されました。

大正 12 年の関東大震災により醸造所の貯蔵庫は全壊してしまいましたが、短期間で再建を果たしました。そして震災後の洋風化で葡萄酒の普及は進み、帷子葡萄園は横浜駅から特別バスが出るほど賑わい、また隣接するゴルフ場、程ヶ谷カントリー利用の外人客や有名文化人のサロンともなっていたといえます。

この葡萄酒は海外に輸出されるまでになっていましたが、戦争により程ヶ谷カントリー倶楽部と共に米軍に接収され、名産のブドウ園は消滅してしまいました。



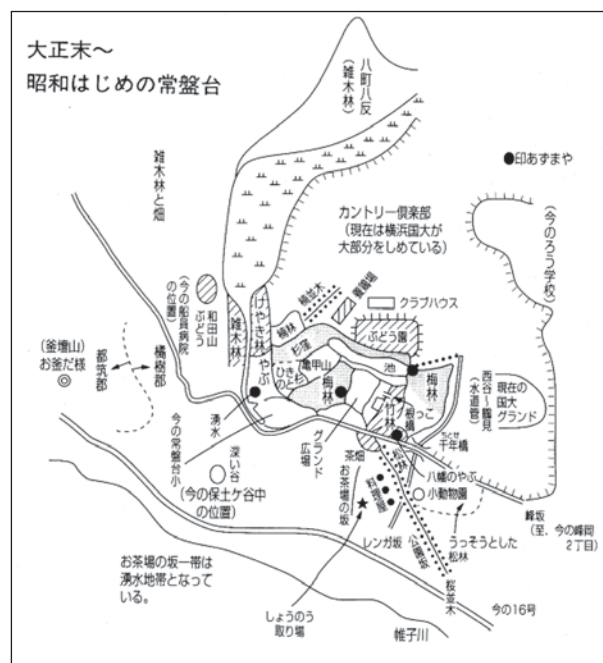
帷子葡萄園

## 日本近代史にも登場する「常盤園」と「程ヶ谷カントリー倶楽部」

保土ヶ谷区民でもどこにあるのか知らない人の多い私たちの「常盤台」、こんな小さな常盤台地域にも、日本の近代史にも残るほど歴史的に貴重な施設が 2 ケ所もあったのです。その施設とは「常盤園（岡野公園）」と「程ヶ谷カントリー倶楽部」です。

### 名園であった常盤園（岡野公園）

現在私たちが住んでいる常盤台の地に、日本でも代表的な庭園のある三溪園（53,000 坪）と並び称される名園「常盤園」が存在し



ていたことをご存知ですか。

残念ながら現在は、かつての名園の姿はほとんど残ってはいません。その名園は現在の常盤台のシンボルでもある「常盤公園」を中心に約 9 万坪の広さがあったといわれています。その広さは三溪園の 1.7 倍もあったのです。

明治 42 年、地元帷子生まれの岡野欣之助は、横浜市の発展に伴い公園の不足を知り、市民に公開するために帷子町字峰と字常盤に所有していた広大な山林約 9 万坪（現峰岡町三丁目町内会域の一部、常盤台東部自治会、



岡野欣之助

常盤台中部自治会域の全部、常盤台西部自治会域の一部、横浜国大域の一部）を明治 44 年に当時公園造園の第一人者であった長岡安平にその設計を依頼しました。依頼を受けた長岡は特別な技巧を凝らすことなく丘陵地の自然のままに野趣豊かな名園「常盤園」を作り上げたのです。

それでは常盤園とはどのような公園であったのでしょうか。当時、常盤園の所轄行政機関でもあった橘樹郡が常盤園全体の様子を詳細に記した案内書「神奈川県橘樹郡案内記（1914 年（大正 3 年）」を発行していますので当時の名園を思い描いていただきたいと思います。



常盤園は、保土ヶ谷駅から約 2.2km の所にあり、平沼駅に出てもほぼ同じ距離にあります。（平沼駅は現在の相鉄線平沼橋駅の付近）国道 16 号線に沿って横浜市浅間町の背面に連続している丘の一部です。東側は浅間町に接し西南側は眺めが良く、帷子川の流れが足下にくねっています。このあたりは一面田畑であり、その向こうに星川町、仏向町、坂本町、などの町がひとつひとつ確認できます。また、雲の果ての遥か遠くには富士山、富士を囲む箱根、大山の山々、本当に極上の名画のようです。北側は一帯に深い緑一面の森林で、風に吹かれる木々の音には、とてもすがすがしい気分させられます。



桜咲く園内のあすまや

ここは以前から保土ヶ谷町の豪家岡野氏の持ち物でしたが更に少しずつ周囲の土地を購入してゆき、ますます大きくなりました。現在の面積は約 323,300 m<sup>2</sup>です。（東京ドーム 7 個分・現在の常盤公園は 1/6 で 47,000 m<sup>2</sup>、東京ドームとほぼ同じ）で園内は土地が高低に起伏しており、丘陵や溪谷、森林、沼沢があり元々の天然の風情が豊富にあります。現在、果物、野菜、樹木、竹、草花を栽培している場所でも以前はそのほとんどが山林のままの雑木林できつねやたぬきが棲息していたのですが荒地を切り開き、草木を刈り、近年大規模な土木工事を実施して、土地を整理し、大小の道を作り、池の土手を築いて池を掘り、その他いろいろと公園としての設備を整備して、これを開放して一般利用の使用に提供されました。

設計者は長岡安平氏であり、明治 42 年 9 月に設計に取り掛かり同年 10 月に起工しました。園内の設備の主なものは、運動場、迷園（樹木で仕切られた小道が迷路のように縦横にある。）果樹園、野菜畑、養

鶏場、牧牛場、及び養魚池などでありました。その植えられている主な草木も以下にあわせて紹介します。

1. 運動場 2ヶ所あって、ひとつは桜の台にあり、もうひとつは梅の台にあります。その面積はいずれも 8,600 m<sup>2</sup>ほどです。（横浜アリーナと同じ）その他にテニスコートが一ヶ所あります。

1. 迷園 俗に八幡シラズと呼ばれています。これは梅の台にあってその面積は約 992 m<sup>2</sup>です。

1. 果樹園 その主なものは梅林で、その他ぶどう、梨、桃、いちじくなどです。梅林は明治 35 年 4 月から 5 カ年継続事業として、苗木 10,000 本を植付けました。その種類は養老、白加賀などです。その後、大きな樹 約 200 株が明治 43 年 3 月に他の所から移植されました。

1. 花園（かえんかき）は、しょうぶ、ぼたん、しゃくやくなどがその主なもので又つつじ、やまぶき、ふよう、萩なども多くあります。しょうぶはそもそも色々な所から買っていましたが、明治 42 年 10 月、三溪園の主人である原氏から約 10,000 株を寄贈していただいた事により、現在はその種類がとても多くなりました。ぼたんは明治 43 年 10 月に約 500 株を移植しました。その種類は約 150 種となり、しゃくやくもまた数十種あります。

1. 野菜園は、四季折々に和洋各種の野菜を栽培しています。

1. ソメイヨシノ 運動場の周囲にあるものは明治 36 年 3 月に苗木の植付けを開始して、その他の桜は明治 37 年から数年にわたって移植しました。



公園内の桜と池

1. 松林 緑園という名称の丘にあり、俗に千本松と言います。これは明治9年4月に植付けされたもので、持ち主である欣之助氏の亡き父親の遺業であり、園内随一の記念物となっています。面積は約35,200㎡です。(東京ドームの3/4程度)
1. 竹林 3ヶ所に分れており、一ヶ所は孟宗で、明治36年に移植されたものです。他の2ヶ所は苦竹で、明治36年6月と同43年6月の植付によるものです。
1. 苗木養成場 その主なものは、クスの木の苗の養成です。苗は明治38年4月から日露戦争の記念として毎年50,000本ずつ培養し、その後10年間の無償配付を実施するように計画されています。今年までの8年間での配付は合計で455,000本です。その他に養成している苗木は松、杉、ひのき、けやき、いちよう及び果樹類などです。
1. 養鶏場 農商務技師の石崎芳吉氏的设计によって孵卵舎、育雛舎、餌料調整舎、種禽飼養場、及肥育舎、などの建設物があります。敷地は約2,500㎡で建坪は約120坪あります。現在飼養しているにわたりの種類は白色レグホン、褐色レグホン、連斑プリモスロック、白色ワイアンドット、黒色ミノルカなどです。
1. 牧牛場 現在計画中でまだ着手していません。
1. 養魚池 梅林の北部にあり、面積は約10,000㎡です。(横浜アリーナよりひと回り大きい)こい、ふな、うなぎ、などを養殖しています。

その他に特にご紹介するものとして、園内で養蜂事業に従事するものがあります。現在15箱のイタリー種蜜蜂を飼養しています。また、先般、運動場の設置で工事をした時に、石器時代の遺物、すなわちおの(せきふ)、やじり(せきぞく)、さら(いしざら)、ぼう(せきぼう)及び、土器の破片などが発見されました。明治45年10月に実施された理学博士である坪井正五郎氏の実地調査によると、ここには石器時代に人が住

んでいて、さらに石器を製造していた場所であるという事で、珍しい事もあるものです。その遺物にはおの、やじり、きり、やり、ぼうなどの他にも、土器、または貝や骨などで造られたものがあります。特にやじりでは、その形の美しいものがあります。また、未完成の器でとても大きいものがあるだけでなく、その原料である黒曜石の破片をたくさん発見しました。そのことから、この土地でやじりが製造されていたという事が証明されました。園内にコレクションして一般向けに公開しています。

この公園は先に書いた通り、保土ヶ谷町の豪家である岡野欣之助氏の独力設備経営であり、一般公開されています。氏は生まれつき温厚な方で、たんにこの公園だけに留まらず、心を常に殖産公益に傾けて、かつての県立農事試験場のために巨額の費用を投じて敷地区画の整理を行いそしてその仕事に従事し、しばしば耕地整理委員長である組合長に挙げられ、一生懸命に働いて事業を成し遂げ、あるいは工事をして土地の開拓を計画し、その他、教育活動やボランティア活動にも力を入れて、効果をもたらした純粋に公衆の利益のためとなり、顕著な功績を残しましたので、大正2年3月15日をもちまして明治14年12月7日勅定の藍綬褒章を賜りまして、その善行を表彰されました。(横浜市港北図書館が現代風に編集した文を掲載)

### 常盤園のにぎわい

自然豊かな公園には四季折々の花が咲き(2月は梅、4月は桜、5月の菖蒲・秋の紅葉のころ)になるとお茶屋が来店した。特に桜の見ごろには保土ヶ谷駅と横浜駅から乗合自動車が特別運行し、また現在は幻の駅になっている「常盤園下駅」からも公園行の馬車が出て公園坂(富士見坂)は押すな押すなの人であふれ、現在の国道16号線まで長蛇の列が続いたという。

また現在の恵風ホーム前あたりには「八幡の藪」(八幡シラズ)という300坪の迷路があり、子供の格好の遊び場であった。





公園坂（富士見坂）

### 日本初の自転車競走会の開催

常盤園内には2つの運動場（現在の中部自治会会館あたり）があり、明治44年には横浜質屋大運動会が、大正6年には自転車競走会が、大正13年には全国連合観桜自転車競技大会が、昭和7年には第5回秋季連合青年団体育大会が開催されている。この自転車競技会の行われた運動場はリンク型になっていて中央部分は亀甲型の丘で梅林であった。

当時の様子を横浜貿易新報（大正14年4月5日発行）に次のように報じられている。

来る12日保土ヶ谷岡野公園において開催される全国自転車並びにオートバイ競走大会はすでに会期の切迫に伴い選手連の意気込みは素晴らしく、自転車レースでは東京横浜大阪神戸の全国大選手が連日來園猛烈な練習を行って居るが一方オートバイレースも昨今出場選手が日々グランドに於いて火花を散らす妙技を見せて居るが横浜としては災後初めての催として斯会の人気は勿論一般からも非常な興味をもって見られて居る。

常盤園については多くの歴史書の中にその概要が紹介されています。しかし、この歴史的な地に暮らす私たちにとっては、「どこの場所に何があったのか」までを記録に残すことこそが大事なことです。この書では、「生の記録収集」の最後のチャンスとして、当時を知る数少ないご高齢の方々に直接お話を聞き、より子細に常盤園の全容が解明できたことは大変に幸運でした。

（「昭和15年の秋の思い出、川田勝美氏」・「幼きころのわがまち、望月后子氏」）の記を合わ

せてお読みください）

### 日本ゴルフ界の草分け的名門ゴルフ場「程ヶ谷カントリー倶楽部」

近代史に登場するもう一つの施設は「程ヶ谷カントリー倶楽部」で、日本のゴルフ界の草分け的な名門ゴルフ場です。現在は旭区に移転し、その広大な跡地には横浜国立大学の緑豊かなキャンパスが広がっています。

この名門ゴルフ場は大正11年に完成しました。広大な敷地は現常盤台地域全体地積の41%をも占めています。当時の常盤園と合わせると両施設で優に峰岡町三丁目町内会も含めた常盤台連合町内会全地域地積の80%をも超えていると思われます。



ゴルフコース全体と常盤台地区（周辺）

程ヶ谷カントリー倶楽部の歴史は、その前身であった東京ゴルフ倶楽部の駒沢コース（9ホール）が手狭になり、移転先を東京近隣に探していた折に、岡野欣之助の口利きで、岡野自身の所有施設「常盤園」に隣接した18万坪の起伏に富んだ広大な敷地が紹介されて建設が決定したものです。

こうして日本初の18ホールの本格的なゴルフ場（6,334ヤード）が常盤台に誕生したのです。しかしながら地元の人々にとっては広大な山中に突如としてできたゴルフ場は「特権階級の社交場」・「別世界の遊場」として映り、迷惑な施設として歓迎されずに特別な扱とされていたようです。



初代クラブハウス(大正12年)



1番ホール

ゴルフ場の正門は現在の国大南門付近にあり、プレイヤーは当時の常盤園の中を通過して正門に向かっていましたが、当時はまだまだ自家用車で来る者は数人で、ほとんどの人は保土ヶ谷駅から人力車か、横浜駅から相乗りタクシー(1台片道3円)を利用していたといひます。

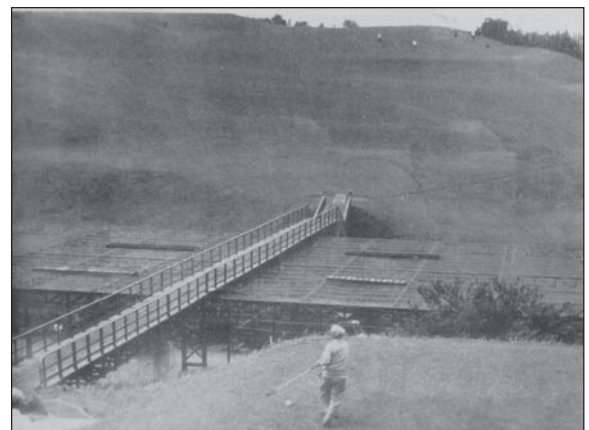
当時のゴルフ場の様子を横浜貿易新報(昭和2年5月5日)は次のように報じています。

東洋一のゴルフ・リンクを有する岡野公園の眺め。ビロードを敷きつめたような青草の丘、芝生の丘、ゴルフリンクの赤い旗、白い旗、スクリンの片隅を清洒なゴルフクラブの赤屋根がかすめる。周辺はゆるやかな丘がつつき、なだらかな丘の広がり、グランドロスタンドを、池を森を、バンガロを、小径をさまざまに映し出しながら緩やかにマワリツツケル ゴルフをやるブルジョワの息子娘の団、飛ぶ球、見送る眼、笑顔。

ゴルフボールは大変な貴重品で、一般労働者の日当が1円弱の時代に、1個7円~8円はしたといひます。昭和12年頃になってボール1個がやっと1円ほどになったようです。それでもまだまだ高価なもの、そのために深いラフの中のボール探しも真剣なプレーの内であったようです。

ゴルフ場周辺の子供たちにはボール拾いは唯一の小遣い稼ぎの場で深いラフの中、またゴルフ場の周辺地を探したものだといひます。キャデーは男性で和服姿や学生服姿の少年が多かったようです。(座談会から)

開業以来クラブハウスは昭和16年と昭和25年に2回焼失しています。戦時中は国策に沿って一部畑にして食料の増産を図りましたが、昭和20年に戦争がはげしくなり閉鎖となりました。終戦後の昭和21年再開したものの米軍に接收されて米軍専用のゴルフ場となっていました。その後接收が解除されて米軍との共同使用となり、名門ゴルフ場の復活となりましたが、昭和42年に旭区に移転となりました。



横浜新道の上に架かる橋

戦時中の様子を神奈川新聞は次のように報じています。

(昭和18年6月18日・神奈川新聞)

勉学の余暇に食料生産増強にいそむ児童のその一翼を担って奮起している頃、国民皆働の精神で私たちも増産に挺身しようと横溢する熱意をもって保土ヶ谷区第四町内会連合会では峰岡一・二丁目・和田町東・西・釜台町・岡沢町・峰沢町の七町内会の総力



凝集して決戦下勤労の尊い汗によって増産戦線へ突進することになり、程ヶ谷カントリー倶楽部程ヶ谷ゴルフ場 20 万坪のうち 2 万坪を借り開墾しこれに甘藷、トウモロコシ、大根、小鎗、里芋、馬鈴薯など雑穀を播き、土の香りに親しみながら、健民運動と食糧増産の一石二鳥を狙って進発することになった。この開墾と増産は、各町内会長が責任を持ち、休日利用、壮年団の勤労奉仕、家庭主婦等が共同精神の育成に努めながら隣組単位で耕作する。  
(参考) 当時の常盤台は「常盤台・釜台町町内会」でした。



戦時中コースを耕す会員

程ヶ谷カントリー倶楽部は、日本屈指の名門コースとあってまた多くの有名人もプレーをしました。昭和6年には女性だけの大会が開催され、皇室、財界の多くの奥様方も参加されています。また日本を代表する多くの選手が所属し活躍をしました。歴史に残る所属プロは、赤星四郎・赤星六郎・浅見緑蔵・中村寅吉・小野光一・河野高明・河野光隆・井上清次・鍋島直泰等がいます。

広大な跡地は一部緑を残しながら造成され横浜国立大学の研究棟が徐々に建設されて、1973 年（昭和 48 年）に全学部に移転が完了し、かつての名門ゴルフ場の面影を残しつつ横浜国立大学に変身しました。

それから約 40 年が経過した現在、ゴルフ場の面影は全く消え、かつての芝の緑のフェアウエーとグリーンに代わり、高い樹木の濃グリーンと変わりました。

残された用地には、1974 年（昭和 49 年）に常盤台みどりヶ丘が、1977 年（昭和 52

年）に桜美林ハイツ（中央東部地区連町）が、1983 年（昭和 58 年）に桜台ハイツ（中央東部地区連町）が、2001 年（平成 13 年）にアンジュの丘が建設されました。

## 程ヶ谷カントリー倶楽部の主な歴史

- 1922年(大11) 程ヶ谷カントリー倶楽部発足
- 1923年(大12) 18ホールのコースとクラブハウス完成
- 1926年(大15) 第1回全日本ゴルフ選手権大会開催、  
会員赤星四郎氏優勝
- 1927年(昭2) 第1回全日本オープン選手権開催、  
優勝は会員赤星六郎氏
- 1941年(昭16) 失火によりクラブハウス焼失  
戦時下キャディを廃止 第2次大戦中、  
戦後の苦難
- 1942年(昭17) クラブハウス復興
- 1944年(昭19) インコースを閉鎖し芝を海軍飛行場の  
ために供出
- 1945年(昭20) 戦局悪化に伴いコース閉鎖  
終戦後米国第8軍のオフィサーズ・  
クラブとして接收
- 1946年(昭21) コース開場、米軍の使用に供された
- 1950年(昭25) 米軍使用中のクラブハウス焼失
- 1952年(昭27) 接收解除、日米共同使用に
- 1953年(昭28) クラブハウス落成
- 1957年(昭32) 所属プロ中村寅吉氏が霞ヶ関CC開催の  
カナダカップ(現ワールドカップで優勝)
- 1967年(昭42) 旭区に移転開場

## 峰岡町と常盤台の誕生

昭和 2 年横浜市が区制を施行し、同時に保土ヶ谷町が横浜市に合併して保土ヶ谷区となりました。そして保土ヶ谷町の一部、旧帷子町が帷子町・天王町・宮田町・峰岡町に 4 分割されました。

ここに峰岡町（現峰岡町一丁目～三丁目・常盤台・釜台町が範囲）の誕生となったのです。峰岡町の旧名は「神奈川県橘樹郡保土ヶ谷町字峰」であったが、この時を機に、この地に功績のあった岡野欣之助の「岡」を加えて「峰岡町」と命名されました。

そして現常盤台地域の常盤台の地名は、横浜市保土ヶ谷区峰岡町字常盤となりました。



## 常盤台の誕生と戦時中

昭和15年に市の大規模の町再編成が行われ、峰岡町から常盤台と釜台町が分離され、常盤台となりました。常盤台の誕生です。常盤台の旧名は峰岡町字常盤でしたが、常盤地域は台地であったために「台」を加えて「常盤台」と命名されました。

その直後の昭和16年太平洋戦争に突入しました。当然ながら全国民は臨戦態勢に入っていました。5年間続いた戦争の終盤は惨憺たるもので、首都圏内にある横浜市は東京と同様大空襲を受けました。

資料によると昭和20年4月15日天王町が空襲を受け壊滅炎上、宮田、峰岡町の一部が被災した。5月に入り2度の大空襲を受けた。24日、B29爆撃機250機が来襲、区内各地の他、釜台、峰沢、宮田が被災、次いで29日、爆撃機B29が500機、戦闘機100機が

来襲、横浜全土、川崎の一部が総爆撃を受けた。当然のように峰岡町、和田町、星川、等々が火の海と化した。この日の空襲で横浜市域の44%の市民が罹災した。この様子は当時峰岡町にお住いの望月后子氏が「幼きころのわがまち」と題し自身の体験として投稿をいただきました。この2か月半後の昭和20年8月15日、日本は無条件降伏し敗戦国として終戦を迎えたのです。

## 常盤台小学校と保土ヶ谷中学校の開校

戦後の常盤台地域は、そのほとんどが雑木林等の山間部で数十戸の人家しかなかったために、公共の施設である小中学校はありませんでした。当時の児童（小学生）は星川小学校（現地）に通学していましたが、昭和32年常盤台地区の児童数が増加したために、星川小学校常盤台分校として現在地に開校しました。そしてその3年後の昭和35年に独立し常盤台小学校が誕生したのです。



昭和8年の星川小学校

戦前の教育制度は義務教育として尋常小学校の6年間でした。この上に2年間の高等小学校があり引き続き勉強をすることができました。一般的には小学校を卒業すると、男子は中学校、女子は高等女学校（ともに5年制で共学ではない）に進学しますが、その数は非常に少なかったといえます。終戦後の昭和22年新制教育制度が公布され現在の6・3・3制が導入されました。

そんな教育制度の変更で、昭和22年に保土ヶ谷中学校は誕生したのです。当時の旧制神奈川第2中学は現横浜翠嵐高校となり、新生中学校の新設が急がれました。しかし、その建設は保土ヶ谷区内が戦禍のため建設がで



きず、後の保土ヶ谷中学校初代校長が神奈川県立横浜第二中学校（現横浜翠嵐高校）の教師であったという関係で、二中の一部を仮校舎として開校したのです。しかし、この場所は神奈川区内であったために保土ヶ谷区の中学であることを明確にする必要があり、あえて「保土ヶ谷中学校」と命名しました。翌年の23年に西谷校舎に移転し、昭和29年に現在地に校舎を新設し移転したのです。

---

## 常盤台を変えた横浜新道の開通

---

横浜新道は道路交通の緩和対策として常盤台から戸塚区上矢部間10.1kmが昭和34年（1959年）に開通しました。その後、昭和40年に開通した第3京浜道路との連絡路が昭和43年（1968年）に全線開通し、東京都の世田谷方面に通ずる主要道路となりました。昭和48年（1973年）保土ヶ谷バイパス（保土ヶ谷区から町田市へ至る国道16号のバイパス道路）の開通により交通量が増大し、横浜新道保土ヶ谷トンネル（東部自治会から峰岡町三丁目を通るトンネル）の拡幅工事に入り、平成8年（1996年）に完成全線開通しました。



開通時の横浜新道、上方は峰岡町三丁目方面

この横浜新道の開通は、横浜のチベットと言われていた常盤台地域を利便性の高い地域に変革し、更に峰岡町三丁目町内会には大変大きな影響を与えました。

昭和34年に開通した横浜新道は、峰岡町三丁目町内会の中央部を横断しました。これにより本線上および周辺の住民は立ち退きを余儀なくされ、また開削の本線は町内会を2分し、1本の橋で繋がるだけという変貌は町の環境を大きく損ねました。

その後交通量の増加により、平成8年に行われた拡張工事で、懸案の開削本線はラーメンカルバート（箱型構造）とトンネル構造に改良されて、37年間続いた町内2分割の悲劇はようやく解消されました。

拡張後のトンネルの上部には公園（峰岡町三丁目公園）が造園され、町の環境は大きく改善されました。ちょうどこの時期、新町内会館建設が検討され用地で苦慮していた矢先、幸運にも高速道路拡張工事により生じた南側高架部下の用地の提供を受けられることにより、新会館を建設することもできました。

横浜新道が開通して半世紀余り、峰岡町三丁目町内会は相互理解に基づき横浜新道との共存を図っています。（小金井庫雄町内会長談）



峰岡町三丁目公園

---

## 常盤台地区連合町内会の発足

---

昭和30年代から近年までの記録については、連合町内会発足当初から長年にわたり、役員として運営に参画してこられた、峰岡町三丁目在住の鈴木好行氏に寄稿いただいた「常盤台今昔物語」を以って歴史の記録にさせていただきます。

### 常盤台今昔物語 <鈴木好行>

『温故知新』（古きを尋ねて新しきを知る）古い物事を研究して、新しい知識や見解をひらくという言葉がありますが、今日では「過去の事実を探り、現在の姿を確認する」と言ったような言葉としても使われているようです。

今年も、恒例の常盤台地区連合町内会主催の「納涼盆踊り」が開かれ、小学校の校庭を埋め尽くす程の千余の近隣住民が集まり、校

庭に建てられた架設のヤグラを中心に、浴衣姿の老若男女が音楽・鳴り物に合わせて賑やかに踊り、又、各自治会、町内会の役員の奉仕による、各種屋台の出店などもあって、土曜の一夜の楽しい時が持たれました。

本年は特に地域の横浜国立大学長および同大学に学ぶ外国人留学生も引率教授と共に多数参加し、浴衣姿で踊りの輪に加わって、国際色豊かな盆踊り大会となりました。誠にこの様な地域住民の数少ない文化交流は、私たち地域での大事な活動の一つであると共に、まちづくりのための貴重な財産でもあります。

「常盤台地区が、この様なまちに発展してきた姿を、過去の歴史を踏まえて何か記録に残せないだろうか」と、連合町内会の会長さんのお話もあって、それでは過去について知る人が少なくなってきたので、記憶に残っているものを掘り起こして文章に残せたらと思い立ち『常盤台今昔物語』として記した次第です。

#### 連合町内会の発足

常盤台地区が、現在の様なまちに発展してきたそもそもの発端は、大正から昭和の初期に懸けて、横浜の文化の発展に数々の功績（昭和2年の第1回全日本オープンゴルフ選手権大会の開催など）があった「程ヶ谷カントリー倶楽部」が、昭和42年に常盤台から南瀬谷へ移転し、残された広大な跡地（現横浜国大）周辺の宅地造成を含め、並行して地域行政の指導に因る、まちづくりが始められたところから考えることができます。

それまで常盤台には自治会組織として、大池道路に沿って常盤台西部及び北部、東海金属常盤台（後に常盤台西部に合併）、やよい、住好、事業団ときわ会等の各自治会が既にあって、更には又、常盤公園周辺の常盤台東部及び中部、住友銀行保土ヶ谷寮、日本鋼管常盤台アパートそして常盤台南側の斜面には、和田75番地等の自治会が、何れも和田地区連合町内会に加入して、行政からの連絡事項等を受けてまちづくりをしていました。

そこでこの時期常盤台地区の自治会は、なぜ和田地区連合町内会に加入していたかということですが、昭和7年に保土ヶ谷区内の21連合町内会が組織化され発足しています。こ

ころの常盤台地域はまだ未開地で連町設立基準の自治会数及び戸数に達していなかったために連町の設立はできませんでした。従って行政の指導でやむを得ず先発の和田地区連合に加入していたということです。



常盤台自治会当時の運動会（昭和30年前半常盤公園で）

時が進み、40年後の昭和47年になり、ようやく峰岡町三丁目町内会の賛同を得て常盤台地区連合町内会が発足しました。当時、峰岡町三丁目町内会は峰岡町一丁目・二丁目・川辺町などの中央地区連合、或いは和田・釜台・上星川（後に上星川地区連町として独立）などの和田地区連合に挟まれて、どちらかに加入を迫られていましたが、会長さんの決断で常盤台地区連合に参加することになりました。そこで常盤台各自治会に峰岡町三丁目町内会500戸程が加わるに及んで10自治会町内会、総戸数約1200戸となり、常盤台地区連合町内会の誕生となったのです。



その後数年して、和田75番地自治会が和田西部町内会に、やよい会自治会が釜台町内会に合併し、新たに横浜国大東側の戸数約95戸のみどりが丘自治会が加入。更には、事業団ときわ会（後に常盤台西部自治会に合併）・住友銀行保土ヶ谷寮や日本鋼管常盤台アパート自治会の様に建物が撤去されたために消滅した自治会や、新たにマンションの自治会組



織が幾つか加入して、現在の体制になりました。

今はもう、伝説的な話しとなってしまいましたが、古くからの自治会・町内会には、其の地域の鈴鐺たるボス的な会長さんが居られ、例えば元警察署長や、東大の法科を卒業し、或る有名な政治家の秘書だった人とか、戦後の農地委員・消防団長、或いは元新聞社の政治部次長などなど、経験豊かな従って話題も豊富な会長さんがいて、毎月開かれた各自治会・町内会の会長さんで構成する連合町内会の理事会は賑やかなものでした。特に前半の極めて事務的な行政からの連絡事項等が終り、後半アルコールが入ってそれぞれの思い出話や地域の話が出てくると、俄然テンションが上がって、どちらが本当の理事会の議事が解らなくなってしまう事がしばしばでした。



運動会で優勝した北部チーム1967年（昭和42年）

連合町内会の行事として夏の盆踊りは伝統的なものでしたが、「何か家族全員で楽しめる行事はないか。運動会をやるんじゃないか。」という話しが起こり、理事会の賛成を経て計画がすすめられました。幸い常盤台小学校の校庭や、用具一切は学校から借りると云う事で企画されましたが、経費負担の予算面で行き詰まってしまいました。当時、町内会費は自治会ごとに違って、一戸月あたり100円から千円とパラパラで、戸数も40戸から500戸で、戸数割でも比例割でも賛成が得られず、結局計画はまとまりまらず、常盤台自治会の4地区（東部・西部・中部・北部）で行いました。

やがて、新たな幾つかの自治会組織が加わる様になって、町内会長も交代制にしようと

言う機運が高まり、長く続いた会長さんも高齢化と共に次々と消えてゆきました。

### 夏の盆踊り大会

常盤台小学校のプールが校庭南側の道路に面したところから、現在の場所に移設されたのは昭和55年頃で、それまでは現在のプールの周辺付近の住宅地を含め結構広い原っぱでした。そこで毎年丸太で盆踊りのヤグラが組まれ、町の電気屋さんがライトで会場を明るく照らし、7月終りか8月初めにかけての金・土・日の三日間、常盤台地区盆踊り大会が開かれておりました。露天商の色々なアメ細工の店も出て、子供も大勢いたので大変賑やかなものでした。それが数年続いた後、小学校の校庭に会場が移されてからは、東海金属常盤台自治会より、ビル建築用足場の鉄製パイプや組み立て金具等一式の寄贈があり、毎年の盆踊りの時には、連合町内会の役員や各自治会の若者有志が盆踊り初日の朝早くから、大勢が総出で舞台作りに汗を流したものでした。

こうして年々参加者も増え盛んになってきましたが、かけられる音楽は炭坑節と東京音頭だけでしたので、「常盤台音頭を作ったらどうか、」という話しが理事会で持ち上がり、昭和57年。予算僅か5万円で現在の『ときわ台音頭』が出来上がりました。

- 一、ハアー 浜の西北 緑の丘に  
そよぐそよ風 そよぐそよ風 ときわ台  
(くり返し) ソレ シャン シャン シャン  
と打ちや 心も躍る  
おどりや輪になって しゃしとね！
- 二、ハアー 西を仰げば 富士のお山に  
夕日まばゆい 夕日まばゆい ときわ台
- 三、ハアー 浜の早・慶 昔を偲ぶ  
学都そびえる 学都そびえる ときわ台
- 四、ハアー 朝に夕べに 行き交う人の  
交わす笑顔の 交わす笑顔の ときわ台
- 五、ハアー 垣根連ねる 明るい家庭  
いつも変わらぬ いつも変わらぬ ときわ台

作詞・作曲 鈴木 好行

この歌が出来上がった時、調べて見ましたら常盤台と言う地名が、全国に15近くありましたので、もしもこの歌が広まれば、保土ヶ谷・常盤台も有名になるのではないかと、つまらない事を考えたものでした。この歌を作ったのは、作詞も作曲も全くの素人の私でしたが、幸いな事にみどりが丘の自治会に、上野の音楽大学の先生が住んでおりましたので、楽譜の監修をお願いし、又その先生の紹介で同音楽大学の邦楽科大学院の方に編曲と楽譜を書いてもらい、僅か5万円のお礼を払って出来上がったのでした。更に、編曲された楽譜を基に、横浜国大・邦楽研究会の学生諸君のご協力を得て、テープに収め使われているのが現在のものです。



準備中の出店 2008年(平成20年)

昼間の体育館では、常盤台地区の色々な趣味をお持ちの方々による品々が展示され、こちらもまた、豊かな文化交流が成され、冒頭記しました様な自主団体のイベントとしては他に類を見ない華やかな活動となったのです。

やがて、北部の山口自治会長が連合町内会長になった頃から、土・日曜の2日間の開催は翌日が月曜日のため、片付けが高齢者ばかりとなり危険ということで、廃止論もでる中で土曜日の晩一夜にはなりましたが、各自治会による各種出店が復活し、コカコーラやビール、焼きそば・焼き鳥、子供のオモチャなども売られて、会場は益々盛り上がりを見せるようになりました。盆踊りで流される音楽も、年寄りから子供までの希望に合わせて、いろいろな歌が流されるようになりました。

#### 文化やスポーツの活動

連合町内会の中にも、民生委員・防犯指導員・体育指導委員・青少年指導員・家庭防災員等、

連合体に次々と活動団体が委嘱され、横の連絡の為に必要に迫られて、連合町内会内に事務局を置くことになり、体育指導委員の地区会長が事務局長を仰せつかる事になりました。その活動も連合町内会設立当初から平成2年まで約20年近く続きました。

民生委員、防犯指導員や家庭防災員は、広く住民と普段に関わる活動ではありませんでしたが、新しく委嘱された体育指導委員、青少年指導員の活動は目覚ましいものがありました。体育指導委員は常盤台地区で会長を初め7名が委嘱されて主に小学生のスポーツ振興を計る目的で活動が開始され、夏休みを利用した小学生男子のソフトボール、小学生女子のミニバスケットボールは、地区予選会を開いて保土ヶ谷区大会に出場するというほど盛んなものでした。特筆すべき事は、子供達を指導してくれる小学校の教師や、保護者の中のスポーツ経験者が、熱心に指導してくれたことです。区の大会の成績では常に上位を占め他の地区の模範となっていました。また、主に青少年指導員が指導しておりました年末年始の百人一首かるた会、夏休みを利用した林間学校なども、大勢の子供達が参加して年々盛況裡に行われました。



赤城山キャンプ 1982年(昭和57年)



区新春かるた大会 1994年(平成6年)



## 横浜国立大学とのまちづくり

横浜国立大学の常盤台キャンパスの主な概要

- ① 敷地面積 45.6ha (138,000 坪) この面積は常盤台全体の約 41% を占めています。
- ② 教職員数 895 人
- ③ 学生数 7,071 人
- ④ 大学院生数 2,716 人 総数 11,312 人

(2011.5 月)

名門ゴルフ場、程ヶ谷カントリー倶楽部が輝く歴史と広大な施設とを残して旭区に移転していったのが 1967 年（昭和 42 年）のことです。整備されていたコースも雑草が伸びてアッ！という間に原っぱに変わって 6 年、1973 年（昭和 48 年）には一部の学部が建設され移転してきました。その後徐々に移転が進み 7 年後の 1979 年（昭和 54 年）に移転が完了しました。

それから 35 年が経過し、当時のゴルフコースの写真と建築されたばかりの学舎の写真、また現在のみどり豊かなキャンパスとを比較し重ね合わせてみますと、構内に今立つ高い木々、巨木の緑とが重なります。多くのゴルフコース内の木々が伐採されずに残されていることがわかります。



横浜国立大学と連合町内会との真の関係は移転から 33 年も経過した 2005 年からのことです。その間は互いに儀礼的に年に 1 回の協議会と称する会議が行われていましたが、実りある関係は築かれませんでした。その間に発生した事件としては、1970 年（昭和 45 年）の大学の移転中に発生した、「新左翼内ゲバ事件」、当時は全国で学生運動が盛んな時期、国大周辺には日夜装甲車が待機していた時で

もありました。また構内は地域とは別世界の地で、当然ながら自由に出入りできませんでした。

相互交流の契機となったのは 2004 年（平成 16 年）に国立大学が法人化され、地域との関係がより重要視されてきた時に、一般公務員としては異色の白石総務部長が新たに就任したこと、および連合町内会会長が第七代山口会長に交代したこと、により相互の思惑が一致したことにあります。トントン拍子ですべての懸案事項が改善され、ついには連合町内会の月例定例会に国大も参加するということになりました。この状態は当時としては全国でも初という異例のことでした。大学の情報は行政よりも先行して得ていたという状態で、区役所と国大の仲介をしたという時期もありました。

2012 年（平成 24 年）現在では、国大も連合町内会の一員として、すべてに対して即時に対応を頂いています。また大学当局だけではなく、学生サークル、個々の教授ゼミ、学内勉強会等々まで公開され、地域の主行事には学長の参加をいただくまでになりました。常盤台地区としては最良のまちづくりが出来ています。

### 国大との主な初期交流の記録

- 学外地域感謝状第 1 号を受賞  
(国大ホームページから)

平成 19 年（2007 年）永年にわたって校内の環境美化にご協力いただいている常盤台北部自治会の鈴木悦子さんに、常盤台地区連合町内会役員立ち会いのもと、学長から感謝状が贈呈されました。

これに先立ち、本学では「感謝状贈呈要項」を制定し、学外の個人又は団体で「教育研究の進展に多大な貢献があったもの」「学生及び教職員の福利、厚生の向上等に多大な貢献があったもの」「その他これに準ずると認められるもの」に感謝状を贈呈することとしたもので、今回が感謝状贈呈の第 1 号となりました。

この表彰で大学と地域との相互理解が一層深まりました。

## 連町と横浜国大との関係が新聞に大きく掲載される

この時期、地域と国立大学とのこのような関係は全国的にも非常に真新しく、マスコミにも大きく取り上げられました。中でも地域新聞である神奈川新聞社は、1面のトップ記事として掲載（2007年1月8日）、また社説として（2007年3月8日）取り上げられました。

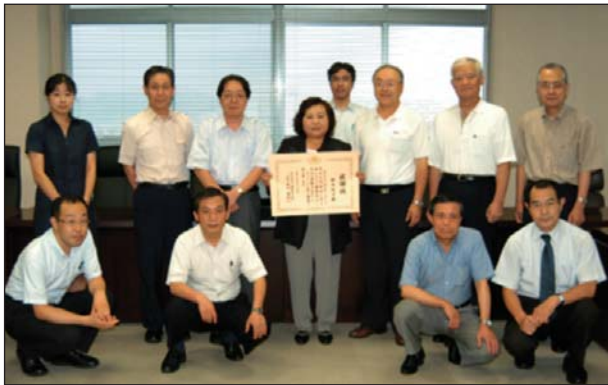
常盤台地区連合町内会と横浜国立大学との関係を取り上げて掲載された新聞社とその記事（添付ディスク内の資料をご参照ください）

### ○神奈川新聞

2006年 11月21日 「定年後の力大学に集合」  
2007年 1月8日 「自治会加入呼びかけ」1面トップ  
2007年 3月8日 学生の自治会加入  
「活力生む担い手となれ」社説

### ○毎日新聞

2007年 7月21日 国大祝賀会  
2007年 9月17日 「地域の中のキャンパス」  
支局長便り



鈴木副学長（現学長）から感謝状を受けた鈴木さんと連町・国大関係者



鈴木さんが育てているお花畑（国大北門）

## 念願の福祉施設の建設

2009年10月、（平成21年）常盤台地区地域ケアプラザ・コミュニティハウスが開所しました。これは連合町内会発足以来の念願でした。残念ながら常盤台地区は保土ヶ谷区の中でも中心部から離れていて、区内の優先順位からすると整備が遅れている地域でした。歴代の会長はその必要性を訴えて陳情を繰り返してきたにもかかわらず、その効果はありませんでした。

この施設の建設も行政側からの贈り物ではありませんでした。連合町内会の役員が一致団結して行政に建設させたものです。それは行政に先駆けて国大との共生を果たしたこと。連合町内会内部の改革により、より積極的な団結した連合町内会に変わっていたこと。更には連町として政治的なつながりを得ていたこと。等々です。

この施設が建設されて3年が経過した今日、保土ヶ谷区内でも誇れる連合町内会、および社会福祉協議会の活動拠点として地域の発展のためには欠くことのできない場所になっています。



開所記念コンサートでの保土ヶ谷中学校吹奏楽部生徒と常盤台連町から寄贈された造花





## 幼きころのわがまち

峰岡町三丁目町内会  
望月后子

国道 16 号線からみえる小高い丘陵地、その中腹に私は生まれました。2 歳の時横浜大空襲に遭遇し、警報サイレンが鳴り響く中を祖母に背負われて急坂を駆け上り常盤公園まで避難しました。公園にはすでに投下された焼夷弾の残骸がゴロゴロとしていたのが思い出されます。(資料によれば横浜大空襲は昭和 20 年 5 月 29 日で星川・神奈川区反町の被害が大きかった) それからしばらくして終戦となりましたが、終戦直後はご近所で未亡人となったお宅に進駐軍の兵士が出入りするようになり、私たち子どもはただでもらえるチョコレートを求めて言葉の意味も分からず「ギブミーチョコ」と言いながらおねだりをしたものです。

私の家の近くには「レンガ坂」という坂道があります。この道は昭和 10 年に横浜市水道局が西谷浄水場から鶴見方面へ送水するために造られた水道道です。

坂道には全面に赤レンガを敷き詰め、みなとみらいのレンガ倉庫を思い浮かべる、とてもきれいな坂道でした。戦後水需要が多くなりこの坂道の片側に水道管(直径約 140cm)が露出配管され、子供のころはその管を上り下りして格好の遊び場でしたが、やがて水道管は地下に埋設されました。

平成 10 年頃地域で下水道工事が行われ、だらだら坂であったレンガ坂はゆるやかな階段形式になり、昔を偲び踊り場だけにレンガを残して改修されました。



レンガ坂



桜道橋(平成12年)

現在の国道 16 号線の和田町バス停と峰岡町バス停の間に「常盤園下」というバス停がありますが、その脇から通じている細い道路がレンガ坂の頂上につながり、更に進むと常盤公園の正面入り口に突き当たります。この道路は「公園坂(富士見坂)」といわれ、明治の後期から大正初期には「三溪園」にも匹敵するといわれていた名園「常盤園」への道でした。この公園坂の両側には桜が植えられていて、花見時期には花見

客で押すな押すなの大盛況であったといえます。残念ながらこの名所は、昭和 28 年に横浜新道の工事とともに行政道路の建設で、丘が V 字型に掘削されて 2 分割されてしまいました。その 2 つの峰をつなぐ架け橋には、かつて栄えた「公園坂の桜」に思いをと「桜道橋(さくらみちはし)」という素敵な名称がつけられました。この公園坂も現在は過去の面影は全く見られない一方通行道路となっています。ぜひ華やかな過去を想像して訪ねてみてください。

峰岡の丘の頂上には「稲荷神社」がありました。斜面を利用して幾重にも赤い鳥居が続きその頂点に社(やしろ)がありました。下から見上げると鳥居の赤い行列は天にも届くようでした。その鳥居をくぐりながら「お狐さん」に会いに行くのも一つの楽しみでした。このお稲荷さんも、公園坂と同様に行政道路の建設により昭和 30 年に反対側の三角地(恵風ホーム前)に移転され、名称も「常盤稲荷」に変わりました。



## 昭和15年 秋の思い出（常盤園内での暮らし）

常盤台東部自治会

川田勝美

昭和15年の秋、この年は町名再編成により峰岡町から分離独立し「常盤台」が誕生した年です。また常盤台の東部地域一帯は、すべてが常盤園の一部であった時期でもあります。現在と全く違っていった東部地域と照らし合わせてその様子を思い出してみました。

私は10歳の昭和14年の秋、家族と共に西区西前町（西区役所付近）から、常盤園内の池のほとりに移り住みました。当時の東部地域の番地は「保土ヶ谷区保土ヶ谷町字帷子1103番地」でしたが「保土ヶ谷町帷子字三本松」のほうが一般的には使われていて、郵便物などはすべてこの俗称で届きました。それはこの地に大人二人でやっと抱えるほどの松の大きさが3本あったからです。そのうちの1本は広大なブドウ園の中にあり、（現在の常盤台25-5付近）、2本目はヒルズに向かう坂道の左側（常盤台20-2付近）、3本目は程ヶ谷カントリー倶楽部のコース内（現在の国大グラウンドで横浜新道入口付近）にありました。

当時この東部地区付近には私の家と道を挟んですぐ前に程ヶ谷カントリー倶楽部の支配人をされていた河野宅の2軒だけで、約300m先の国大南門入口までの間に8軒点在してありました。



園内の池とあずまや

ゴルフ場に向かう左方の低地には2つの池がありました。その1つは、私の家の前（現在のガストの裏側から常盤公園横に通じる坂道あたりまで）の池で（19番地から23番地）広さは3反3畝（約1,000坪）ありました。鯉、フナなどの魚が泳ぎまわる池の中ほどには小島があり、島に造られた丸い屋根の下で休むこともできました。この小島にはミカン箱ほどの小さな朽ち果てた姿の祠があり、その姿を見た母（川田セツ）が「かわいそうだ」といって自宅の庭に「弁天堂」を安置しご近所の奥様方と毎月祀りました。

この池とつながって現在の常盤公園の脇に沿って約2,000坪の細長い楕円形の沼地があり、ここでは食用ガエルや鯉の養殖、花ショウブの栽培が行われていました。この鯉と花ショウブは、本牧の「三溪園」ともやり取りをしていたと聞いています。春には花ショウブが咲き乱れ、夏の夜は不気味な食用ガエルの鳴き声と、多くのホタルが乱舞する自然豊かな場所でした。

沼の片側には半円形の道路が通り、ブドウ園側150mほどは桜並木で春には多くの花見客でにぎわいました。道路のもう片方側は斜面に沿って広大なブドウ園が続き、道路とは「カラタチの生垣」で仕切られていました。春には真っ白な花をつけ、秋には黄金色の実をつけ、とてもものどかな田舎の風景でした。後年この池は、横浜高島屋建設時の残土によって埋め立てられました。もう一つの池は300坪ほどで現在の国大南門入口の下方（中部自治会）にあり、こちらにも鯉がたくさんいました。



ブドウ棚とその奥は程ヶ谷カントリー

現在のヒルズ団地とコスモ団地一帯と常盤公園の正面側（桜林）を除く全地域は広大な梅林と萩



が植えられていました。梅林への表玄関道として、公園坂（現在の峰岡町三丁目常盤園下バス停から常盤公園正面まで）でしたが、裏側からは池の脇から渡された「根っこ橋」（丸太の橋）を渡り梅林に行くことができました。（現在の常盤台 16-1 に橋が架かっていた）

梅林はもう一か所、現在の中部自治会館周辺一帯にありました。その梅林の周りが道となっていて梅林の形状が「カメの甲羅」型であったために、この梅林を「亀ノ甲山梅林」と言っていました。この梅林を囲んだ円周道路ではオートバイ競技等が行われていました。

現在の常盤公園入口の右側付近（常盤台 14 ～ 16）は広大な竹林で、竹林からは小川が流れだし池への流入口ではシジミ採りをしたこともあります。こんな穏やかな周辺でした。

この公園は全域が岡野欣乃助の別荘地でしたが、氏は昭和 4 年に亡くなられています。その後常盤園はどのように変わってきたのかということについては、直接知る資料はありませんが、岡野氏の没後、大日本雄弁会講談社（講談社の前身）が所有し管理していたようです。その後、昭和 17 年に公園の一部（全体の 1/6）を横浜市が買収して名称を「常盤公園」と変更し、残りの 5/6 も所有者が徐々に細分化されて現在に至ったのだと思われます。



園内の桜

岡野氏の別荘は、現在の「恵風ホーム」の場所にありました。父（川田修三）の話ですと、この別荘は元来東京の白金台にあり、天皇もお泊りになったほどの書院造りで名のある建物を移設したものだといっていました。そして昭和 21 年頃までは講談社の書生 3 名が管理していました。その後昭和 25 年に父が講談社からこの物件を購入し、翌昭和 26 年「横浜市老人ホーム常盤寮」（現在の恵風ホーム）建設のために横浜市に売却をしました。横浜市はこの別荘を解体し、「恵風ホーム」を建設しましたが、解体屋さん、解体費用以上に骨董等の多くの副収入があったのではないかと父は言っていました。




講談社と親交のあった父は別荘の管理長を引き受けたために、私も 17 歳から 20 歳までこの別荘で生活し、父から小遣いをもらって掃除を手伝っていましたが、あまりの広さに非常に大変でした。この別荘が、岡野氏が移築した別荘であったのか、後の講談社が移築した野間社長の別荘であったのかはわかりませんが、素晴らしい別荘でしたのでその概要を記録として残したいと思います。

- ・ 木造瓦葺平屋建居宅（書院造）・木造瓦葺塗家 2 階建倉庫（蔵）9 坪・物置 3 坪
  - ・ 地積 2,710 坪 庭には太い梅の木
  - ・ 建坪 121 坪 間取り 15 部屋（大広間 40 畳）
  - ・ 大広間 三方畳廊下・天井は 50cm 角の牡丹、あやめ等の絵柄枠がはめ込まれていた。
  - ・ 襖は百人一首の絵が金屏風のように描かれていた。
  - ・ 各部屋 床の間付き 違い棚には高価な焼き物が置かれていた。
- （間取り図等関係資料は資料編参照）

### 常盤園（岡野公園）の広さ

現在の常盤公園は当時の公園入口付近（全体の 1/6）だけで、昭和 17 年に横浜市が買収し開設した公園です。元来の常盤園（岡野公園）の敷地は、現在の東部自治会・中部自治会・ヒルズ自治会、コスモ自治会の全地域、国大の一部、峰岡町三丁目町内会の一部、和田地区の一部までであった。

## 歴代会長の横顔

会長名	就任期間	年	主な実績	性格・嗜好・エピソード	出身自治会
 初代 春原 博	昭和47年4月 ～ 昭和54年3月	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦中・戦後農地委員として活躍</li> <li>・連合町内会の創設・初期整備</li> <li>・横浜国立大学学生闘争対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「朴訥(ボクトツ)」という言葉が合う誠実な人</li> <li>・詩吟を楽しんでいた</li> <li>・酒は飲まない</li> <li>・たわしで手足を鍛えていた</li> </ul>	峰岡町三丁目町内会
 二代 飯田清蔵	昭和54年4月 ～ 昭和61年3月	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区老連会長に就任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記者として政治、社会に明るい人</li> <li>・酒の席では有名人の裏話</li> </ul>	常盤台東部自治会
 三代 金子重春	昭和61年4月 ～ 平成3年3月	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保土ヶ谷中学校の先生もされた(昭和34年頃)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校長経験で教育者として謹厳実直</li> <li>・ゴミ出し違反者には厳しく対応等厳格な人</li> <li>・酒が大好き</li> <li>・囲碁を楽しんでいた</li> </ul>	峰岡町三丁目町内会
 四代 川田敏夫	平成3年4月 ～ 平成5年3月	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・先代からの常盤台居住で地元事情に詳しく温厚な方</li> <li>・常盤台の父といわれた川田修三氏の長男</li> </ul>	常盤台東部自治会
 五代 高崎治郎	平成5年4月 ～ 平成14年3月	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治会役員間の連携強化</li> <li>・福祉施設建設のため尽力</li> <li>・国大関係の基礎固め</li> <li>・会長就任期間9年と歴代会長中最長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役時代は営業、交渉のうまい人</li> <li>・新たな発想と実行力のある人</li> <li>・人当たりの良い人</li> </ul>	常盤台北部自治会
 六代 齋藤 馨	平成14年4月 ～ 平成17年3月	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社会福祉協議会長兼務</li> <li>・役所との関係に尽力</li> <li>・福祉施設建設のため尽力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・煙草と酒をこよなく愛し、地域をくまなく歩いて実情を知り、飾らない人柄で誰彼となく相談に乗り、常盤台の生き字引として、世話人として地域の発展に尽力された最後の長老</li> <li>・道理には厳しい人</li> </ul>	峰岡町三丁目町内会
 七代 山口和秀	平成17年4月 ～ 平成22年3月	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則改正・新組織体制の確立</li> <li>・横浜国立大学との連携確立</li> <li>・常盤台地域ケアプラ・コミ八建設</li> <li>・羽沢駅周辺まちづくり協議会副会長</li> <li>・40年史編集刊行責任者</li> <li>・連町役員人材発掘に力点</li> <li>・地区社会福祉協議会会長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春原初代会長とは親戚、同様朴訥な人</li> <li>・酒が大好き、宴席での会を大事にしていた</li> <li>・趣味が多彩で囲碁、マージャン・ゴルフ・園芸・海外旅行記、写真撮影等を楽しんでいた。</li> <li>・パソコンを習得していて、40年史歴史発行では中心的に活動</li> </ul>	常盤台北部自治会
 八代 有澤文紀	平成22年4月	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体制の促進</li> <li>・新時代に向けた連町改革</li> <li>・連合町内会創設40年史の刊行</li> <li>・人材の育成</li> <li>・「地域支え合い」の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連町副会長7年。会長として常盤台に新風を吹き込んだ。</li> </ul>	コスモ横浜常盤台公園自治会



## 連合町内会40年を振り返って (歴代役員と識者による座談会)



常盤台地区連合町内会は平成24年(2012年)5月をもって設立40年を迎えます。そこで過去において連町の運営に携わってこられた役員の皆さんと連町設立前からこの地にお住まいで記録の残されていない空白の時代に役員として、また世話人として尽くされた長老の皆さんにお集まりをいただいて「常盤台地区連合町内会40年を振り返って」と題してお話をお伺いしました。

●印は司会者(第八代会長 有澤文紀)



### 連町設立以前の常盤台地域の環境

●区役所の資料によりますと常盤台地区連合町内会の設立は、昭和47年5月となっています。最初に連町設立以前、つまり昭和47年以前の常盤台地域と周辺的环境について、当時からこの地にお住まいであった角田さんから伺います。

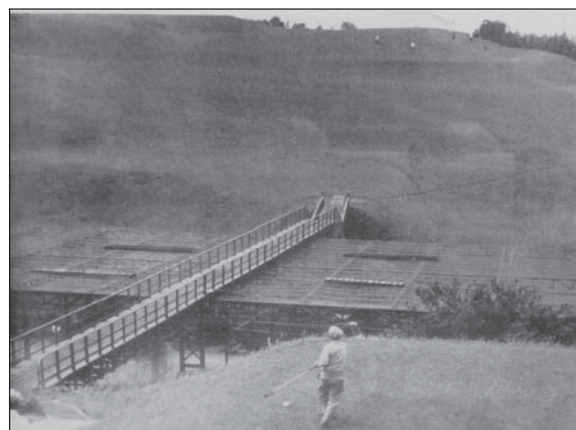
**角田** 私は85年前(昭和2年)に現在の岡沢町バス停(国大正門)前にあったゴルフ場建設のための人夫頭の長屋で生まれました。今日ご参加の横溝さんも同様でした。昭和10年までそこに住んでいましたが、当時我が家付近には家は少なく数えるほどでした。常盤台地区全体でも50戸～60戸くらいではなかったかと思います。



**横溝** 当時はゴルフ場の周りは芦原で芦の中に菖蒲が咲いたりしていました。11番コースは道路の両側にあったため幅20mの道路上(現在の横浜新道)に網が張られトンネルになっていました。



**角田** 私なんか網の上のゴルフボールを拾っては3銭～5銭で稼いでいました。程ヶ谷カントリーは36万坪あり、その1/4が道路の反対側(現国大グランド方面)にありまし



横浜新道の上に架かる橋

た。また、当時は現在の港北区、緑区等から牛車に桶を20個くらい積み、肥料用として「肥やし」(人糞)を集めにきました。そんなことから私の家の前の道路は「肥やし街道」と呼んでいました。

●いろいろな職業があったようですが、この地では当時はゴルフ場に関わっていた人達が多かったようですね。そんな名門コースでプレーをした方はおられますか。

**北川** その頃は雲の上の人々の遊技場でした。勤めていた人は別ですが、私たちはゴルフ場の休日にコースの脇から無断で侵



入しこっそり遊んだことはあります。

**角田** その後私は北部でお世話になりましたが、現在の大池道路から上の部分の地域は「八町八反」と言われ、一面の雑木林でした。そして船員保険病院あたりから保土ヶ谷中学校あたりまでは一面のブドウ園が広がっていました。

**山口** 資料によりますと、岡野公園（現常盤公園）の所有者であった岡野氏の影響で、現東部自治会内の国大と接している辺りの住宅地（常盤台住宅）は「帷子葡萄」として広くぶどう栽培がおこなわれていたとあります。また、現横浜船員保険病院あたりのブドウ園は「和田山ブドウ園」と呼ばれていたようです。この葡萄は、年配者には昔懐かしい「ポートワイン」の原料であったのかもしれません。



大正時代の帷子葡萄園の様子

●東部地区はどんな環境でしたか。・・・

**川田** 現在のガストのあたりは田んぼと池、畑があり、小川が流れていました。そんな中の道をのぼると程ヶ谷カントリーの正門があり中にクラブハウスと練習場がありました。（現国大南門）自治会は「東部地区」ということで東部・中部と別れてはいませんでした。確か「常盤台自治会」として北部・西部・中部・東部は一緒だったと思います。



●昭和 20 年代の地域の交通はどうなっていましたか。



昭和38年の東部地区の風景

**角田** 常盤台地域に人が住みだしたのは終戦後の昭和 21 年ごろからのことです。市営バスは、東神奈川方面から現在の地下鉄三ツ沢上町までと保土ヶ谷駅から洪福寺まで運行されました。神奈中鉄道（相鉄の前身）の和田町駅開業が昭和 27 年ですから、常盤台地域の皆さんは電車に乗るためには上星川駅または星川駅まで、またバスに乗るためには洪福寺・三ツ沢上町または西口まで歩かなければなりませんでした。

**高崎** 常盤台が横浜のチベットと言われた所以ですね。

**鈴木（好）** わたしは、この常盤台地域は歴史的には程ヶ谷カントリーを中心として発展してきた地域だと思います。それは歴史に名残る名門ゴルフ場として多くの功績を残し、また後の旭区への移転後も、広大な跡地の乱開発は免れ、横浜国立大学が移転してきたことにより、緑豊かな地と、学問、福祉のまちができたのだと思います。



●連町設立前の自治会運営などについて伺いたいと思います。

**山口** 残念ながら当時の資料は全く残っていませんが、いろいろと調べてみますと峰岡町三丁目を除いて当初の常盤台地域は閑散とし家も少なく、家々は程ヶ谷カントリー倶楽部を囲むように建っていました。地域も広範囲な状態であったために行政としては、連絡・広報紙の配布等についての便宜性を考慮し、先に発足していた和田連合町内会に順次加入をするように指導していったのではないかと



思います。

また和田連町としては、常盤台地区と和田地区とは距離も遠く範囲も広すぎたということもあり、「和田」と「常盤台」と同一行動することには無理があり、別行動をとるようになった、ということだろうと思います。

**山田** 昭和 37 年頃は和田町と常盤台とで「何かをした」という記憶はありません。常盤台での会議の場所はいつも東部のドライブイン（川田修三氏所有）で行いました。



**川田** 和田町とは別行動でしたが、釜台町とは毎年運動会を一緒にやっていましたね。

**山田** 運動会は常盤台小学校の校庭で常盤台（北部・西部・中部・東部）と住好・警友・釜台で行っていました。

**角田** 「お祭り」でも青年団・少年団と 2 基の神輿で東部→和田町→峰岡町三丁目→釜台→恵風ホーム→東部と担いで回りました。

**山口** 資料によりますと、昭和 15 年までは常盤台と釜台（現釜台町の一部）は共に峰岡町の一部でした。またお互いに隣ということもあり、昭和 26 年頃までは「常盤台、釜台町内会」として行動を共にしていたようです。



当時の子供みこし（住好）

### 連合町内会の設立前後

●これからは連町設立前後の状況についてお聞きします。年表によれば、すでに自治会組織が整っていた「峰岡町三丁目町内会」と「常盤台自治会」（現常盤台北部・西部・中部・東部の各自治会の前身）が昭和 27 年に設立し、同年に建設された県営住宅を母体とする「県営住宅住好会」（後に常盤台住好自治会に改称）が発足しました。更に昭和 31 年に釜台住宅として建設分譲された住宅を母体として「やよ



昭和30年頃の住好自治会地域、後方は程ヶ谷CC

い会自治会」が誕生しています。そして、設立したすべての常盤台の自治会は和田連合町内会に加入しています。（常盤台連合町内会は昭和 47 年に設立）

その後、昭和 37 年から 40 年の間に常盤台自治会が常盤台北部・西部・中部・東部の各自治会に 4 分割され、他に新たな自治会が設立されました。

常盤台連合町内会が誕生したのは昭和 47 年ですが、最初の「常盤台自治会」が設立されて 20 年間も要しています。このあたりについてこの時期に役員であった鈴木（好）さんに伺います。

**鈴木（好）** 当初は常盤台地区だけ（峰岡町三丁目町内会を除く）での連合町内会設立を目指していました。しかしながら連合町内会の設立には①自治会数、②世帯数の 2 つの必要要件があります。当時の常盤台地区の自治会数は 10、その世帯数は約 700 世帯でした。要件のうち①の自治会数では要件を満たしていましたが、②世帯数においては要件を満たしておらず、したがって常盤台地区だけの連合町内会の設立は不可能でした。そこで常盤台ではない峰岡町三丁目町内会に常盤台地区として加入するように申し入れたのです。当時の峰岡町三丁目町内会は、峰岡町一丁目・二丁目・川辺町などの中央地区連合と和田地区連合に挟まれ、同様に双方の連町にも参加を迫られていましたので、町内会の内部調整がなかなかできずにいました。春原会長の時代に会長の英断で峰岡町三丁目町内会が常盤台に加わることになったのです。その結果峰岡町三丁目の 500 世帯が加算されて常盤台地区連合町内会が誕生したのです。

**高崎** このことも初めて知りました。なぜ常盤台に峰岡町三丁目だけが加入しているのかが疑問でした。先人のご苦勞に感謝します。



**山口** 隅田さんは「常盤台自治会」を北部・西部・中部・東部の4分割に線引きした方だと伺っていますが・・・

**隅田** 昭和37年でしたか、当時私は道路公団に勤めていました、「常盤台自治会は一つであったことから世帯も増えて大所帯となり、広報紙や回覧物等の配布について支障がある」とのことで役員会において4分割することに決定しました。そこで私が川田会長に依頼され線引きをすることになったのです。住好自治会とやよい自治会についても同時に調整することになっていましたが、両自治会は内部でまとまらずそのままになってしまいました。



**山口** 今の隅田さんの説明でよく理解できました。また記録的には隅田さんの4分割線引きにより、4自治会が誕生したということも理解できました。隅田さんが生みの親だったということも初めて分かりました。

●恵風ホームの前に「常盤稲荷」がありますが、あのお稲荷さんは・・・

**望月** 以前は少し離れた峰岡町の丘の上にあり、下方から何重もの鳥居をくぐってはお参りに行ったものです。地域のお稲荷さんとして親しまれていましたが、横浜新道の建設による保土ヶ谷トンネル工事等のために昭和30年に現在地に移転してきました。



**隅田** 今は狭い三角地にあり、人目に付きにくい所で訪れる人もあまり見かけませんが、何とか地元のお稲荷さんとして地域で管理し見守っていただきたいですね。(当時、常盤稲荷移設委員会の代表者であった川田修三氏が自己所有地に移設されたということもあり、現在は川田敏夫氏(四代連町会長)と常盤台東部自治会が共同で管理している。)

### 連町設立後の環境と活動

●連町が設立されて何が変わりましたか・・・

**鈴木(好)** 一挙に変わったということはありませんでしたが、初代の春原会長を中心として当時は個性のある会長さんが多かったものですから、豊かな経験を語りあい、相互親睦

と団結をはかりました。

**山口** この頃の活動の中心は、体育指導員(現スポーツ推進委員)と青少年指導員であったと思いますが、今日はその中心としてご苦労された鈴木(好)さんと望月さんがおられます。まず、長期間にわたって体育指導員の会長であられた鈴木さんから当時のことを聞かせてください。

**鈴木(好)** 当時の常盤台地区の体育指導員の活動は保土ヶ谷区の中でも中心的な存在でした。毎年実施されていた保土ヶ谷区の体育大会でのソフトボールでは常勝でしたし、少年のミニバスケットボールでも常勝でした。これは各チームの父兄や監督が年を通して熱心に練習させ指導した結果です。子供も多かったのですがソフトボールでは5チームはありました。

●青少年指導員はどうでしたか・・・

**望月** 体育指導員と競って活動が活発でした。昭和52年頃から始まった保土ヶ谷区の「かるた大会」(百人一首)では、子供および大人の部で常に優勝が入賞をしていました。また昭和51年から夏休みにキャンプに出かけました。行先は道志・宿り木・赤城山と12年ほどは続いたと思います。そのほか、16ミリの映画会・自転車安全教室・陶芸・紙ヒコーキなどがありました。現在でも続いているものもあります。

●盆踊りは中心的な行事であったと思います。・・・

**高崎** 何といても盆踊りは一番盛況でした。当時の店はプロが出店していましたが、連町で統一した浴衣を着て、東京音頭と炭坑節を踊りました。

**山岸** 拡声器からは東京音頭と炭坑節しか流れませんでした。(笑い) 常盤台のネーム入り浴衣は私も持っています。



**鈴木(好)** 踊りが東京音頭と炭坑節ばかりではと、昭和57年に私の作詞・作曲で『ときわ台音頭』が出来上がりました。

**山口** 櫓の組立てではいろいろありましたね。・・・

**鈴木(好)** 当時は連町所有の「組み立て式櫓」があったのですが、船頭が多くて組み立てるのに半日以上かかりました。(組み立ての図面がなかった)

**高崎** 船頭は3人いましたよ。(木所青指会長・



堀副会長・鈴木体指会長）組み立て終わったら傾いてやり直し・・・（笑い）

●運動会はどうでしたか。・・・

**鈴木（好）** 連町設立後しばらく運動会は開かれませんでした。それは各自治会の世帯数がバラバラであったために必要経費の分担金拋出の調整が取れなかったからです。現実には各自治会には積立金はほとんどなく、また連町にもありませんでした。

**鈴木（靖）** 保土ヶ谷区主催の運動会が常盤公園でありましたね。それから昭和 60 年頃三ツ沢競技場で開催の保土ヶ谷区大運動会では、常盤台が優勝しました。先ほど鈴木さんが言われたように常盤台が若さで満ち溢れ一番結束していた時期であったと思います。当時はみんなが積極的に進んで参加してくれましたが、今では頼んでも参加してもらえない・・・



### 社会福祉協議会の活動

●社協（常盤台地区社会福祉協議会）の活動についてはどうでしたか。ながい間社協活動に携わってこられた清水さんにお伺いしたいと思います。

**清水** 私は昭和 62 年に和田地区社協から常盤台地区社協が分離して以来、会計として関わってきました。

●当時の地区社協と連町との関係はどうだったんですか。・・・

**清水** 地区社協発足当時は連町の金子会長さんが、地区社協の会長を兼任されていましたが、木所さんが会長に就任してからは、高崎さんが連町の会長さんということで役割分担ができていたと思います。従ってどちらかといえば連町より地区社協の事業のほうが多かったように思います。しかし、地区社協の活動がまだまだ皆さんにあまり理解されていない時でしたので、今はこの世にいらっしゃらない多くの方々のおかげで活動が継続されてきたと感謝しています。



●地区社協のこれまでの活動の中で特筆すべ



連町と地区社協の合同旅行（昭和62年）

きはなんかありましたか。・・・

**清水** 保土ヶ谷区から、平成 5 年から平成 8 年までの 3 年間にわたり「福祉モデル地区」の指定を受け活動が活発になりました。主な活動としては、地区内の高齢者アンケート調査の実施、各種勉強会の実施、社協だよりの発行（1 号から 7 号）、会食会の実施などがあります。これらの事業が現在の活動の起点になっていると思います。

### 地域の防災

●次にこの地区の防災について伺いたいと思います。

**小金井** 昨年発生した東日本大震災から 2 年を経過しようとしています。被災地での復興は全く進んでいない状態です。我々の地域でも首都直下型の巨大地震の発生確率が 4 年の間に 70% とも言われています。改めて早急に対策を講ずる必要があります。そこで、これまでの防災拠点での訓練は、やらされている「訓練のための訓練」という感は否めません。今後は直接的な「人命救助」を基本とした訓練にしていかなければと思っています。



**鈴木（靖）** 常盤台地区には保土ヶ谷区消防団第三分団第三班が組織されています。現在の分団の詰所は今日ご参加の横溝さんの手作りと聞いていますが・・・

**横溝** 30 年ほど前になりますが、北部のお米屋さん（福田米店）が倉庫を解体するのことで材木等をいただき作ったものです。

**鈴木（靖）** 当時は川田さん、堀さん、私と順に班長を務めていました。平成 3 年頃ですか、

当時小型の消火器積載車を購入することになり、車庫の建設と合わせて 500 万円が必要となりました。資金は役所、上部団体からの補助は全くなく、連町および各自治会、そして地域の皆さんからの寄付と協力を得て成し遂げることができました。これが私の消防団時代の一番の思い出です。

**川田** 現在では保土ヶ谷区内でも誇れる第三分団第三班として活動が続けており大変うれしいです。



横溝さん手作りの詰所

### 新しい常盤台に向けて

●平成 21 年に常盤台の活動拠点施設ともいべき常盤台地域ケアプラザと常盤台コミュニティハウスが合築という形で建設されました。

**山口** この施設の建設は常盤台の皆さんの長年の願いでした。陸の孤島と言われた所以の一つに私たちの常盤台の地には公共の施設が全くなかったということもあります。歴代連町会長はこの施設建設のために行政に懇願し、努力し続けてきました。ちょうど私の会長時代に、全ての条件と運とが合致して念願の施設建設ができたことはとてもうれしく思っています。



**高崎** 私の会長時代でも一番の課題でした。役所は常盤台地区への施設建設の必要性を認め「土地さえあれば建設する」と言われ、探

し続けましたがこの常盤台の地には市有地はなく、適地があっても地主の了解も得られずじまいでした。その後は市も財政難に陥り話がなくなりました。

**鈴木（好）** 福祉施設建設については、木所地区社協会長も常に土地の模索をしていたようです。

**山口** 区の建設地の予定では、常盤台地区、中央東部地区、上星川地区、和田地区をエリアとして 1 施設を建設するということで、候補地を募り決定するというものでした。従って常盤台地区内に建設を願うのなら、他の地区よりも早く適地を探す必要があったのです。当然ながら他の地区からも建設候補地の申請はあったようですが、常盤台連町からの積極的な誘致活動があり、現在地が最適地ということで決定したのです。

**有澤** 念願の施設が常盤台地域の中心部に建設されて、現在では地域の活動の拠点となっています。本当に常盤台地区内に建設されてよかったと思っています。

●横浜国大との共生について伺います。私たちのまちの地積の 41% は国大が占めています。また 1 万 2 千名の教職員、学生が在籍しています。どのようなお付き合いが必要と思われますか・・・

**高崎** 平成 10 年前半の横浜国大との関係は、地域のトラブル処理だけで他に接触はほとんどありませんでした。それは確立された国立大学ということで、地域との交流を望んでいませんでした。山口さんの時代に国大との扉が開かれ、一つ時代が変わったように思えました。

**山口** 常盤台にとっては切っても切れないのが国大です。この国大との交流をいかに進めるかが連町の課題でした。平成 16 年 4 月に国立大学が法人化されたのに伴い、国大の地域に対する対応が良い方向に一変しました。この機を逃さず連町も対応できたのは良かったと思っています。現在では連町の毎月の定例会にも国大の総務部長さんが参加されています。

**有澤** 国大との関係は大変良くなっています。互いの窓口を一本化し混乱の起こらないようにしていますし、協力体制も出来上がっています。

**山口** 国大は身内に近い隣人だと思っています。この隣人から受けられる専門的知識の享受は常盤台連町だけの特権ではないかとも



思っています。地の利を生かして、教授、学生など各部署に積極的にアプローチすべきです。こんな良い環境は願ってありません。  
**有澤** 今後も国大とは良いパートナーとして共生できればと願っています。

●区老連の会長をされた北川さんに今後の老人会の役割について伺います。

**北川** 常盤台地区も高齢化が急速に進んでいます。多くの難題を抱えていますが、わたしは地区の社会福祉協議会、連合町内会そしてときわ老人クラブ所属の5つの会で「特別協議会」を設置して対応の具体策等を検討してほしいと思います。

**山口** 高齢化対策は避けて通れない課題です。地区社協としても最優先で組織的な対応の検討をしたいと思っています。

## 変革の時代

●最後になりますが、近々この地は神奈川東部方面線の羽沢駅（仮称）の開業で大きく変わろうとしています。3年後の平成27年にJRと相鉄線が、平成31年には相鉄線と東急線との相互のり入れが予定されています。交通アクセスが改善されますので非常に便利にはなりますが、そのほかにも常盤台地域には大きな影響があると思われますが……

**山口** かつて「陸の孤島」と言われ、現在は環境が整備されて「緑と教育と福祉のまち」次の時代は「渋滞と混雑のまち」なんか嫌な予感がしますね。

**高崎** 新駅と大池道路への縦の道路が全く整備されていません。道路が町づくりの基本です。まずは早急に道路整備が必要です。

**山田** 現在駅周辺は市街化調整区域になっていて、農地や林が広く点在しています。この環境が変わらないようにしてもらいたいものです。

**山口** 駅の建設が予定されてから平成18年に神奈川区と保土ヶ谷区の地域関係者で「羽沢駅（仮称）周辺まちづくり協議会」が設置されました。そこで、駅周辺のあるべき環境等について、できる限り環境に配慮するようにと意見書を作成して横浜市に提出していますので見守っていきたいと思います。

**高崎** 何事も初めてのことなので、注意深く

様子を見ながら、早い対応が必要となると思います。



工事が進む羽沢駅2012年

●地域の歴史を知ることは、地域に愛着を持つことの第一歩であり、さらに地域の躍進にもつながることだと確信しています。今日は長老の皆様には長時間にわたり貴重なご意見をいただきましたありがとうございます。

### 座談会参加の皆さんと役員就任期間

◎有澤文紀（司会）

第八代会長 H22年4月～ （コスモ）

◎山口和秀

第七代会長 H17年4月～H22年3月（北部）

◎高崎治郎

第五代会長 H5年4月～H14年3月（北部）

◎小金井庫雄

副会長 H19年4月～H24年3月（峰三）

◎鈴木靖雄

副会長 H22年4月～ （東部）

◎北川重雄

副会長 H9年4月～H14年3月（中部）

◎鈴木好行

事務局長 S47年4月～H2年3月（峰三）

◎清水秋江

地区社協役員 S62年4月～H23年3月（峰三）

◎山田きぬ江

地区社協役員 S62年4月～H19年3月（北部）

◎望月后子 自治会役員（峰三）

◎川田勝美 自治会役員（東部）

◎山岸祐雄 自治会役員（住好）

◎横溝 晃 東部在住 （東部）

◎角田 浩 東部在住 （東部）

◎隅田一成 中部在住 （中部）

## 誇れる連合町内会を目指して

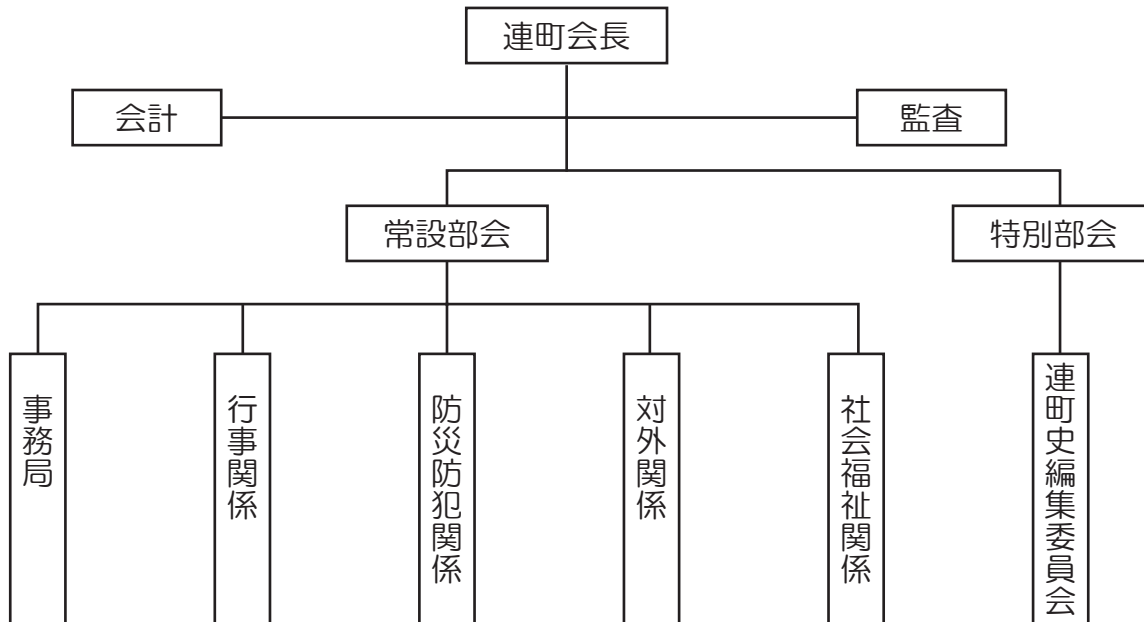


横浜国大とのワークショップ

1. 常盤台地区連合町内会（通称、連町）とは  
住みよい地域社会をつくるため、各自治会・町内会が相互に協力、連携し、積極的に次の活動を行ないます。
  - (1) 防災・防犯について、先行的に取り組み、より良い生活環境を整える。
  - (2) 高齢化社会に向けて、「地域支え合い」の精神で福祉の増進に寄与する。
  - (3) まちづくりを通じて地域住民の交流・親睦を深めるとともに地域の活性化と発展を図る。
  - (4) 次世代を担う子供の育成を支援する。
  - (5) 行政など関係機関へ改善要望を働きかける。
2. 保土ヶ谷区連合町内会長連絡会（通称、区連長会）は、昭和 35 年 10 月に発足し常盤台地区連合町内会は、昭和 47 年 5 月 1 日に設立されました。平成 24 年は、常盤台地区連合町内会設立 40 年に当たります。
3. 連町の役割
  - (1) 保土ヶ谷区内には、19 の地区連合（連町）があります。区連長会は、ほぼ月 1 回開催され各地区連町間の意見交換や行政との連絡調整を行っています。
  - (2) 連町は、常盤台地区にある 11 の自治会・町内会により構成されています。その活動は、各自治会・町内会が単独で実施するには非効率でやや問題のある広域的な事業、費用のかかる事業を行ないます。（例えば、納涼盆踊り、防災訓練、ワイワイまつりなどです。）
  - (3) 連町は、会則に則り役員及び理事の参加のもと、毎月定例会を実施しています。定例会では、次のことを行なっています。
    - ①地域に関連のある行政施策の周知。
    - ②自治会・町内会並びに各団体相互の連絡調整。
    - ③自治会・町内会並びに各団体の活動を円滑に進めるための情報交換と意見交換。



## 常盤台地区連合町内会組織図



## 平成 24 年度連町事業内容

### 1. 重点活動項目

- (1) 連合町内会歴史書の刊行
- (2) 常盤台小学校との共同による防災訓練の実施
- (3) 「地域支え合い」の推進

### 2. 活動内容

年 月	活 動 内 容
平成 24 年 4 月	平成 24 年度通常総会
6 月	研修会
//	常盤台小学校拠点防災備蓄倉庫の緊急態勢整備
7 月	横浜国立大学との連絡協議会
8 月	納涼盆踊り
//	防災訓練
11 月	横浜国立大学常盤祭参加
//	ワイワイまつり
12 月	忘年会
平成 25 年 1 月	新年賀詞交換会
3 月	地域親睦囲碁・麻雀大会
//	横浜国立大学との連絡協議会

## 新しい常盤台に向けて

第八代常盤台地区連合町内会会長 有澤文紀



賀詞交歓会で挨拶する有澤会長  
(2012年)

時代の変化は、ここ常盤台といえども無縁ではありません。これまで地域を支えてきた歴代の自治会長及び町内会長の皆さん、特に地域の長老

と言われ、地域の出来事に精通した生き字引或いは世話役と言われた方々は、ほとんど引退され世代交代が急速に進んでおります。

世代交代とともに時代の変化も急激です。一昔前までは「陸の孤島」と言われ、社会福祉施設もない「文化果つるの地、常盤台」と言われていたのが、今では懐かしく思い出されます。

その常盤台に雇用促進事業団職員宿舍が撤去され更地になったとの情報が入ったのは平成15年12月でした。好機到来とばかりに各自治会・町内会の協力を得て3,494名（約44%）の署名により、平成17年7月「福祉施設の設置について」市長への陳情書（資料編参照）を提出する運びとなりました。行政、市会議員及び地域の皆様の献身的な協力により、至短時間に今日ある立派な「常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス」が平成21年10月に完成した次第です。

一方、横浜国立大学（以下国大という）

との関係ですが、これも劇的な変化を迎えたのは平成17年でした。それまで国大との定期的な連絡協議会は、年1回行われておりました。

その協議会の内容といえば、学生の卒業時粗大ゴミの不法投棄、バイクの騒音或いは違法駐車といった苦情相談会議といったものでした。国大としても、国立大学法人化された直後で、地域密着型大学運営を模索していた時期でもあり、常盤台地区連合町内会（以下連町という）から「新しい連絡協議会のあり方」を提案されたときは、渡りに船だったのかも知れません。

その基本的な考え方は、

1. 目的としては「将来を見据えて国大と常盤台地域の発展的な関係を構築する。」
2. 重視すべき事項は、
  - ①国大と地域が相互にそれぞれを理解する。
  - ②「地域が国大に、国大が地域に対してお互いに協力できることはないか」といった協調関係を作り上げるための建設的な会議にする。
  - ③協議会を含め「意思疎通の場」を出来るだけ多く持つ。

その結果、年2回の連絡協議会を通し両者の関係は飛躍的に良好になりました。例えば、両者の相談窓口を国大総務部と連町一本にして責任の所在を明確にしたことで、責任ある対応が可能になったことです。特に効果的だったのは、国大総務部長からの申し出により月例の連町定例会に国大総務部長が参加するようになり、問題の解決が更に早まったことでした。



当時、常盤台地域も少子高齢化の傾向にあり、連町も例外ではなく地域のイベントに国大生の若い感性を必要としておりました。ただ国大生と直接接点できる機会は少なく、連町から積極的に働きかける草の根的運動の一環として大学祭に参加しようということになり、平成 20 年から常盤祭に参加するようになりました。以上の経過については、

①平成 18 年 11 月 26 日「地域支え合い連絡会」における「連町と国大の連携について」の私の講演。これが契機となった。

②平成 19 年 1 月 8 日神奈川新聞朝刊第一面「国大生の自治会加入の呼びかけ」更には、

③平成 19 年 3 月 8 日神奈川新聞社説「学生の自治会加入『活力生む担い手となれ』」により広く報道されております。

この間、横浜市の都市開発計画により神奈川県東部方面線整備構想が策定され、最近では常盤台の近傍 JR 貨物羽沢駅に隣接して羽沢新駅（仮称）の建設が急ピッチで進められております。

そして、平成 27 年 4 月には相鉄・JR 直通線が開通する予定であり、実に羽沢新駅と新宿間は 30 分そこそこで繋がり、交

通のアクセスの良さが常盤台の急激な都市化をもたらすと考えられております。

加えて、平成 31 年 4 月には相鉄・東急の相互乗り入れも計画されており、我々が考えるよりはるかに早いスピードで常盤台は変わろうとしております。

一方、「2011.3.11 東日本大震災」は、地域の絆の大切さを我々に問いかけました。しかし、地域の急激な都市化は確実に地域の結び付きを希薄にします。

このような時代の変化の中にあって、住んでいる住民相互の結びつきを今後どのように構築していくのか、我々は重い課題を背負っていると言えます。

この課題には、特別な処方箋はありません。住んでいる住民の皆さん一人一人の「支え合い」の気持が大切になります。

特に、「常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス」を利活用した諸施策の推進並びに毎年若者が入学してくる人的資源豊かな国大との連携は、常盤台の発展に不可欠の要素となります。

そしてこれをベースにした『地域の支え合い』こそが「新しい常盤台」の在るべき姿であると確信しております。



連町行事『囲碁・将棋・麻雀』打ち上げ会で（2012 年 峰岡町三丁目会館）

## 後光に輝く常盤台の夜明け

常盤台北部自治会 山口和秀



夏も終わりの朝 5 時少し前、わたしのウォークの時間だ。コースは常盤台北部自治会と神奈川区羽沢町の区境でもある狭い道路を進み三枚町交差点を左折し、建設中の羽沢新駅と羽沢貨物駅を 1 周する 3.5km、約 45 分のコースだ。

日々変わる建設工事現場を高い塀の間から見ながら、時にはガードマンに進捗状況を伺いながら、あと 2 年半を切った開業日（2015 年 4 月）を楽しみに数えている。

この辺りはまだまだ自然が満開、キャベツ畑が広がり、畑越しにかすかに丹沢連山を従えた富士山が影絵のように見える。そんな毎朝であるが今日はめったにお目にかかれない特別の朝になった。場所は第 3 京浜国道保土ヶ谷料金所付近、

突然空が真っ赤に染まり木々の上に聳える国土交通省羽沢無線中継所の電波塔が浮かび上がった。その様はまるで後光に輝く仏のようだ。

暗いキャベツ畑の上空を不規則に飛び交うコウモリ、朝食の小さな昆虫を取っているのだ。図鑑によると 10cm ほどのアブラコウモリという種類だという。ここは横浜駅から直線で 5km の距離、地元でもコウモリが生息していることすら知らない人が大半だ。こんな自然はいつまで残せるだろうか・・・

数日後、朝焼けに輝く大空のかなたに影絵のように浮かぶ富士と丹沢連山にお目にかかれた。羽沢新駅建設工事現場の写真には、今まで一度も現れなかった富士の雄姿が納まっていた。



## 躍動ある連町を目指して

行事部会長 石川源七



平成21年度より、常盤台地区連合町内会は、年間主要行事等の円滑な遂行並びに行政諸関係団体との適切な連携のために4つの常設部会を設置しました。

行事部会は、その中の1つで連合町内会が主催するレクリエーション行事である「盆踊り」や「ワイワイ祭り」等の行事を企画開催することにより、自治会活動への関心を高め活性化することを目的としております。

ここで最近の2大行事である「納涼盆踊り」と「ワイワイ祭り」のプロフィールを簡単に紹介しましょう。

「盆踊り」は、地域行事として外すことの出来ない定番行事で連合町内会の誕生からこの地域でも夏の風物詩として定着しています。お盆である夏期の夜に、櫓を中心に老若男女が太鼓の調子に合わせて幾重もの輪列をつくり、心いくまで踊る日本の伝統行事ですが、此の常盤台地域を故郷として感じてもらえる唯一の催しものになって来ました。会場は常盤台小学校で1,500人位の参加数があります。

櫓の中央から四方に垂れ下った提灯が、普段忘れていた心の故郷へ誘ってくれます。その廻りを懐かしい幾つもの夜店が並び、子供達は綿菓子や玩具釣りにしゃぎ、大人達は焼き鳥等で舌鼓を打ち、ビールで喉を潤す。踊り疲れた頃花火が夜空に花を開きます。最後は抽選大会で盛り上がり、夏の夜を締めくくります。

各地での盆踊りはそれぞれ特徴があり

ますが、常盤台地区の盆踊りは地区の中央にある横浜国大との関係が特徴的で、横浜国大が誇る民謡研究会の「太鼓踊り」の演技や海外留学生との交流など他の地域にはない出し物があります。

「ワイワイ祭り」は、スポーツの秋にお年寄りから子供迄がウォークキングを楽しむ行事です。コースは地域をより深く知ってもらうために11自治会の拠点（各町内会館）と地域資源である福祉施設や横浜国大キャンパスを2時間位で廻ります。各拠点や施設にスタンプポイントを設けてスタンプカードにスタンプを押して貰い、ゴールでそのスタンプ数より完歩賞や参加賞が貰えます。常盤台小学校をゴール拠点にして600人位の参加者が見込まれています。

このイベントを盛り上げる為に、歩きながら危険個所を探しゴールで防災マップを作成したり、各スタンプポイントでミニゲームを行い景品を貰ったり、ゴールで着ぐるみ達が出迎えて豚汁も楽しめる。最近はゴール会場で、マーチングバンドや大道芸が行われ、各種売店、ゲームブースも人気があります。

これらの行事を遂行する為に、連町役員、自治会長、青少年指導員、スポーツ推進員、婦人部、保健活動員からなる行事部会が中心となり実行委員会が組織され、企画から開催、運営まで行われています。売店仕込み・設営準備や後片付けには毎回役員が汗を流し、開催中も各種役員が舞台裏で成功を願い支えています。

一つの行事が無事終わり、参加者から「ご苦労様」「楽しかった」などの声を聞いた時、苦労も何処かへ達成感とやって良かったとの想いに喜びを感じます。

今後の課題としては、他の自治会活動と共通である活動ノウハウの次世代への伝承です。出来る限り記録を残しつつ次世代の役員を登用して今後も連町会の皆さまが楽しみとなる行事としていきたいと思っております。

## 東日本大震災に地域の防災を考える



常盤台小学校地域防災拠点運営委員会  
委員長 小金井庫雄

2011年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震（後に東日本大震災に改称）」は、巨大な津波を伴い三陸沿岸一帯を襲い、甚大なる損害をもたらしました。また福島第一原発事故は壊滅的被害を被り、放射能汚染の恐怖は国内に大きな衝撃を与えました。私たちは、あの大震災により改めて自然の猛威と脅威を体感しましたが、これを貴重な教訓として受け止め、地域の防災を考えていく必要があります。

最近各種の報道では、「近い将来首都圏に東京湾を震源とする直下型地震が発生する」と報じています。そこで、首都圏に震度7クラスの地震が発生した場合、保土ヶ谷区の建物被害は、約4,100棟、これに伴う避難者数は約17,000人と想定されています。区では防災計画に基づき、区内26校の小中学校を災害時の避難場所として、「地域防災拠点」に指定しています。

常盤台地区は中央東部地区（峰沢町、岡沢町等）と共に常盤台小学校を地域防災拠点として避難場所としています。また、区内の各防災拠点には「地域」・「学校」・「行政」からなる管理運営委員会が設置されており、災害時において避難者の受け入れが円滑に行われるように平素から運営委員会ならびに各種訓練を行っています。

常盤台小学校地域防災拠点運営

委員会は、平成7年8月に設立されて毎年運営委員会を開催し、初期防災訓練を行ってまいりましたが、昨年発生した東日本大震災の実状に鑑み、地域拠点防災訓練は、避難者の誘導および受け入れ訓練を重点的に行い、訓練を通じて顔の見える関係を築き、住民の防災意識を高めて防災力の向上を図っていきたいと考えます。

東日本大震災から2年余りが過ぎましたが、現地はまだ復旧は進まず、今なお多くのガレキが残されています。このような状況下で、被災地の皆さんはたくましく復興に燃え希望を抱いている熱意に対しまして、わたし達は深い感銘を受けると共に、一日も早い復興を祈ります。

「天災は忘れた頃にやってくる」との格言がありますが、私たちはあの大震災を「他山の石」とし、危急な自然災害について真剣に取り組み、いざという時に危機を乗り越えられる防災体制の構築を図っていきたいと考えます。



常盤台小学校校庭での防災訓練



## 若い常盤台の引率者



常盤台地区青少年指導員協議会  
会長 小川洋子

横浜市青少年指導員要綱によるとこの制度は昭和 53 年 4 月に施行され、その目的は「地域社会における青少年の自主的活動とその育成組織活動を推進することにより、青少年の健全育成を図ること」とあります。

常盤台地区も制度発足とともに「常盤台地区青少年指導員協議会」が発足し、各自治会の歴代の多くの青少年指導員の皆さんが目的に向かって頑張ってきました。

そんな中で初代会長には木所金作氏（常盤台中部自治会）が就任しました。当時の連合町内会には組織的なものはなく、すべての行事は、先に組織化されていた体育指導委員と競って行っており活動も活発でした。

昭和 53 年に始まった保土ヶ谷区の「かるた大会」（百人一首）では、子供および大人の部で常に優勝または入賞をしていました。また夏休みには道志・宿り木・赤城山とキャンプに出かけました。この活動も 12 年ほどは続いたと思います。そのほか、16 ミリの映画会・自転車安全教室・陶芸・紙ヒコーキなどがあり、多種多用の活動が行われていました。

私が青少年指導員に就任したのが平成 5 年ですが、当時常盤台青少年指導員会長は堀時勝氏（常盤台西部自治会）でした。その後、みどりが丘自治会の石黒君江さん、私がその後を引き受けました。平成 24 年からは北部自治会の星川尚美さんにバトンタッチしました。

平成初期の常盤台青少年指導員の主な



青少年指導委員OB会（1998 年 3 月）

行事は小中学生対象の「夏のキャンプ」と連町主催の「盆踊り」でした。新年度を迎えるとすぐにキャンプの候補地探しと盆踊りの売店の打ち合わせ等同時進行で大変忙しい夏でした。

当時は子供の数も多く、子供を対象とした小運動会「ワイワイフェスティバル」（現在のワイワイウォークの前身）を行ないました。少子高齢化が進行し高齢者が増加している現代、横浜国大および常盤台地域全域を対象区域として高齢者も子供も家族全員で参加できる行事内容に変え、名称も「ワイワイウォーク」に変えました。今では常盤台連町主催「夏の納涼盆踊り」と秋の「ワイワイウォーク」は地域の 2 大イベントに定着しました。

現在は環境が様変わりし、少子化が進み、子供たちも家の中での遊びが中心となり、コミュニケーションが取れない環境になっているように思います。

これからも常盤台地区青少年指導員として、地域の子ども達が遊べるような環境づくりを行い、互いに顔の見える地域をつくるのが一番の目標です。



## 常盤台の力の源 (常盤台地区スポーツ推進委員協議会の40年)

常盤台地区スポーツ推進委員協議会  
会長 安井眞也

「体指」の略称でお馴染みの体育指導委員は平成23年度から「スポーツ推進委員」に名称が変更されました。新たにスポーツ推進のための事業実施に係わる連絡調整の業務が加わりましたがその他は従来通り業務が課せられています。

常盤台地区の40年の歩みを振り返ってみます。

昭和47年常盤台地区の体指は7名、初代会長は「おはよう小父さん」こと、鈴木好行氏です。(常盤公園で毎朝ラジオ体操を指導され今も元気に活躍されておられます。)

鈴木氏は19年間も体指の会長職を務められる一方、発足間もない連町会の事務局まで務められました。2代目の会長は木村保雄氏(現川島東部地区の会長で保土ヶ谷区体指会の副会長)、3代目は新倉美由喜さん(住好)4代目が岡森次郎氏(北部)、現在は5代目の安井眞也(峰岡町三)が会長職を務め、14名で活動しております。

過去の活動ぶりを鈴木氏は当時を振り返り以下のように書いておられます。

「会長を初め7名が委嘱され、主に小学生のスポーツ振興を計る目的で活動が開始され、夏休みを利用しての男子のソフトボール、女子のミニバスケットボールは地区予選会を開いて保土ヶ谷区大会に出場するというほど盛んなものでした。特筆すべきことは子供たちを指導してくれる小学校の教師や、保護者の中からスポーツ経験者が、熱心に指導してくれた事です。ですから、

区の大会の成績では常に上位を占め、他の地区の模範になっていました。」

時が経ち常盤台地区でも高齢化・少子化が進み、この40年間に常盤台小学校の児童数は1,300人から1,000人まで実に23%も減ってしまいました。また、小学生のスポーツを巡る環境も、学校の対応も大きく変わり、体指の活動の対象が小学生から高齢者へと変わってまいりました。

今では、小学生対象には年1回のドッジボール大会だけが残っているだけです。その一方、2代目会長の木村氏の紹介で17年前から始められたグランドゴルフは「誰でもがプレー可能なスポーツ」として年々盛んになり、毎月の練習会には80才台の方を含め約50名の参加者があります。地区単独大会と和田地区との合同大会の年2回の大会を開催して大勢の方が元気に腕を競っています。その成果からでしょう、20年度第12回保土ヶ谷区の大会では参加者192名の中から西部在住の池田巖さんが見事に個人優勝を飾られました。

スポーツ推進委員はこうしたスポーツ行事だけではなく連町主催の2大イベント、納涼盆踊り・ワイワイウォークでは青少年指導員と共に縁の下力持ちとして無くてはならない存在として連町イベントを大いに盛り上げております。また、横浜市は保土ヶ谷区が主催・共催するイベント(マラソン大会、球技大会等)に積極的に協力しております。今後も地域の事情に即した活動を続けてまいりますので、地域の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。





ときわ老人クラブ  
会長 相田二郎

## これからの主役

### ときわ長寿会の沿革

常盤台地区は明治後期から大正時代にかけて「常盤園」が開発された関係で、現常盤台東部自治会地区を中心にして発展をしてきました。終戦後、常盤園の廃止およびその後の再開発により、徐々に現在の常盤台地区の原型ができました。

当初の自治会の設立の第1目的は、いかに行政の伝達事項を早く、正確に住民に伝達ができるか・・・ということでしたので、自治会設立は行政指導でなされたといってもいいと思います。

昭和30年代後半になり戸数および人口が増加するにつれて、既存の大きな自治会の機能は低下したことにより自治会の細分割が行われました。常盤台地区においては「常盤台自治会」が北部、西部・中部・東部の各自治会に4分割されました。

当時の環境下では、老人は少数派であったために、老人会の問題はあまり語られず、組織作りは進んでいませんでした。

そんな環境の中、「ときわ長寿会設立」時の経緯について、2代目会長飯田清蔵氏が記していますので原文を掲載します。

#### 老人クラブ誕生の原点

老人クラブ誕生の過程は、戦中戦後永く続いた混乱期に、厳しい境遇に置かれた老人同志がお互いに慰め合い、励まし合うための場として自主的、かつ自然的に昭和30年ごろに生まれ、クラブ数の増加と共にその輪が広がり、区老連の結成から、主として親睦と、共通の利益を守るための団体として昭和38年

4月に市老連が組織されたものです。

#### ときわ長寿会の沿革(昭和45年4月5日誕生)

昭和33年当時の常盤台東部自治会の世帯数は約165戸の新興住宅地で、住民は、南は九州、北は青森と文字通り全国が集まった人々が中心で「隣は何をする人ぞ」で隣保精神など皆無の状態で、とりわけ老人には話し合いの場もなく、さびしそうな様子を見かねて、当時常盤台地区全域(常盤台自治会)の自治会長川田修三氏(故人)が自費を投じて会館を建設、老人の憩いの場とし、さらに老人の福祉向上に資するため、老人クラブの結成に尽力されたのであります。

当時住好自治会在住の渡辺利勇氏(故人)を事務局長に委嘱、「ときわ長寿を守る会」が発足したわけであります。当時小生は自治会長(東部自治会会長)の関係から、老人クラブの組織運営については全くの無知であったが、大先輩の要請で副会長に就任させられたのが契機で今日に至りました。ところが同年川田氏が死去され、2代目に就任、その後会員が増強され、3クラブ(ときわ第1・第2・第3)に発展成長し、約160余名の会員同志が友愛精神を基調に、生きがいのある人生を目途にクラブ活動を展開しております。

今回ペンをとるに当たり、川田氏の老人クラブ育成指導に尽力された功績を大きく評価すると共に、自治会並びに老人クラブ運営に当たり、先人の遺産を役員が一致協力して守り続ける所存であります。

### 発足当時の役員構成

会 長 川田修三（東部）  
副会長 飯田清蔵（東部）  
副会長 村田真夫（北部）（第2長寿会会長）  
事務局長 渡辺利勇（住好）

### ときわ老人クラブの現状

現在の「ときわ老人クラブ」は組織的には「和田地区老人クラブ」の下に属し、地域別に5つのクラブがあります。合同の行事としては年に一度日帰りバス旅行を行い相互の親睦を図っていますが、各クラブにおいては独自に年間計画に基づいて活動をしています。戸建ての歴史のある自治会においては高齢化が急速に進み、今や65歳以上の人口比率は40%を超えてきました。これからの老人クラブの役割は、益々進む高齢化に対峙し、高齢者同士で互いに助け合い、そして余生を楽しく暮らせるまちづくりを推し進めていかなければなりません。

（平成24年3月現在）

クラブ名	地域	会員数	会長名
ときわ第一長寿会	東部	55	川田勝美
ときわ第二長寿会	北部・住好	91	高崎治郎
ときわ第三長寿会	中部・西部	60	沼崎哲郎
峰岡町三丁目第一白寿会	峰岡町三丁目	52	相田二郎
峰岡町三丁目第二白寿会	峰岡町三丁目	53	小金井庫雄
ときわ老人クラブ	合 計	311	



浜ちゃん体操 第二長寿会（2011年）

### 第一白寿会の活動

私たち峰岡町三丁目白寿会（老人会）の創立は昭和38年12月、横浜市が戦後20年を迎えるに当たり、健全で豊かな生活を推進する事業を発表した年、また峰岡生まれ峰岡育ちの老若男女達が和をつくり生



まれました。平成3年清水定雄氏が会長の時、会員の増加で2分割することになり第一・第二白寿会となりました。老人会発足後20年を経過しますと高齢化も進み第一・第二白寿会の会



新年会での相田会長

員数も多くなり町内会館(旧)には入りきれなくなりました。ちょうどその頃、横浜新道の拡幅工事が始まり、平成12年、陸橋下にも新町内会館が建設されることになり、悩みも解消されました。

平成19年会長職を引き受けることになり、早6年目を迎えていますが、高齢化の進展と共に会員も増加し、会の重要性を再認識しているところです。会の目的である友愛、健康、社会奉仕の理念に基づき親睦を図りつつ、夢と希望を持ち、地域に恩返しのできるようまた、各会員が第2、第3の人生を謳歌できるように共に活動を進めていきたいと思っています。

### 北川重雄氏（ときわ長寿会長）が保土ヶ谷区老人会会長に就任

北川重雄ときわ長寿会会長（ときわ第三長寿会会長）は平成21年4月から23年3月までの2年間、保土ヶ谷区老人クラブ連合会会長を務められました。







## 常盤台を守る精鋭部隊

保土ケ谷消防団 第三分団 第三班  
常盤台消防班 班長 高橋浩司

「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神のもとに、火災をはじめ地震、風水害などの災害から市民の皆様の安全を守るため地域住民により組織された団体で、消防局や消防署と同じく消防組織法に基づいて設置されている消防機関です。

活動の内容は、大きく分けて2種類あり平時（災害の起きていない時）と緊急時（災害が起きている時）に分けられます。平時では火災予防活動・警戒活動・教育訓練活動・資器材などの点検、地域防災指導、水利調査などがあります。火災などの災害が発生すると、いち早く災害現場に駆けつけ、消火活動や救助活動、警戒活動などを行います。

また、地域の行事などで消防団員が交通整理や人員整理などを行うのは、実は地域の警戒活動の一環です。我々は、保土ケ谷消防団 第三分団に所属する部隊です。中でも、我々第三班は平均年齢も低く、第三分団の精鋭部隊であると自負しております。

第三分団の管轄区域は非常に広く、和田・峰岡(三)・常盤台・仏向町・仏向西・坂本町・上星川・釜台町を受け持っています。いざ、災害があれば第三分団管内は勿論のこと、大規模火災等の場合は保土ケ谷区全域に出場致します。

また、近隣の区界での災害なども予想されることから、近年では他区の団との連携訓練も実施しております。

昨年の東日本大震災の際には横浜市内でも被害があり、我々消防団



常盤台小学校での救命訓練

員にも動員命令が下命されました。幸いなことに、第三分団管内では大きな被害もなく事なきを得ましたが、今後発生が予想される大地震に備え、装備の充実を図り、ことある毎に多角的に想定をした厳しい訓練を実施し、皆様の安全の一端を担えればと日々活動しております。

防災の要は地域にあります。災害の規模によっては、技術や機材だけでなく、人海戦術を取らなければならない場合が多々あり、発災直後の初動期は特に、地域住民同士の助け合い、人命救助や初期消火への努力が被害の軽減につながります。

私たち常盤台消防班は歴史ある消防班として、また誇れる精鋭部隊として常盤台を守ります。



昭和 50 年代の消防団員



## 常盤台地区連合町内会の一員として — 横浜国立大学と近隣住民との共存 —

横浜国立大学総務部長 大藤生気

横浜国立大学は、昭和 48 年に常盤台キャンパスに移転して以来、積極的に大学改革を行い、平成 23 年度「工学部等改組による理工学部を設置」及び「都市イノベーション学府・研究院の創設」を実現しました。これら 4 学部・5 大学院が全て同じキャンパス内にあるメリットを活かした大学改革に取り組むとともに、地域貢献に根ざした「常盤台地区連合町内会との共存」を実践しています。

### ○常盤台地区連合町内会との関わり

近隣住民の方々は、町内に国立大学があることを誇りに思い、学生との交流で町内の活性化が図られ、国立大学の持つ有形無形の資産が地元で活用されることを願っておられます。しかし、大学は近隣住民にとってトラブルメーカーである場合が多いようです。学生生活上のマナー、部活動や研究施設からの騒音、学内樹木の学外への影響等、あらゆる問題が発生します。本学の場合、近隣からの苦情を積極的にお聞きするため、平成 17 年度から毎年 2 回、大学周辺の 11 町内会で構成する常盤台地区連合町内会代表と連絡協議会を開催してきました。これらを契機に、近隣の方々との共存を真剣に考え、相互の意思疎通を図る取り組みを行っています。この他にも、本学の総務部長が毎月一回日曜日に行われる連合町内会の例会に出席し、「顔の見えるご近所づきあい」を行うことで初めて見えてくる大学と近隣地域との問題や課題について解決策を話し合っています。

こうした取り組みにより、現在では、両者の信頼関係が構築され、これまで住民各々

から大学に持ち込まれていた苦情は連合町内会の役員が窓口となり大学と解決を図る仕組みができました。町内会の方々は、「学生に住民として地域に参加してもらいたい」との思いがあり、毎年秋の大学祭で他のサークルと一緒に町内会の役員が総出で 3 日間「模擬店」を出し、学生との交流促進に取り組んでいただいています。

一方、大学からも学生サークルの民謡研究会や留学生が連合町内会主催の盆踊りなどに参加して交流を図ったり、保土ヶ谷区が本学の隣に設置した高齢者等のための地域ケアプラザ及び児童のためのコミュニティハウスの活動に本学も積極的に参加し、地域からの期待に応えています。平成 24 年の連合町内会主催賀詞交換会には本学の鈴木学長も参加し、近隣地域の方々との楽しい懇談の場となりました。



賀詞交歓会で挨拶する鈴木学長（2012 年 1 月）

### ○路線バスの学内乗り入れ

近隣の町内は、住宅地で坂道が多く高齢者のバス依存度が高いのにバス路線の廃止が危惧されたことや、本学関係者からも大



学へのアクセスに関して不便を感じる声がありました。こうした事情を考慮し、バス会社と協議を行い、既存の路線バス経路を変更していただき本学構内のバス循環が実現できました。これにより、本学近くの道路を通り過ぎていたバス路線が平成 23 年 3 月に学内 6 箇所のバス停が新設され利用者が増加し、学内関係者と併せて近隣の方々の利便性の向上にも大きく貢献しています。



路線バス乗り入れ一周年記念で

#### ○認可保育所の学内開園

本学は、女性研究者への支援に取り組むため「次世代育成支援対策行動計画」を策定しています。

学内関係者へのアンケートや近隣住民へのアンケートでも、本学に保育所設置の取り組みを要望する声が多くありました。本学では、これまで大学入試センター試験の業務担当者等に臨時の託児サービスを実施してきましたが、本学のような医学部を持たない中規模大学では、需要と供給の兼ね合いや受益者負担等の事情から大学単独では保育所の設置が難しい状況です。こうした課題を横浜市、保土ヶ谷区及び地元関係機関と調整の結果、本学は学生の教育に保育所を活用することを前提に学内の土地を提供し、横浜市・保土ヶ谷区は待機児童の解消を目指すための援助を行い、社会福祉法人による「平成 24 年度認可保育所の開設」が実現しました。これにより、女性研究者や大学院生等の研究教育環境が大幅に改善され、常盤台地区をはじめとする近隣

地域においても待機児童の解消に大いに協力できることとなりました。平成 24 年度から、本学構内で園児達が楽しそうに散歩しています。



国大内「森のルーナ保育園」の開所式  
右から有澤会長、鈴木保土ヶ谷区長、鈴木国大学長

#### 地域との共存を大切に

横浜国立大学は、神奈川県内にある唯一の国立大学として今後も地域に大きく貢献していくことが期待されています。先ずは、ご近所である近隣住民の方々に学内を散歩していただき、緑豊かな構内を満喫していただくことが大切と考えています。本学の学生は約 1 万人、そのうち外国人留学生がおおよそ 900 人、学生のうち 80% 強が県外出身者です。横浜国立大学が立地する常盤台を第二の故郷として愛着を持った学生を育成するためにも、本学は「ご近所である常盤台地区連合町内会との共存」を大切にしています。



留学生と共に盆踊りを楽しむ鈴木学長（2011 年 8 月）



(連町研修会 2012)

## 常盤台連町の自治会・町内会

この欄は常盤台地区連合町内会の各自治会町内会から寄せられた歴史や活動を掲載しています。

### ① 常盤台北部自治会

#### 緑に囲まれた教育・福祉のまち

私たちの自治会は常盤台地区の北の端に位置し、中央東部地区の峰沢町、神奈川区の羽沢町に接している地域と、平成 12 年にアンジュの丘自治会に隣接する戸建て 7 所帯（私達自治会を指名して加入）合わせて 200 ほどの戸建てを中心とした自治会です。

地域の半分が調整区域ということから、緑が多く、そんな中に聖ヶ丘学園・育和幼稚園・常盤台病院・特老夢の里・特老レジデンシャル常盤台が点在し、横浜国大北門のある教育、福祉の静かなまちです。

平成 27 年 4 月開業予定の神奈川東部方面線羽沢駅（仮称）からは徒歩で 5 分ほどの至近距離にあり、近い将来には、この静かな町にも大きな波が押し寄せると予想されている地域でもあります。

#### 近隣に誇れる自治会活動

私たちの自治会には近隣に誇れる多くの自治会活動が長期間継続して行われています。

その第 1 は、自治会情報紙「ほくぶ」です。毎月発行されて会員および公共施設、近隣自治会に情報を発信しています。平成 25 年（2013 年）2 月現在で第 235 号の発行となり、第 1 号が発行されてから 24 年を経過しようとしています。



聖ヶ丘教育福祉専門学校

第 2 は、自治会主催のゴルフ会です。当初は自治会活動参加に消極的であった男性を取り込むための行事として春秋の年 2 回開催していましたが、現在では近隣の多くの皆さんの参加（毎回 9 ～ 10 組）もあり盛大に実施されています。この会も 46 回を数え 20 年を経過しました。

第 3 は、趣味の会で 160 回を迎えた「月一会」ゴルフです。この会は自治会主催のゴルフ会とは別に、ゴルフ愛好家が毎月開催している





会です。参加者は自治会員が主ですが、各地から多くの仲間も参加しています。バスパックでもあり平均参加者は5組と大盛況です。

第4は、毎月開催される「月一マーシャン会」です。10時から世話人の手料理とお酒をいただきながら、健康と緊張感のある勝負を転出された元会員、近隣者も加わり4卓(手積)で楽しんでいます。この会も165回目を迎えました。

第5は、高齢者を対象とした倒れ防止体操の会「いきいき体操会」です。聖ヶ丘学園の冷暖房付体育館を無料で借用し、インストラクターの指導のもと月2回実施しています。

この会は唯一、住好自治会・西部自治会に声をおかけし、また地区社会福祉協議会からの助成金を得、3自治会連携事業として実施しています。平均年齢は75歳、20～25名の参加者で、恵まれた環境下で体力づくりをしています。この会も10年を経過しました。



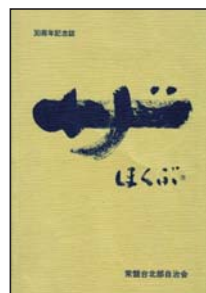
この他に女性群もマーシャンをしたいと始まった「月一女子マーシャン会」、毎月カラオケで楽しんでいる「歌う会」・健康ウオークを兼ねた「歴史散策の会」これらはすべて5年を経過している会です。

これらの会には当然重複して参加されている会員、および近隣地域の皆さんが大勢います。この多くの会の相互融和こそが、家族同様の「顔の見えるお付き合い」ができていく基であり、住みよい地域づくりの源なのです。誇るべくは、これらの会は全て長期間継続され、自治会員だけでなく近隣地域の皆さんにも広く開放されているということ、更に各会を運営する「世話人」が、これほど長い期間、継続してお世話をしてくださっているということです。感謝に堪えません。

## 「自治会創設 50 周年記念史」の発行

平成 24 年 4 月をもって自治会創設 50 周年という節目の年を迎え、「30 周年記念史」(57p) に引き続き「50 周年記念誌」(65p) が発行されました。誇りある北部自治会の過去の足跡を後世に引き継ぎ、更なる進展を願うてのことです。

(前自治会長 山口和秀記)



---

## ② 常盤台住好自治会

---

### きらり！と光る小さな自治会

戦後の住宅難であった昭和 27 年、現在の大池道路（第一釜台バス停から西釜台バス停付近）と横浜国立大学（当時は程ヶ谷カントリー倶楽部）に挟まれた雑木林を神奈川県が宅地造成して県営の平屋建て木造賃貸住宅 42 戸が建設され、「県営住宅住好会」（後に常盤台住好自治会に名称変）が誕生しました。初代の会長は、北折久男氏で当時は県営住宅の管理人としての役割もありました。

当時の常盤台地区には常盤台自治会（北部・西部・中部・東部自治会の前身）・峰岡町三丁目町内会がありましたが、小さな自治会ながら単独で設立しました。その後、昭和 31 年に日本鋼管㈱の職員の方々が、同地区に住宅を 10 戸建設し、更に一般の住宅が建設されて、現在（平成 24 年）では、96 世帯となり自治会の設立当初の 2 倍以上になっています。

昭和 27 年に相模鉄道の和田町駅が完成し、この住宅への唯一の交通手段となりました。そして昭和 30 年より、相鉄バスが和田町駅から釜台第二（船員保険病院前）間を運行し、翌年には JR 東神奈川駅西口まで延長されました。その後、横浜駅西口から釜台経由の和田町駅行となり、そして、現在の上星川駅行の運行が開始されました。



中央大池道路右が県営住宅住好会、左はやよい自治会（昭和 38 年）

自治会設立当初は、大池道路の対面（現在の北部自治会の一部と釜台町自治会の一部）は一面の麦畑でしたが、相模鉄道が宅地造成し「釜台住宅」として分譲しました。その住宅を中心に昭和 31 年「やよい自治会」が誕生しました。このころは、常盤台地区連合町内会はまだ設立されていなかったために、常盤台地区の自治会は全て和田地区連合町内会に加入していました。

昭和 47 年、常盤台地区の自治会を中心に和田地区連合町内会から分離して「常盤台地区連合町内会」が設立されました。当初、やよい自治会も常盤台連町に加入していましたが、所在地が釜台町であったため、昭和 63 年に釜台町自治会と合併し常盤台から離れて行きました。このことにより、私たちの自治会は常盤台地区で一番小さな自治会となってしまいました。

住好自治会は、設立当初からお祭りでおみこしを子供から大人まで一緒に担ぎ、また、常盤公園での連合町内会の運動会にも参加し、たいへん活動が活発でした。今では当初からの住まいの方も数多く、元気でゲートボールを楽しんでいます。高齢化が進んでいますが、小自治会であるがゆえに家族のように心の通った活動がなされています。

（元自治会長 山岸祐雄記）



和田町をねり歩く住好のおみこし（昭和 32 年）

### ③常盤台西部自治会

#### 常盤台西部自治会の生いたち

私たちの自治会は昭和 38 年に誕生し、今年（平成 24 年）で節目の 50 年を迎えます。昭和 37 年に西部自治会の前身であった「常盤台自治会」（現在の常盤台西部、北部、中部、東部の自治会）が分割されたときに常盤台地区の西側に位置することから、「常盤台西部自治会」と命名され常盤台 47 番地～ 49 番地を中心に約 100 世帯、11 班で発足しました。

昭和 48 年横浜国立大学職員宿舍の転入、その後マンションの建設、釜台自治会からの転入、平成 12 年には「事業団ときわ会自治会」が解散し、私たちの自治会に編入した等で会員も増加して、現在では準会員を含めると 300 世帯となりました。



常盤台西部自治会会館

#### 子供の遊び場と地域の施設の設置

昭和 51 年に行われた下水道の整備、改修工事に伴い常盤台 50 番地一帯の溝川埋設による余剰土地が生まれ、昭和 53 年に遊園地、保土ヶ谷消防団第三分団第三班（常盤台消防班）の詰



所、消火器機・車両格納庫、および常盤台地区連合町内会備品収納倉庫が建設されました。

#### 常盤台連町活動の中心地に

平成 21 年には、常盤台地域全体の念願でもあった「常盤台地域ケアプラザ・常盤台コミュニティハウス」が合築として事業団職員宿舍の跡地に建設されました。また、横浜国大の西門が整備され、平成 23 年に構内運行を開始した乗り合いバスのバス停が設置され、コンビニも開店しました。現在では常盤台地域の中心地として重要な役割を担っています。

(元自治会長 相良武男記)



コミュニティハウスでのワイワイウオーク

#### ④ 常盤台中部自治会

##### 常盤台地区の”へそ” 終わりなき足跡をめざして

昭和 15 年、峰岡町から分離独立して誕生した全常盤台と同時に「常盤台・釜台町町内会」が発足しました。当時常盤台全体の世話人でもあり、また功労者でもあった川田修三氏（東部自治会）の労により、昭和 26 年に常盤台は釜台町と別れて「常盤台自治会」となりました。その後人口の増加に伴い、昭和 37 年



昭和初期の常盤園内

に常盤台自治会は 4 分割（北部・東部・中部・西部）され、現在の常盤台中部自治会が誕生したのです。

自治会発足前の私たちの地域は、明治後半から昭和初期ころまでは自治会域全体が常盤園（現常盤公園は常盤園の一部）であり、広大な梅林、そして梅林を囲む運動場、その脇には手の凍るような湧水・小川のせせらぎの音と溢れんばかりの自然に囲まれた地域でした。

終戦後、常盤園も現在の常盤公園の部分だけを残して徐々に開発されてしまい、残念ながら今ではかつての名園「常盤園」の雄姿を見いだせるものは全くありませんが、この地の歴史は後世に引き継がなければなりません。

私たち自治会の周囲には日本で最古の歴史を持つ緑豊かな程ヶ谷カントリー倶楽部がありました。また教育と医療分野においては、昭和 29 年に保土ヶ谷中学校が、30 年に横浜船員保険病院、さらに昭和 33 年常盤台病院、翌年に育和幼稚園、そして 35 年には常盤台小学校と順次開設され、更なる教育、文化、福祉への地域へと変貌を遂げてきました。そんな中、私たち中部自治会は初代会長に板倉徳治氏を迎え、常盤台の”へそ”としての役割を担うべく歩んできました。

昭和 42 年に移転した程ヶ谷カントリー倶楽部の跡地には、横浜国立大学が転入してきました。これを契機に会員意識もかわり、当時の自治会長石崎茂氏の特段のご厚意により、氏の所有地の一部を無償貸与頂き、昭和 50 年に待望の中部自治会館の竣工となりました。この会館の建設は氏への大なる賛辞と地域愛に感謝すると共に、地域発展の基点となりました。

平成 20 年、かねてより懸案であった自治



ワイワイウオーク会館前で（2009）

会館の敷地でしたが、全会員および役員の深いご理解により購入することができました。今後は一層磨かれた中部自治会の旗艦基地となると確信しています。

自治会組織は、三役・監査・七部会で構成されています。各部会の行事等にも、おのずと勢いが増し、好ましい結果が付いてくるようになりました。また自治会内に昭和55年、幼児生活団「横浜友の会」が開設され、あらたなる教育環境も根を下ろしました。

歴史あるこの地域を見て、幸いにも大変恵まれた自然・教育、福祉環境の中にあり、我々中部自治会は一団となって未来へ躍進し続けなければなりません。

(自治会長 田宮照夫記)

---

## ⑤ビラージュ JFE 常盤台公園自治会

---

### 18歳を迎えたビラージュ自治会

#### 沿革

- 平成6年3月 旧日本鋼管(株)の社宅として「ビラージュNKK常盤台公園」竣工
- 平成7年4月 入居開始「ビラージュNKK常盤台公園自治会」発足
- 平成15年4月 会社統合により「ビラージュJFE常盤台公園自治会」に名称変更  
(自治会構成世帯数 200世帯)
- 平成24年4月 第18代自治会活動開始  
(自治会構成世帯数 50世帯)

#### 年間活動

- ・定例幹事会(毎月)
- ・環境整備(5月から12月まで隔月実施の敷地内清掃、6月の害虫駆除、9月の全体清掃、12月の大掃除等)
- ・常盤台地区連合町内会各種行事への参加(納涼盆踊り、防災訓練、横浜国大常盤祭、ワイワイまつり、新年賀詞交換会、地域親睦囲碁・将棋・麻雀大会)
- ・自治会独自行事(社宅内防災訓練、クリスマス会)

### 自治会の継続は未定

当自治会の世帯は、小学生以下の子供を持つ3～4人家族が多いのが特色です。会社の社宅であり、いずれ出ることを義務づけられているため、比較的若い世代が多いように思います。多くの世代が住まう、他の自治会とは異なる部分かと思います。7～8年前までは空き室数が少なく、多くの世帯が住んでおりました。

昨今のビラージュJFE自治会の世帯数は減少傾向にあり、平成24年度は50世帯になり10年前の4分の1まで減少しました。会社で借上社宅制度(各自で住居を探して、家賃を補助する制度)が始まり、会社が保有している社宅に入る社員が少なくなったこと、また、常盤台同様のビラージュ系社宅(三ッ池公園、元住吉、潮田)は他に3つありますが、全て2015年が期限となっており、その後継続になるのか、廃止されるのかは未定となっていることが主な原因です。そのため、入居はなく退居は少しずつ増えているため、社宅の世帯数は毎年減少しています。

今後、社宅がどのようなになるのか未定ですが、ビラージュJFE常盤台公園として続く限りは常盤台地区連合町内会と共に歩むことが出来ればよいと思っています。

(ビラージュJFE常盤台公自治会役員)





## ⑥ 常盤台東部自治会

### 常盤園の一部であった東部自治会地域

戦前は現在の東部自治会地域全体、および西部自治会の一部は「常盤園」の一部であった。常盤園の池のほとりに6軒、公園の入り口に茶屋が2軒、八町八反(現在の北部自治会地域)に5軒、と常盤台全体で13軒ほどの集落であった。

そんな環境の中、川田氏は昭和2年北海道から横浜に出てこれ現在西区に住まわっていたが、昭和14年常盤台に移られた。住まいは常盤園の一角、池のほとりにあった東屋に居を構え、港湾の仕事に従事された。戦時中は本業の傍ら町内においては、国からの指令による国土防衛のために「となり組」の組織を強化し、地域住民の士気の高揚と食料増産のために常盤公園の梅林(現在の横浜常盤公園ヒルズ・コスモ横浜常盤公園)一帯を整備して畑にし、常盤園内の2つの池(現在の東部地区にあった池3,000坪と300坪)を埋め立て水田に改良した。また、休業中の程ヶ谷ゴルフ倶楽部のゴルフ場を開墾し食料の増産にも協力をした。

「常盤園」の中に住まわれていたということもあり、常盤園とは深い関係を持ち、戦後の苦しい時期の地域再生に尽力された。この精神は常盤台東部地域のみならず、現常盤台全域の基礎を作り上げた。

氏の偉業の一部を以下に記し感謝を申し上げます。



川田修三夫妻

○常盤台地区連合町内会発足(昭和47年)前の「常盤台自治会(昭和26年発足)」の初代自治会長

○常盤稲荷の移設代表役員

○畠山重忠公郎党恩讐慰霊塔(常盤公園内)建立代表

○弁天堂の遷座(自宅の庭) 川田セツ氏(川田修三氏奥様)

(昭和15年の秋の思い出 川田勝美氏は川田修三氏の3男)

### 戦後の常盤台東部地域

終戦後、ゴルフ場(程ヶ谷ゴルフ倶楽部)は米軍に接収され、進駐軍専用のゴルフ場として整備された。

昭和27年に川田氏から、かつて池のほとりにあった東屋の跡地を譲り受けて新居を構えた。新居の前は、水田の名残こりで浅い池のようであった。また少し高い公園からの絞り水と、反対方向からのゴルフ場からのきれいな地下水により蜻蛉(トンボ)の幼虫やゴ、メダカ、夏にはホタルが飛び交え、カエルが鳴き山村の田園風景そのもので、静かな山あいの部落であった。



戦後の東部地区

その後、ゴルフ場に隣接していたブドウ園(帷子葡萄園)は横浜市が開発し、市のモデル住宅地として70区画を「常盤台住宅」として分譲した。

東部地区の高台の一角には住友銀行保土ヶ谷寮と日本鋼管常盤台アパートが建設され、昭和40年にそれぞれ自治会を設立したが、平成6年と8年にそれぞれ解散した。後にその跡地に2つのマンションが建設されて、平成9年にコスモ横浜常盤台公園自治会が、平成10年に横浜常盤公園ヒルズ自治会が設立された。

(小林利彦記)

---

## ⑦ コスモ横浜常盤台公園自治会

---

### 脱皮できるか？・・・わが自治会

当マンション名の一部にはこの地区の総称である「常盤台」を使用し命名されています。場所は銘坂の一つ「レンガ坂」を登りきり、更に坂を上がった奥の高台で、遠くには「みなとみらい」の高層建物群が見渡せ、また四季を通じ常盤公園と横浜国大の深い緑を目前にする環境にも恵まれたところです。

ここはかつての名園「常盤園」の一部で一面の梅林でにぎわった場所であったと聞いていますが、昭和 39 年に住友銀行保土ヶ谷寮が建設され、同時に自治会も設立されましたが、平成 6 年に寮の廃止と共に常盤台東部自治会に統合されました。その後民間デベロッパーの開発により、7 階建て総戸数 128 戸の分譲住宅が建設されました。

### 自治会の設立

コスモ横浜常盤台公園はこの立地、環境の良さから全住戸 80 ㎡以上の大型住戸 128 戸を揃えたことで人気を博したマンションでした。そのようなことから現在まで入退去も比較的少なく、引続き住み続ける方が多いようです。今から遡ること 15 年、入居当時は若く活力のあった人達が、地域の一員としての自治会活動の必要性を思いつつ、又管理費用の中に自治会費の徴収があることを踏まえ、直近の常盤台東部自治会の役員の皆様や、区役所に相談をしながら自治会設立について行動を起こし、平成 9 年 12 月に「コスモ横浜常盤台公園管理組合」の臨時総会（理事長 衣川潔氏）を開催し、管理組合より分離した自治会の設立が承認されました。ここに「コスモ横浜常盤台公園自治会」が誕生し、初代会長に飯野正晴氏が就任されました。

### 自治会の活動及び今後に向けて

設立直後の平成 10 年 3 月開催の第 1 期の総会で、次期に向けコスモ自治会活動、連合町内会活動、学校との連携による様々な行事、パトロール等への参加、更に行政委嘱委員の推薦等が討議され、また基礎づくりの一環として、「子供会」、「婦人部」が発足し現在の組

織が出来上がりました。第 7 期において「自治会のあり方」が検討され、今まで併任であった「コスモ管理組合理事会」と「コスモ自治会」との役員を完全に分離しました。両者が独立したことで、実働の役員数は倍増しましたが、それぞれの運営は極めて容易となりました。

第 8・9 期に入ると自治会活動も活発になり、特に防災意識の高まり「防災態勢整備計画」が完成し、「防災マニュアル」と共に全戸に配布されました。他方、子供会中心の一大イベントでもある「餅つき大会」も開始されました。

作今では会員の高齢化も徐々に進み、また小学生も年々減少し続けて、行事開催の人集めにも影響が出てきました。時代の流れとはいえ「社会の変化に対応できる自治会」へ向けての対応が急がれています。

（前自治会長 ミツ木卓三記）



---

## ⑧ 横浜常盤台公園ヒルズ自治会

---

### 地域と共に

横浜常盤公園ヒルズがある場所は、かつては保土ヶ谷の富家であった岡野氏が個人資産を投じ造成し、大正時代に公園施設「常盤園」として一般公開された場所であるとのこと。当時は、梅林をはじめ、四季折々の花園、竹林等、野趣豊かな名園として名を馳せたと共に、養鶏場や食用ガエルの養殖等も行っていたようだ。さらには、全国規模による運動競技会等が開催される程の運動場を備え、大勢の人で賑わっていたとのことである。

昭和 40 年初頭。その常盤園の東南の一角に日本鋼管（現 JFE）の社宅が建設されたが、平



成 8 年に解散（取壊し）された。その後、三菱地所・日本鋼管が共同事業主となり、敷地面積 8,905 m<sup>2</sup>の敷地内に RC 造 7 階建、80 m<sup>2</sup>超 3LDK プランを主体とした総戸数 118 戸＋管理員室・集会室、延床面積 12,741 m<sup>2</sup>の分譲集合住宅が大林組により建設され、平成 10 年 2 月に竣工したのち順次入居が開始された。



現自治会の始まりは、平成 10 年 5 月 31 日に開催された管理組合の第 1 回定期総会において設立されスタートした。その目的は、「会は民主主義の精神に基づき、会員の共同生活を通じ、会員相互の親睦と福祉を増進し、もって地域社会の向上発展を図ることを目的とする」というものであった。当時の役員組織は、会長 1 名、副会長 1 名、理事若干名、会計 1 名、監事 1 名の少数精鋭組織であり、しかも役員は全員、管理組合の役員を兼任していた。

平成 16 年から青少年指導員と体育指導員が自治会の専任として選出されるようになり、更には平成 17 年に環境事業推進員も専任として追加された。

そして、平成 19 年 2 月 5 日に開催された臨時総会において、地域活動へ積極的な参加をする事を目的に自治会規約が改定され、今まで管理組合と兼任していた会長職を専任とすると共に常任理事を数名置く体制となった。また、自治会の目的（あるべき姿）も見直された。その主な内容は、「近隣住民との親睦、協調、連携強化により、快適で住みやすいコミュニティを維持向上させること」「防犯・防災・防火等の協調連携強化を図ること」と改定された。尚、この改定でもう一つ特筆すべきことは、自治会の会員を「所有者又はこれに準じる者」から「居住する世帯」に変えたことがある。これは、入

居が始まって 10 年近くたち、入居者の出入りが生じるようになった為、自治会活動の目的に即したものにするためであった。

その後、平成 21 年に婦人部担当役員を増員し、同年には連町の婦人部会長を務めている。

近年の自治会活動としては、連合町内会等への積極的参加は勿論のこと、独自活動として、AED（自動体外式除細動器）の設置及び維持管理、非常用発電機の購入整備、防災訓練の実施、年末年始におけるパトロール等を行なっている。

まだ満 14 年と若い自治会ではあるが、今後さらなる常盤台地区の発展と、安全で安心な街作り創作に向け、地域と共に微力ながら活躍できる自治会を目指し活動していく所存である。

（役員一同）

---

## ⑨ 常盤台みどりが丘自治会

---

### 環境を大事に明るい街づくりを目指して

当自治会は程ヶ谷カントリー倶楽部の跡地に横浜国大に隣接して昭和 49 年（1974 年）住友不動産の建売分譲住宅 95 戸を以って発足した。近隣の自治会への加入も検討したが常盤台地区では国大を挟んで東のはずれに位置し、また当時は横浜新道常盤台口から車の出入りができたため住宅地内を大型トラックが通過し騒音と危険な状況が続き、特に 50 名を超える小学生の通学の安全確保が緊急課題となっていた。そのため住宅内 9 ブロックから代表者を選出し急遽自治会を組織して問題の解決に当たった。



建設当時の自治会全影（昭和 50 年）

発足当初は集まる場所にも苦勞し、会館建設

の資金がないため自宅を持ち回りで集会の場としていた。しかし個人宅を使うにも限度があり2年後の昭和51年6月市営バスの払い下げを受けて偶々現在の自治会館の敷地が共有の下水処理場であったことからその一角に大型バスを搬入して集会場とした。日常的には子供たちの遊び場としながら会員から蔵書の寄贈を受けて図書室としても活用した。しかしバスの老朽化から5年後の昭和56年8月にプレハブ造り20㎡の仮設集会所を建設した。



1996年(平成8年3月) 完成した新自治会館

入居以来自治会独自で下水の処理に当たっていたが昭和59年に市の下水本管との直結が可能となったのに伴い汚水処理設備を撤去して跡地を会員用駐車場に改めその利用料を新会館建設資金の積立の一助とした。その後仮設集会所の傷みが激しくなって来たことから、入居以来20余年をかけて計画的に積み立ててきた資金を元に念願の会館の建設を進めることになった。建設委員12名を選出して計画が進められ、平成8年3月に84㎡の新会館が完成し現在に至っている。

計画に当たっては前年に発生した阪神淡路大震災の教訓を生かしつつ現地調査のほかボーリングによる地盤調査、活断層調査を行い耐震性を重視した平屋建てとした。また防災の視点から井戸を掘削し大型発電機を備えて断水と停電に対処しまた都市ガスは避けてプロパンによるなど災害対策を重視している。



1974年(昭和49年5月)入居当時の常盤台南公園

会の運営に際しては会員の多くが初対面の間柄であったので防災防犯上早急に緊密の度を深めることが大切であった。そのため昭和50年夏には試みに住宅の中の公園で盆踊りを開いて親睦の場とし、あるいは焼き芋や餅つき大会、ゴルフコンペなどを通じて互いに知り合う機会を作ることに力を入れてきた。更にクラブ活動を奨励し囲碁絵画料理折り紙パソコン演習など親睦の輪を拡げ、グループでの箱根鎌倉や近隣の名所旧跡の散策、三浦半島一泊旅行などを折に触れ催してきた。また周辺に常盤公園・三沢公園など緑に恵まれていることもあり、花と緑の街づくりにも努め市から表彰も受けている。平成12年5月現在世帯数は当初の95戸に対して120戸と増えており、うち当初からの入居者は46戸となり新しい会員が増えつつあるので防犯防災の上からも会員相互の連携緊密化は益々重要となって来ている。

(元自治会長 本多千也記)

---

## ⑩ アンジュの丘自治会

---

### 『入居者が助け合える自治会』を目指して

現アンジュの丘自治会の場所は、かつて歴史ある程ヶ谷カントリー倶楽部のゴルフコースのど真ん中でした。(写真)昭和42年当ゴルフ場が旭区に移転し、その跡地の一部に建設されたマンションの自治会として、平成14年4月に発足し、今年10年目を迎えました。現在は横浜国立大学常盤台キャンパスと国際交流会館の間に位置し、世帯数271戸・約800名が居住する自治会です。特徴はファミリー層が多いため、昨今の少子高齢化の時代に反し子ども数が多い若い自治会です。

自治会運営は、管理組合(理事会)の下、げんき会(敬老会)では、社会福祉協議会のご支援をいただいた食事会をはじめとし、ウォーキング会・プランターの植栽・落語観賞会などを開催。ポテトクラブ(居住者有志で構成する組織)は自治会の全般的なバックアップを中心に、ビアパーティーなどの企画・実施などを行っています。また、子ども会では古紙回収場所まで運ぶ事が困難な居住者を対象とした新聞回収・各種行事のポスター作



製・夏休みのラジオ体操など活動しています。ペットクラブでは、マンション近隣の清掃活動やペットの管理に係る講習会などを開催しています。



写真上部白線は大池道路・黒い部分は三ツ沢池  
中央部分程ヶ谷カントリー・下部建物はろう特別支援学校・○内にアンジュの丘が建設された  
(昭和 38 年)

また、連合町内会や社会福祉協議会主催の行事にも積極的に参加させていただいているほか、自治会独自でも、アンジュ祭り・ビアパーティー・餅つき大会・災害対策訓練・クリスマスの頃より正月過ぎまでメインエントランス（車寄せ）にイルミネーションの飾り付けを行ったり、居住者全員を対象とした行事も多数実施しております。

平成 23 年 3 月 11 日の大震災以降人と人との助け合いの重要性が再認識されている今日この頃ですが、『入居者が助け合いできる自治会』『ここで生まれ育った子供たちが「ふるさと」といえるような自治会』を目標に歴代の役員も頑張ってきました。歴史ある常盤台連合町内会の一員として、引き続きよろしくお願い申し上げます。

(前自治会長 神原久典記)



## ⑪ 峰岡町三丁目町内会

### 保土ヶ谷区と歩む峰岡町三丁目町内会

わが町峰岡町は、昭和 2 年（1927 年）10 月横浜市第三次町村の合併で保土ヶ谷区が誕生し、同時に旧名神奈川県橘樹郡保土ヶ谷町字峰から横浜市保土ヶ谷区峰岡町になりました。当時の峰岡町は丁目がなく区域は現在の峰岡町（一～三丁目）と常盤台、釜台町をも含む全地域の町名でしたが、昭和 15 年（1940 年）町名再編成により常盤台、釜台町が分離独立した時点で峰岡町に丁目が付され、わが町は「峰岡町三丁目」と命名されました。それから 85 年が経過した現在では、会員数 650 を数えるほどに増加して常盤台地区では一番大きな町内会に発展しています。

わが町に昭和 28 年 1 月に町内会館が設立され、今年で 59 年の歳月を迎えました。当時会員は 190 世帯で町内会館もない小さな町内会でしたが、役員等により木造平建て面積 23 坪の会館が建てられました。その後、会員の増加で会館は狭くなってきたため新たな会館の建設が必要となり用地を物色しましたが、見合う物件がなく時はいたずらに過ぎて行きました。

昭和 33 年、わが町の中央部を横浜新道が開通しましたが、その後の交通量の増加に伴い、平成 8 年に拡幅工事が行われた時に高架道の下に格好の建設用地が生まれ、さっそく横浜市に土地使用願い提出し、平成 10 年 5 月に念願の新町内会館が建設（木造一部 2 階建、延面積 200 ㎡（60 坪））されました。

この会館は町内会員のほか、周辺自治会にも利用され、また常盤台地域ケアプラザ・コ

コミュニティハウスが建設される平成 21 年までは、常盤台地区連町の定例会議場として大きな役割も果たしました。



拡幅後の横浜新道（平成 10 年）

この横浜新道の拡幅工事により、トンネル上部の遊休地に 3,000 m<sup>2</sup>の中規模公園が造成され、『峰岡町三丁目公園』と命名されました。この公園は高台にあるため眺望がよく多くの人々の憩いの場として親しまれています。町内会ではこの公園を災害時の「いっとき避難場所」に指定して、防災倉庫を設置し、公園の維持管理を行っています。

他面、わが町は北側が丘陵地であるためにテレビの映りが悪く、早急な改善が望まれました。昭和 46 年町内会は、会員を募り「共同聴視組合」を設立し、改善工事を行いました。

たが、平成 23 年アナログ放送が終了し、地上デジタル放送となったために切り替え対応工事を施行し、現在も会員に良好なる映像を安定供給しています。

最後に、私たちの町は発足から 85 年の歴史と共に、様々な変革と変貌を経て、今日の町内会に発展してきました。

特に、昭和 33 年横浜新道の開通は町を二分し、町の環境を大きく損ねましたが、その後の拡幅工事により改修され、併せて公園の造成及び町内会館の用地を提供され、町の運営に寄与されております。

横浜新道の開通から半世紀余り、町内会と横浜新道は現在も営々と共存しておりますが、今後も保土ヶ谷区と共に高速道路の運行を担ってまいります。

（前会長 小金井庫雄記）



峰岡町三丁目公園



常盤台からの風景



# 神奈川東部方面線羽沢駅(仮称)の開業 (将来の新横浜副都心を期待)

羽沢駅周辺まちづくり協議会副会長 山口和秀

神奈川東部方面線の整備に伴い、常盤台地区の隣、神奈川区の羽沢貨物駅付近に旅客駅の設置が計画され、平成 27 年 4 月に相鉄線西谷駅から JR 線が JR 東日本東海道貨物線横浜羽沢駅付近までの連絡線(約 2.7km)を新設し、朝夕の最混雑時間帯 4 本程度、その他の時間帯 2～3 本程度の運転を行う。

また平成 31 年には、JR 東日本東海道貨物線横浜羽沢駅付近から東急東横線日吉駅までの連絡線(約 10.0km)を新設し、朝最混雑時間帯 10～14 本程度、その他の時間帯 4～6 本程度を相鉄線と東急線が相互直通運転を行う。

この新駅設置は神奈川区羽沢地区で、常盤台地区内ではないが、常盤台地区の北西部地域とは至近距離にあり、新駅開業に伴う常盤台地区への影響は非常に大きいものがあります。そこでこの事業の経緯等について記録に残すことにしました。



路線図

## ●羽沢駅周辺地区まちづくり協議会の設立

平成 18 年に神奈川東部方面線の施設が発表され、翌年の 10 月に住民に具体的な事業説明会が行われた。平成 20 年 9 月には、駅建設予定地の周辺関係者代表(保土ヶ谷区住民、神奈川区住民、農業従事者、横浜国大、鉄道事業者)等 25 名で構成する「羽沢駅周辺地

区まちづくり協議会」(会長に羽沢自治連合会長原氏、副会長に常盤台地区連合町内会会長山口氏)が設立された。協議会では、新駅が開設した場合の様々の問題点や課題について精力的に 10 回の会合を重ね、平成 22 年 3 月に付属書を含めて 50 ページに及ぶ「羽沢駅周辺地区プラン(協議会案)を作成し、横浜市に提出した。



起工式で挨拶する林横浜市長



建設が進む現場



## ●協議会案の要旨

(1) 駅設置周辺の現況は、広範囲に市街化調整区域であり、常盤台地区には横浜国立大学（学生、教職員数 12,000 人）と聖ヶ丘教育福祉専門学校（600 人）がある。この地区の建物は 2～3 階建ての低層住宅が中心である。地形的には駅設置場所を中心に 20m～30m の丘陵地が囲み、そこに住宅地が広がっている。

(2) まちづくりの基本目標は、緑豊かな環境の保全と都市農業の成長とともに神奈川東部方面線の開通地区の利便性の向上と誰もが安全安心に暮らせるまちづくりを目指し、羽沢

駅周辺地区のまちづくり目標を次の 3 つに設定した。

豊かな自然と身近に触れ合うことができ、生活の利便性に優れ、安心して暮らせるまち

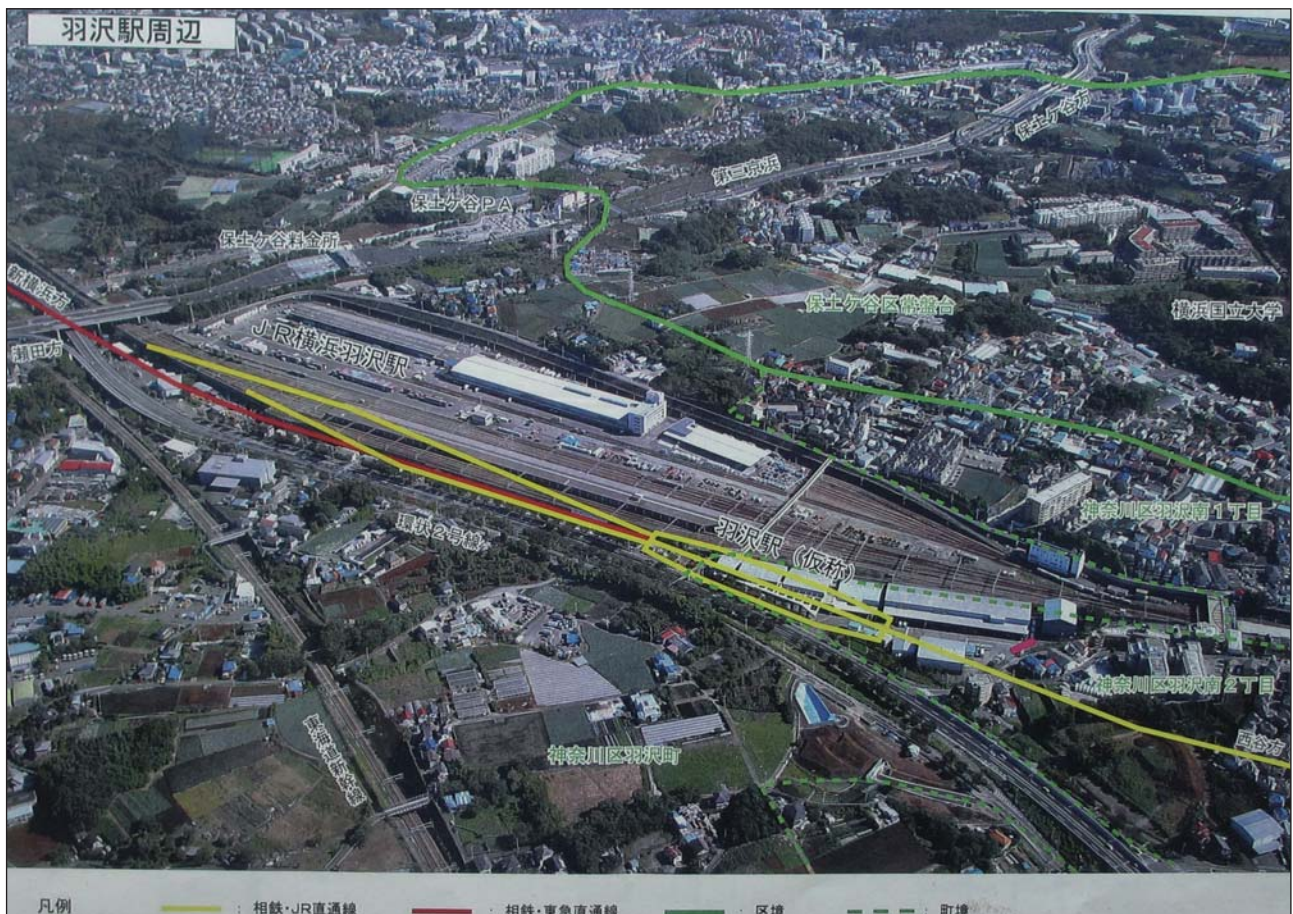
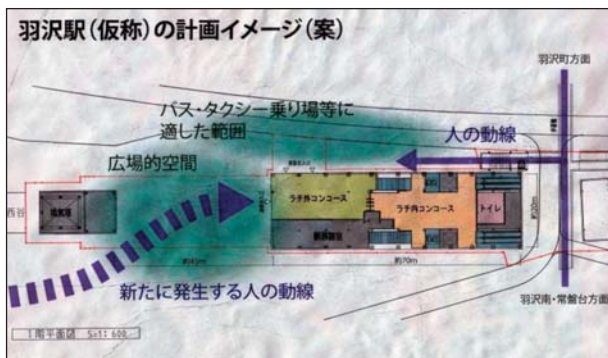
目標 1 利便性の高い都市と豊かな自然がバランスよく共生するまち

目標 2 営農を支援し、農地や緑地などを保全するまち

目標 3 駅へアクセスに優れ、安全性を確保したまち

駅の建設物は 80% が地下構造物である。従って地上を見てもその進捗状況は全く分からない。平成 24 年 9 月、地上 1 階の「羽沢駅の計画イメージ（案）」と地下のホーム階平面図が初めて示された。平成 25 年 1 月から約 1 年かけて約 1.4 km の西谷トンネル（羽沢駅から西谷間）の掘削が始まる。

3 年後の平成 27 年 4 月には予定ど通りに開業され、長期的には協議会案に沿ったまちづくりの基礎が示されることを願うものです。







(第29回(平成11年)保土ヶ谷区社会福祉大会で区長から表彰を受ける山口会長)

## 常盤台地区社会福祉協議会の歴史と活動

### ● 常盤台地区社会福祉協議会歴代会長

	会長名	就任期間	就任年数	所属自治会
初代	金子重春	昭和 62 年～平成 2 年	4	峰岡町三丁目町内会
二代	木所金作	平成 3 年～平成 12 年	10	常盤台中部自治会
三代	高崎治郎	平成 13 年	1	常盤台北部自治会
四代	齋藤 馨	平成 14 年～平成 21 年	8	峰岡町三丁目町内会
一	小金井庫雄 (代行)	平成 22 年	1	峰岡町三丁目町内会
五代	山口和秀	平成 23 年～		常盤台北部自治会

### ● 常盤台地区社会福祉協議会設立の経緯

常盤台地区社会福祉協議会は、連合町内会組織と同様に地域の社会福祉向上を目指して設立された任意団体で、昭和 62 年(1987 年)4 月に常盤台地区連合町内会の地域を対象として和田地区社会福祉協議会から分離して誕生しました。残念ながら和田地区に属していた当時代の資料が全く残されていない状態で事業等の詳細については不明です。しかしその背景について、現にご健康で当時を知る数少ない方に貴重なお話をお聞きますと、終戦直後の昭和 22 年頃の常盤台地域は「常盤園」の周辺を除いては全てが山間部であり、地域全体でも 50 戸～60 戸程度の家が散在していたようです。

一方、和田地域は昭和 7 年に常盤園の玄関駅として開業された「常盤園下駅」(現和田駅の前身)、そして戦後衰退していった常盤園と別れて、昭和 27 年に新たに建設され開業した現和田駅(常盤園下駅より 200m 上星川駅寄りに建設さ

れた)の開業により都市化されました。

昭和 45 年の常盤台地域の世帯数は、保土ヶ谷区役所の資料によりますと総世帯数 1,644 世帯、地域事情により常盤台地域として参加した峰岡町三丁目町内会を除くとその世帯数は 1,000 所帯余でした。

昭和後期の当時の経済状況からして、「子供中心の右肩上がりの好景気続きの時代」というまさに「良き時代」ということもあり、地区社会福祉協議会の存在意義が住民に十分に認知されていない時代でした。従って地区社協の中心的存在でもあった民生委員は、地域での有力者で名誉職的な存在でしかなく、その任務は唯一「公的証明書の発行」だけとっていいほどでした。

そんな環境の中、昭和 47 年(1972 年)に常盤台地区連合町内会は和田地区連合町内会から分離し独立しました。その主な理由は、常盤台地域の人口増加による行政的な管理、主に配布物、回覧物等々の配布が困難になってきたとい

うことからの行政指導による緊急の分離と言えます。

本来であればこの時期に併せて地区社協の分離があってもよかったのではと思いますが、これは必要性がなかったというより、むしろ上部の監督団体（区役所・福祉法人）が同一でなかったということから時機を逸したということだと思われます。そんなことで地区連合町内会設立に遅れること13年後の昭和62年の設立となりました。

### ● 地区社協設立初期の主な活動（総会資料より）

市が新たに建設を予定する福祉施設は、資金面からして市有地上に建設するというのが優先されているようだ。その市有地は常盤台地域には常盤公園を除いて全くない。

会長に就任して最初の仕事は会議場所探しから始まる。常盤台地域には市の公的施設はなく会議のする場所もないからである。当初は常盤公園弓道場内の休息所を会議場として借用した。しかし、会議場としての施設ではないため制限が多すぎて使用は不可。



会議で報告する木所会長（平成6年）

2代目木所会長は、コミュニティセンター建設誘致の用地探しを精力的に行ったとの記録がある。

山田きぬえさんの記録（平成9年12月5日三役会（東部自治会館））

#### コミュニティセンターの件報告

木所会長が市長に手紙を出して、なんとか常盤台地区にコミュニティセンターの建設をお願いしましたが、土地がないので無理ですとの回答あり。それでは常盤公園内の弓道場を2階建てにして2階部分をセンターにと申し出ましたところ、地域の老人会、子供会等で力を合わせて運動をするようにとのことでした。

その後も歴代の連町・社協会長は、第1目標として福祉施設建設の「土地探し」に奔走している。それは「土地さえ確保できれば何とかなる」と役所から言われていたからである。この土地探しは2007年第7代山口連町会長（第5代地区社協会長）時に関係者の大なる協力で現在地が確保でき、17年間も続いた土地探しに終止符が打たれた。そして2年後の2009年に常盤台地域全員の念願であった福祉施設「常盤台地域ケアプラザ」・「常盤台コミュニティハウス」（合築）が建設されたのです。

平成3年度には、「常盤台地区福祉マップ」の作成を6か月かけて精力的に作成とあります。残念ながらこの福祉マップの詳細は残っていません。当時はまだまだ高齢者の比率は低く、お年寄りも、全てにおいて人生の鏡として扱われていた時代です。



地域集会参加のみなさん（平成6年）

### ● 福祉モデル地区に指定

平成5年度になり、3年間の福祉モデル地区に指定されました。主な活動は

①年度は主に協議会役員で福祉の勉強会をする。  
②次年度は一般住民の方々への普及活動を展開する。

③終年は地域での実践活動を実施する。

と決定し次の2項目を実行しました。

○実践活動として…全体を3グループに区分し地域集会を3回実施する。全体集会を2回実施する。

○地区社協だよりの発行…年2回発行する。「常盤台地区社協だよりの発行」は平成6年3月に第1号が発行され、平成10年12月までに第7号まで発行されました。





## ● 会食会の実施

平成 8 年に会食サービスが開始された。その経緯が平成 8 年発行の社協だより 4、5 号合併号に高崎副会長が記しているのもそのまゝ掲載します。

常盤台地区が福祉モデル地区に指定されたのが 3 年前です。この間に高齢者福祉の研修会を行って、今後地域で継続してできることとして給食サービスを取り上げアンケート調査を行いました。仏向町などではボランティアの方々が調理もしていますが、当地域では場所や労力、時間等色々問題が多いので特養ホーム「夢の里」の理事長にお願いして作ってもらうことにしました。アンケートでは家庭への配食より会食の希望のほうが意外と多く、またいきなり配食サービスでは配達方法の問題もあり会食から始めることになりました。会食にも定期的に地域の方々が近くの自治会館に集まってお話をしたりする意義があることと思います。しかし、本来の目的である食事を創ることの困難な寝たきりや、一人暮らしの不住な方々へのサービスを近いうちに始められることを希望しています。その際は皆様のボランティアの配達サービスのご協力をお願いしたいと思います。これからは地域の中での高齢者同士で助け合うことが大切ではないかと考えています。

現在、地区社会福祉協議会が直接実施している事業は「会食会」と「あんしん訪問」事業です。この会食会も実施してすでに 16 年を経過しました。現在では民生委員のみなさんが中心となり、各対象自治会の役員のみなさんと共に歩いています。対象者は 70 才以

上となり、以前の 65 歳から 5 歳上がりました。その理由は、70 歳以下の方には高齢者意識がないこと。一方地域の高齢者（65 歳以上）の全住民に占める割合が 40% を超えるような超高齢化社会を迎えつつあることから費用的に対応が難しくなっていることからです。

## 会食会年度別実績

年度(平成)	実施箇所	年間実施延数	延参加人数
8	4	16	405
9	4	16	506
10	5	30	610
11	5	30	613
12	5	30	707
13	5	30	775
14	5	30	781
15	5	30	772
16	6	36	1,061
17	6	42	1,027
18	6	42	1,070
19	6	42	1,000
20	7	49	1,092
21	7	49	1,054
22	7	49	1,069
23	7	49	1,070

平成 23 年 3 月 11 日東日本大震災が発生しましたが、この地震と原子力発電所の放射能放出という大災害は、日本の全ての流れを変えました。福祉政策においても例外ではありません。平成 24 年度以降の高齢者会食会への区社協からの助成金は、食材部分は助成の対象からカットされました。これからの時代は高齢者特別扱いも含めた社会福祉全体の見直しが迫られています。

右の図は「常盤台地区社協だより」第 1 号掲載（平成 6 年）のイラストですが、こんな時代は「過去の夢」にならなければ…とさえ思われます。

平成 23 年 12 月、第 29 回保土ヶ谷区社会福祉大会で「常盤台地区高齢者会食交流会」が永年高齢者会食会による福祉貢献をされたとして、保土ヶ谷区長並びに保土ヶ谷区社会福祉協議会会長から表彰を受けました。



## ● あんしん訪問事業

地区社協の直接事業としての第2に「あんしん訪問事業」があります。この事業も会食会と同様に平成8年から実施されています。開始に当たって当時のあんしん訪問委員会書記齋藤馨氏（第4代地区社協会長）が社協だより第6号（平成9年3月発行）にその要旨を記していますので紹介します。

「おじいちゃん、おばあちゃんお元気ですか」「いつもどうもありがとう」こんな親しみを込めた会話が始まる「一人暮らしあんしん訪問」活動が平成8年9月から実施されています。この活動は、横浜市がよりきめ細かな福祉事業を推進するために始められたものです。この活動の主体は、常盤台地区社会福祉協議会がこれを受け、各自治会長、民生委員、友愛活動推進員、保健活動推進員等のみなさんの中から地区ごとに「あんしん訪問員」として1～2名推薦し活動をしています。

常盤台地区の65歳以上の一人暮らしの方は、47名おります。訪問は希望に合わせて月1回、3か月に1回、6か月に1回とまちまちです。困ったときの相談など親身になって解決の手立てを講じます。以下略

この事業も16年を経過しました。現在は民生委員のみなさんを中心に活動を続けていますが、戸建て住宅の多い地域では年齢構成が変わり、同時に一人暮らし、寝たきり、また発足当時にはいなかった2人以上の高齢者世帯が急増しています。

### 常盤台地区あんしん訪問者数

年度(平成)	一人暮らし	寝たきり	訪問希望
10	48	9	—
11	50	9	—
12	49	10	—
13	49	6	—
14	50	8	—
15	53	6	—
16	51	8	—
17	58	5	—
18	63	2	—
19	57	0	—
20	55	0	—
21	59	3	72
22	56		70
23	56		70

表は平成10年度からの70歳以上の年度別あんしん訪問者数です。「一人暮らし」の数は横ばいです。「寝たきり」の数は減少していますが、これは実数が減少したというより、時代の変遷で介護施設に移動したためと思われます。注目すべきは平成21年から始まった「訪問希望者」数が大変多いということです。この中には、日中一人暮らしの者・高齢者夫婦・70歳未満の者等が含まれています。この数は一人暮らしの潜在的な予備軍といえます。

## ● 常盤台地域の全てのみなさん・団体が構成員です

地区社協は、地域の団体や個人が会員となり構成しています。常盤台地区社協では、常盤台地区連合町内会理事（自治会、町内会・青少年指導委員・スポーツ推進委員・婦人部・消防班・民生委員・老人クラブ・環境事業協力員・保健活動推進委員・消費生活推進員・家庭防災員・の各代表者）及び、友愛活動推進員、福祉施設、医療機関、小中学校、各種学校、の各代表者及び、個人として福祉活動経験者が構成員となっています。



## ● 地域の福祉団体を応援しています

地区社会福祉協議会の財源は上部団体である区社協からの助成金で運営されています。直接実施事業として、高齢者対象の会食会とあんしん訪問事業を行っていますが、その他に、地域内の福祉団体に助成金を交付していますが、資金的に限りがあります。そこで目的を同じくする連合町内会と連携して、助成金の配分を分担しています。地区社協は主に福祉色の強い小団体（老人クラブ・健康体操団体・子育て団体等）に助成して応援しています。

その他、常盤台地区連合町内会主催の行事（納涼盆踊り・ワイワイウォーク）を共催事業として積極的に参加しています。



# 常盤台地区連合町内会・地区社会福祉協議会年表

年 号			常盤台地区と近隣	連合町内会	社会福祉協議会	横浜と保土ヶ谷
			縄文時代後期遺跡・帷子貝塚（横浜国大内）			鎌倉時代畠山一族がこの伊勢神宮の荘園は榛谷御厨（はんがやみくりや）と呼ばれ「はんがや」が「ほどがや」になったという説がある
			弥生時代後期遺跡・釜台町上星川遺跡			
			鎌倉時代は畠山重忠一族の支配下			
			室町時代末期北条早雲の支配下で小机城主支配			
1859	安政	6	幕末の常盤台は武蔵国橘樹郡帷子郷に属す			横浜開港
1872	明治	5				横浜（現桜木町駅）・新橋間に鉄道開通
1873		6	区域が「区番組制」となる			
1874		7	帷子町・保土ヶ谷町等7町村は第2大区に編入			
1878		11	「区番組制」を廃止し元に戻す。郡制施行で常盤台は橘樹郡帷子町に属す			程ヶ谷（現保土ヶ谷駅）開業
1889		22	町村制施行により帷子町・保土ヶ谷町等9町が合併して「保土ヶ谷町」となる			横浜市が誕生
1902		35	帷子葡萄園開設（現東部自治会内の常盤台住宅の地）			
1909		42	岡野欣之助氏私有地寄付常盤園（岡野公園）起工			開港 50 年祭・市歌、市章できる
1911	大正	44	帷子町が横浜市へ編入 常盤園完成・横浜質屋大運動会開催			帷子川沿いに工場進出始まる 星川尋常小学校新築落成
1913		2	程ヶ谷停車場から常盤園間の乗合馬車営業開始			横浜市区制施行
1914		3	横浜家庭学園根岸から常盤園内に移転			
1915		4				現横浜駅落成・旧横浜駅桜木町駅に改名
1916		5				西谷上水道完成
1917		6	常盤園で自転車競走会開催			
1922		11	程ヶ谷カントリー - 倶楽部できる			
1923		12				関東大震災発生
1924		13	常盤園（亀甲山）で全国連合観桜自転車競技大会開催			
1926		15	西谷駅・上星川駅開業 程ヶ谷カントリー倶楽部で第1回全日本ゴルフ選手権開催			神中鉄道 二俣川～星川（現上星川）間開通
1926	昭和	1	聾話学校開校			
1927		2	保土ヶ谷町が横浜市に編入し「保土ヶ谷区」となる 程ヶ谷カントリー倶楽部で第1回全日本オープンゴルフ選手権大会開催 保土ヶ谷区誕生、帷子町4分割で峰岡町誕生（常盤台は一部）			橘樹郡保土ヶ谷町が横浜市に編入 保土ヶ谷区誕生星川駅開業
1930		5				天王町駅開業
1931		6				常盤園下駅（和田町駅の前身開業）
1932		7	常盤園で第5回秋季連合青年団体育大会開催 保土ヶ谷区連合町内会発足・21地区が組織化			
1935		10	レンガ坂竣工			

年 号			常盤台地区と近隣	連合町内会	社会福祉協議会	横浜と保土ヶ谷	
1940	昭和	15	町名再編成により常盤台が誕生（峰岡町から分離）	常盤台・釜台町町内会発足（釜台も峰岡町から分離独立）		横浜大空襲 終戦 8 月 15 日	
1942		17	市が常盤園を買収して常盤公園として開園する。				
1943		18	相模鉄道・神中鉄道が合併				
1945		20					
1947		22	保土ヶ谷中学校（翠巒高校内）開校				
1948		23	保土ヶ谷中学校西谷校舎完成・移転				
			市営常盤公園グラウンドが常盤台に設立される。				
1951		26	市老人ホーム常盤寮（現恵風ホーム）開設	常盤台自治会発足（常盤台・釜台町町内会分離）			和田町駅開業
1952		27	程ヶ谷カントリーで第 1 回プロゴルフ選手権開催	峰岡町三丁目町内会発足・和田地区連合町内会に加入			
			県営住宅建設（現住好地区）	常盤台住好自治会発足・和田地区連合町内会に加入			
1954		29	保土ヶ谷中学校現地に移転（木造校舎）			開港 100 年	
1955		30	横浜市立聾学校現在地に工事開始				
			横浜船員保険病院開設				
			相鉄バス 和田町駅から船員保険病院まで開通				
1956		31	釜台住宅造成分譲（現釜台・元やよい地区）	やよい自治会発足・和田地区連合町内会に加入		開港 100 年	
1958		33	常盤台病院開院・育和幼稚園開園				
			常盤稲荷現在地に移転				
1959		34	横浜新道開通				
1960		35	横浜市立聾学校完成全校転入				横浜市民病院開院 保土ヶ谷公会堂竣工
			常盤台小学校開校				
1961		36		常盤台自治会・北部・西部・中部・東部自治会に 4 分割 常盤台北部自治会発足・和田地区連合町内会に加入 常盤台中部自治会発足・和田地区連合町内会に加入 常盤台東部自治会発足・和田地区連合町内会に加入 事業団ときわ会発足・和田地区連合町内会に加入 常盤台西部自治会発足・和田地区連合町内会に加入 住友銀行保土ヶ谷寮自治会発足・和田地区連合町内会に加入 和田町 75 番地自治会発足和田地区連合町内会に加入			
1962		37					
1963		38	保土ヶ谷中学校鉄筋校舎完成			常盤台中部自治会発足・和田地区連合町内会に加入	
			常盤台東部自治会発足・和田地区連合町内会に加入				
			事業団ときわ会発足・和田地区連合町内会に加入				
1964	39		常盤台西部自治会発足・和田地区連合町内会に加入				
			住友銀行保土ヶ谷寮自治会発足・和田地区連合町内会に加入				
			和田町 75 番地自治会発足和田地区連合町内会に加入				
1965	40	第三京浜道路開通	日本鋼管常盤台アパート自治会発足・和田地区連合町内会に加入				
1967	42	程ヶ谷カントリー倶楽部旭区に移転					
1970	45	横浜国立大学キャンパス建設工事開始					
1971	46		東海金属常盤台自治会（常盤台中部自治会より分離）発足和田地区連合町内会に加入				
1972	47		常盤台地区連合町内会発足（和田地区連合町内会から分離）				
			初代会長 春原伝氏（峰岡町三丁目町内会）就任				
1973	48	保土ヶ谷バイパス開通					



年 号			常盤台地区と近隣	連合町内会	社会福祉協議会	横浜と保土ヶ谷	
1973	昭和	48	横浜国立大学程ヶ谷カントリー跡地に建設開校			保土ヶ谷区制 50 周年	
1974		49	横浜国立大学内ゲバ事件 建売住宅分譲（現みどりが丘地区）				
1975		50					常盤台みどりが丘自治会発足加入
1976		51					
1977		52					東海金属常盤台自治会廃止常盤台中部自治会に合併
1979		54	羽沢駅 横浜新貨物線開通				二代会長 飯田清蔵氏（常盤台東部自治会）就任
1986		61		三代会長 金子重春氏（峰岡町三丁目町内会）就任		常盤台地区社会福祉協議会設立（和田地区社協から分離）	
1987		62					
1988		63		やよい自治会脱会（釜台町自治会に合併）			二代会長 木所金作氏就任
1989		1		和田町 75 番地自治会脱会（和田町自治会に合併）			
1990	2			福祉モデル地区に指定される			
1991	3		四代会長 川田俊夫氏（常盤台東部自治会）就任				
1992	4	特老「夢の里」開設					
1993	5		五代会長 高崎治郎氏（常盤台北部自治会）就任				
1994	6		ピラージュ J F E 常盤台公園自治会発足加入				
			住友銀行保土ヶ谷寮自治会廃止（常盤台東部自治会に合併）				
1996	平成	8		日本鋼管常盤台アパート自治会解散	高齢者会食会事業開始	保土ヶ谷区制 70 周年	
				あんしん訪問事業開始			
1997		9		コスモ横浜常盤台公園自治会発足加入			
1998		10		横浜常盤公園ヒルズ自治会発足加入			
1999		11		事業団ときわ会廃止（常盤台西部自治会に合併）			
2002		14		六代会長 齋藤馨氏（峰岡町三丁目町内会）就任	三代会長 高崎治郎氏就任		
				アンジュの丘自治会発足加入	四代会長 齋藤馨氏就任		
2005		17		七代会長 山口和秀氏（常盤台北部自治会）就任			
2006		18	保土ヶ谷中学校 60 周年	連町会に横浜国大がオブザーバーとして参加		保土ヶ谷区制 80 周年	
2009		21	常盤台地域ケアプラザ・コミュニティハウス開所 神奈川東部方面線羽沢駅工事開始 常盤台小学校 50 周年 横浜国立大学 60 周年		齋藤会長死亡 小金井庫雄氏会長代行就任	横浜開港 150 周年	
2010	22	特老「デジレンシャル常盤台」開設	八代会長 有澤文紀氏（コスモ横浜常盤台公園自治会）就任	五代会長 山口和秀氏就任			
2011	23			連合町内会と諸事業協力・連携	東日本大震災発生		
2012	24	常盤台連合町内会 40 周年	常盤台地区連合町内会 40 年記念誌発行				

## 常盤台と周辺の豆辞典



お	<p><b>大池道路（おおいけどうろ）</b>          横浜市保土ヶ谷区峰沢町には「三ツ沢大池」というため池があったが、昭和 30 年代末横浜駅西口地下街開発工事に伴い、残土処理で現横浜国大北門周辺から大池のあたりまでを埋め立てた。現在埋め立てられた大池の跡地にはマンションが建っている。マンション前に「三ツ沢大池」というとうバス停が名残る。この池が大池道路の名称の由来ともなっている。・・・大池道路の建設は「顕彰碑（けんしょうひ）」参照</p>
	<p><b>岡野欣之助（おかのきんのすけ）</b>          1865 年（慶応元年）程ヶ谷宿帷子で富豪の家に誕生。私財を投じて保土ヶ谷に尽力、明治後期人口増加に伴い公園施設の必要性を感じ、私有地を提供開拓し、常盤園（岡野公園）として明治 44 年に一般公開した。また、程ヶ谷カントリー倶楽部の東京からの移転にも関わり尽力した。常盤台地域の歴史上では欠かせない人、1929 年（昭和 4 年）63 歳で没。平沼高校敷地 3,000 坪を寄付。祖父・父は岡野新田開拓者</p>
か	<p><b>釜台町・上星川遺跡（かまだいちょう・かみほしかわいせき）</b>          保土ヶ谷中学校校庭脇の高台にある。昭和 60 年にマンション建設時に発掘された。弥生時代後期居住し址 16 軒と縄文時代早期の土坑 2 基が検出されている。現在は釜台公園として管理されている。（かまだい 50 周年誌に詳細記載）（釜台町）</p>
	<p><b>釜台古墳群（かまだいこふんぐん）</b>          5 世紀後半から 6 世紀にかけて、現保土ヶ谷中学校の敷地内に 6 基の円墳からなる古墳群があった。しかし、十分な調査は行われず破壊されてしまい詳細は不明のままとなった。（釜台町）</p>
	<p><b>帷子（かたびら）という地名</b>          「帷子」という地名は、着物の帷子からくるものと、地形からくるものとの 2 つの説がある。上代より人々は、麻を紡いで帷子のもととなる上布（麻布）を作り、皇室、公卿、武家に納めていたと思われる。これにより、時の朝廷から帷子という地名を賜り、その後里人は帷子郷と呼ぶようになったとも言われている。しかし、帷子を朝廷に納めていたかどうか真偽のほどは分からない。また、「片平」が転化したもので、一方が山であり一方は田野をひかえているところから名づけられたという説もある。常盤台地区は昭和の初期は帷子町の一部であった。</p>
き	<p><b>帷子川分水路（かたびらがわぶんすいろ）</b>          横浜市の中央部を流れる帷子川の抜本的な治水対策として、昭和 56 年度から横浜市と神奈川県との協調事業として建設され 1997 年（平成 9 年）3 月末に完成した。この分水路の完成により、これまで台風や集中豪雨のたびに浸水被害が発生していた帷子川中下流部の保土ヶ谷天王町地区や横浜駅周辺などの中心市街地の治水安全度が大幅に向上した。帷子川分水路の長さは、約 7.5km。旭区白根（しらね）一丁目から始まり、常盤台地区の横浜国立大学、三ツ沢公園の地下を通り、神奈川区大野町（おおのちょう）で帷子川に接続している。このうち約 5.3km は地下をとるトンネルとなっている。</p>
	<p><b>絹の道（きぬのみち）</b>          横浜港から八王子までの古道で別名「八王子道」のこと。（「八王子道」参照）</p>
く	<p><b>久良岐郡（くらきぐん、くらきのこおり）</b>          久良岐郡は、古来より武蔵国（首都である国府は東京都府中市）の配下に属する地方郡の一つとして存在した郡である。範囲は神奈川県内の多摩丘陵南部の東京湾に近接する地域、および三浦丘陵の北端。現在の行政区画では、横浜市中区、南区、西区、磯子区、港南区、金沢区に相当するが、古代の郡域はさらに北の鶴見川まで広がっていたとも見られている。1936 年（昭和 11 年）10 月 1 日、横浜市の第 4 次市域拡張により、横浜市に編入したことにより消滅した。</p>



け	<p><b>顕彰碑（けんしょうひ）</b> 昭和 6 年この地の資産家で市議員でもあった田口良太郎が、不況時の農民救済の市の事業として、現和田愛児園から峰沢町に通ずる道路を私財を投じて建設した。これが現在の「大池道路」である。この道路開通により、常盤台、釜台地区が開発された。常盤台小学校から下った大池道路との交差点脇に、この地域への貢献事業を称えた第 13 代横浜市長半井清書の故田口良太郎翁「顕彰碑」（昭和 38 年建立）が建てられている。（かまだい 50 周年誌に詳細記載）（釜台町）</p>
こ	<p><b>国道 16 号線（こくどう 16 ごうせん）</b> 1965 年に指定された国道で、横浜市西区高島町交差点を起点として千葉県の本更津市までの全長 253.2km の東京循環主要道路、横浜から八王子間は「日本のシルクロード」と呼ばれる「八王子道」が前身となっている。（「八王子道」参照）</p> <p><b>公園坂（こうえんざか）</b> 常盤園の正面入り口に通じる唯一の道。現国道 16 号線の峰岡町三丁目に「常盤園下」というバス停留所がある。この場所から常盤公園入口までの坂道で、道の両側には桜が植えられ大変ににぎわった。現在は車一方通、この狭い道路で、かつての様子とは全く異なる。見晴らしがよく富士山も見えたことから別名「富士見坂」とも言われていた。</p>
さ	<p><b>桜道橋（さくらみちはし）</b> 公園坂の中央に架かる橋。昭和 28 年に横浜新道の工事と共に行政道路の建設で、丘が V 字型に掘削され 2 分割された。その 2 つの峰をつなぐ架け橋に、かつて栄えた公園坂の桜の思いをと「桜道橋」という素敵な名前が付けられた。行政道路に架けられた 20m ほどの橋</p>
た	<p><b>橋樹郡（たちばなぐん・たちばなのこおり）</b> 橋樹郡は、古来より武蔵国（首都である国府は東京都府中市）の配下に属する地方郡の一つとして存在した郡である。その範囲は概ね、現在の神奈川県内の多摩川下流部右岸、鶴見川下流部、および多摩丘陵東端の地域であり、現在は川崎市（川崎区、幸区、中原区、高津区、宮前区、多摩区の全域および麻生区の一部）および横浜市の一部（鶴見区、神奈川区の全域および西区、保土ヶ谷区、港北区の各一部）になっている。常盤台地域周辺は隣の都築郡との郡境地域で、上星川駅の裏側に流れる帷子川に架かる橋が郡境で「両郡橋」と名付けられている。明治・大正時代も神奈川県内に存在していたが、1938 年（昭和 13 年）10 月 1 日に全町村が川崎市・横浜市に編入された事により消滅した。</p>
	<p><b>滝野川（たきのがわ）</b> この川は、神奈川宿のほぼ真ん中を流れる宿場の憩いの川。この川を挟んで江戸側に「神奈川（石井）本陣」、その反対側に「青木（鈴木）本陣」があった。三ツ沢と六角橋からの川の流れが現在の神奈川区役所辺りで合流して海に注ぐ。でも今は、都市化によって地下を流れる場所が多い。この川の源流は横浜国立大学北門（常盤台北部自治会）の脇から流れ出ている。峰沢町では遊歩道「あじさいどうろ」の地下を流れている。（常盤台北部）</p>
	<p><b>滝野川（たきのがわ）アジサイロード</b> この川の上流、現在の三ツ沢住宅の場所に水田用の面積 1 万平方メートルを超える大きな用水地（三ツ沢大池）があり、三ツ沢、松本方面一帯の灌漑用水として重要な役割を果たしていた。やがて進む都市化により役目を失い、子供たちの遊び場として地域の人たちに親しまれていた。現在の国大北門付近から流れ出ているこの川は、昔の面影を失い、悪臭を放すようになり環境的に改善が必要となった。平成 12 年（2000 年）に暗渠化され、上部を遊歩道とし、その沿道には多くのアジサイが植えられ、「滝野川アジサイロード」と命名された。現在は現地の自治会が管理をしている。（峰沢町）</p>

**常盤台遺跡（ときわだいいせき）**

保土ヶ谷区内には縄文時代の遺跡は約 80 か所記録されている。その一つ「常盤台遺跡」は BC2000 年から 2500 年頃の遺跡で現在の横浜国立大学内にあり、「帷子貝塚」として著名であったが、程ヶ谷カントリー倶楽部のゴルフ場建設、そして、横浜国立大学研究棟建設でほとんどが破壊されてしまった。昭和 51 年研究棟建設時に行われた調査で縄文中期の住居址 7 戸が確認されている。 横浜国立大学作成「常盤台遺跡」（横浜国大内）

**常盤台病院（ときわだいびょういん）**

昭和 34 年に創立された精神科病院。 横浜の閑静な高台に位置し、病棟からはランドマークタワー等の遠景や周辺の畑で大規模栽培されている季節の野菜などをみることができる。院庭は緑の芝生に覆われ、周囲には桜などの木々が多様に植えられ、小鳥のさえずりや虫の声が聞こえて来る、療養に最適な環境。（常盤台北部）

**常盤台小学校（ときわだいしょうがっこう）**

昭和 32 年に木造 2 階建て 4 教室が建設されて星川小学校の分校として開校した。その後校舎が増築され、昭和 35 年に常盤台小学校として独立開校した。昭和 41 年児童数の増加に伴い常盤台小学校上星川分校を開設、昭和 42 年に上星川小学校が独立した。昭和 48 年に鉄筋コンクリートの校舎が建設された。「常盤台小学校」は、名称こそ「常盤台」だが、敷地の 3 分の 2 が釜台町にあるため、住居表示の変更の際に、「釜台町」に区分されている。現在は生徒数約 1,000 名の横浜でも上位の生徒数である。（かまだい 50 周年誌詳細記載）

**常盤台という地名**

明治 11 年郡施行で常盤台の地は、橘樹郡保土ヶ谷町大字帷子となったが、昭和 2 年保土ヶ谷町が横浜市に編入された際、帷子町となった。同年区制が施行され帷子町の一部が峰岡町に分割され、更に昭和 15 年峰岡町字常盤が分割され「常盤台」となった。常盤地区は台地であったために「常盤」に「台」をつけて「常盤台」の誕生となった。

**常盤公園（ときわこうえん）**

現在の「常盤公園」は、常盤園の入口付近の一部（約 6 分の 1）を昭和 17 年に横浜市が買収して開設したもの。緑豊かなこの公園は、保土ヶ谷区民のスポーツと憩いの場として親しまれている。この公園の楠は巨木で貴重な森だ。（常盤台東部）  
現在常盤公園のな残りのバス停として、常盤園入口・常盤公園前・常盤公園下の 3 か所があり、現在も使用されている。（本書中参照）

**常盤園下駅（ときわえんしたえき）**

神中鉄道の駅で、現在の相鉄線和田町駅と星川駅の間和田町駅よりの約 300m 星川駅寄りにあった。常盤公園への玄関駅として昭和 7 年に開業し大変にぎわった。昭和 19 年神中鉄道と相模鉄道の合併による見直しで、現和田町駅が建設され廃止となった。現在は資材置き場となっている。

**常盤稲荷（ときわいなり）**

以前は峰岡町三丁目の丘の上にあり、下方から幾重もの鳥居が連なっていた。横浜新道保土ヶ谷トンネル・峰岡出口（昭和 35 年開通）等の建設により昭和 33 年に現在地に移転した。（峰岡町三丁目）

**鳥山川（とりやまがわ）**

源流は羽沢駅近くの大丸橋付近からの湧水、羽沢貨物駅と寺田倉庫間に流れていたが、羽沢駅建設工事時（2012 年）に駅舎工事に支障があったことから、大丸橋の下方から環状 2 号線脇を約 700m 下流まで地下トンネルとなり、現在は川の様子は見えない。新横浜駅付近で鶴見川に合流している。（羽沢町）



な	<p><b>奈良・平安時代の常盤台</b> 奈良・平安・鎌倉時代の常盤台は武蔵野国久良郡（久良岐郡）星川郷（むさしのくにくらぎくんほしかわごう）の一部であった。常盤台という地名は近年になってからである。領主は北条氏</p>
	<p><b>長岡安平（ながおかやすへい）</b> 長岡安平(1842年 - 1925年)は「常盤園」を造園した日本の造園家、作庭家。また茶人で、「祖庭」と号した。日本人初の公園デザイナー。明治初期から大正にかけて東京府の公園係長などとして活躍。数々の名園を生み出した。明治年代から大正初期に至る間の造園技術の第一人者、また公園行政官のパイオニア。主な公園は常盤園をはじめ、芝公園・日比谷公園設計案・国指定庭園など全国 41 件の公園・庭園を手掛けた。</p>
は	<p><b>畠山重忠（はたけやましげただ）</b> 畠山重忠は、平安末期から鎌倉初期にかけて源頼朝と共に武士の政権たる鎌倉幕府を創設した武蔵・相模の武将である。鎌倉に異変ありとの知らせに、埼玉県比企郡の菅谷館から鎌倉へ向かう途中、鶴ヶ峰（横浜市旭区鶴ヶ峰）にて北条義時軍の一万の大軍に対して、わずか 134 騎の郎党と共に戦い、鎌倉随一の弓の名手愛甲季隆の矢に打たれ倒れた。1205 年（元久 2 年）6 月 22 日のことで重忠 42 歳であった。</p>
	<p><b>畠山重忠公郎党恩讐慰霊塔（はたけやましげただこうろうとうおんしゅういれいとう）</b> 常盤公園に建立されている慰霊塔。この塔は、鎌倉時代に畠山重忠が北条氏に討たれた戦いで戦死した者の塚が常盤公園の中、常盤台小学校の校庭等にあった。これらの塚を慰霊するため、常盤台の開拓者川田修三氏を代表に、昭和 32 年に建立されたもの。慰霊塔の裏面には次のように記されている。 「重忠公は北条時政及び後妻牧の方陰謀により元久二年六月武蔵国鶴ヶ峰に於いて一族郎党百三十四騎は各所進撃して戦死当時の敵味方の別なく埋葬この地にあり二十騎の塚は世の変遷となり消滅を憂い茲に合同慰霊塔を建立するものなり 地元有志一同 地元婦人会」</p>
	<p><b>八王子道（はちおうじみち）</b> 安政 6 年（1859）横浜港が開港され、輸出が始ると日本の生糸が横浜から大量に欧米へ送られるようになった。八王子は関東周辺、多摩地域の生糸の集積地であったが、この街道が利用されて直接八王子から横浜へ生糸が送られるようになる。したがって別名「絹の道」「浜街道」とも言われた。全長 44.6km 旧東海道、松原商店街の手前に「追分」という標識が立っている。東海道と八王子道の分かれ道である。右折して八王子道を進み峰岡町一丁目を過ぎて、二丁目の上り坂の道脇に自治会の設置した石碑「峰坂之碑」がたてられている。 「むかし この道は 八王子に通じた唯一の交通路でした。 年貢米や 生糸を馬の背に 往来し 旅人は榎の木に馬を繋ぎ休息した処です。」と記されている。 昭和五十七年七月吉日 峰岡町二丁目自治会</p>
ひ	<p><b>八町八反（はっちょうはったん）</b> 常盤台の北部地域は「八町八反」と呼ばれていた。その名の由来は広々とした様子を末広がりの「八」という字で表したもの、また一説には雑木林などの広さが実地籍「八町八反」であったということ。いずれにしても一帯は山深い雑木林で覆われていた地域であったということである。（常盤台北部）</p>
	<p><b>聖ヶ丘学園（ひじりがおかがくえん）</b> 昭和 10 年に創設、昭和 34 年に学校法人聖ヶ丘学園と改組し常盤台の現在地に移転した。現在常盤台には「聖ヶ丘教育福祉専門学校」(学生・教職員数約 500 名)と付属育和幼稚園(児童・職員数約 450 名)がある。（常盤台北部）</p>

ふ	<p><b>二つ台（ふたつだい）</b> 地名が「常盤台」と隣接する町「釜台」の二つの「台」をつけての仮称。大池道路の両側の商店街を「二つ台商店街」と称した。（常盤台西部）</p>
ほ	<p><b>保土ヶ谷中学校（ほどがやちゅうがっこう）</b> 昭和 22 年現横浜市立翠嵐高校内で開校・昭和 23 年西谷に木造校舎建設開校移転・昭和 28 年現場所に移転・昭和 38 年現鉄筋校舎落成・平成 23 年度現在生徒数約 1,000 名、横浜市内で最上位マンモス校。（釜台町） （かまだい 50 周年誌に詳細記載）</p>
	<p><b>程ヶ谷カントリー倶楽部（ほどがやかんとりーくらぶ）</b> 本書中参照</p>
み	<p><b>峰岡町（みねおかちょう）</b> 昭和 2 年、保土ヶ谷町が横浜市に合併した際、保土ヶ谷町の一部であった帷子町が帷子町、天王町、神戸町、峰岡町に分割され、峰岡町が誕生した。 地名の由来は、帷子町字峰の「峰」にこの地の開拓者、岡野欣之助の「岡」を加えて「峰岡」と命名した。</p>
	<p><b>三ツ沢の名称由来</b> 三ツ沢の名は、上流部（横浜市保土ヶ谷区境付近）で谷が 3 つに分かれるため、または地区内に小さな沢が 3 つあったためともいわれる。上流の横浜市保土ヶ谷区峰沢町には三ツ沢池というため池があったが現在はない（バス停名と「大池道路」に名が残る）。16 世紀に三河国八名郡多米（愛知県豊橋市）から豊頭寺（ぶげんじ）が移転建立され、江戸時代には関東有数の檀林（三沢檀林）として栄えた。 檀林とは仏教僧侶の学問道場のこと。1720 年（享保 5）、三ツ沢西町にある法照山豊頭寺の地に、学舎 5 棟、学寮 25 棟、学徒は常に 300 人を下らぬ三ツ沢檀林が開講した。</p>
	<p><b>峰坂（みねさか）</b> 旧東海道洪福寺の松原商店街の手前に「追分」という標識が立っている。これは旧東海道と八王子道との分かれ目である。この八王子道をしばらく進むと峰岡町二丁目となり、急な坂道に差し掛かる。この坂が峰坂で 350m ほどある。 地名の由来：この付近は横浜市に合併される以前から「大字帷子 小字峰」と言われていた。その字名をとって「峰」と名づけられた。（峰岡町二丁目）</p>
	<p><b>峰坂之碑（みねさかのひ）</b> 峰坂の途中に自治会の建立した石碑がある。この石碑にはこの道が古道であることが記されている。 「むかし この道は 八王子に通じた唯一の交通路でした。年貢米や 生糸を馬の背に 往来し 旅人は榎の木に馬を繋ぎ休息した処です。」 昭和五十七年七月吉日 峰岡町二丁目自治会（峰岡町二丁目）</p>
	<p><b>三ツ沢大池（みつざわおおいけ）</b> 滝野川の源流（横浜国大北門付近）から約 700m 下流、現在の三ツ沢住宅の地にあった 1 万㎡を超える大きな水田用の池、滝野川下流（現在の神奈川区三ツ沢町、松本町）の水田を潤していた。都市化に伴い横浜西口ダイヤモンド地下街の残土でうめたてられ、三ツ沢住宅が建設された。滝野川は反町付近まで暗渠化され、遊歩道となっいる。その名は「大池道路」として名残りされている。</p>



よ	<b>横浜家庭学園（よこはまかていがくえん）</b> 和田町方面から大池道路を上ると和田愛児園の上方右側に学園の入口がある。この学園は神奈川県で唯一の女子の救護施設で、日本で最古の施設である。2006 年には 100 周年を迎えた。（釜台町）
	<b>横浜船員保険病院（よこはませんいんほけんびょういん）</b> 昭和 36 年船員の結核患者を集中的に治療するために療養所として木造の病棟が建設された。昭和 42 年現在の鉄筋病棟が建設され、昭和 49 年総合病院となった（釜台町）
	<b>横浜国立大学（よこはまこくりつだいがく）</b> 本書中参照
	<b>横浜国立大学名教自然碑（よこはまこくりつだいがくめいきょうしぜんひ）</b> 横浜国立大学構内にある国登録文化財である。横浜国立大学工学部の前身、横浜高等工業学校の初代校長である鈴木達治氏の功績を讃えて建てられた。高さ 6.6 m、方尖柱型の石碑で、設計は同校建築学科教授の中村順平氏。端正な比例と素材を生かした造形に、気品のある記念性がうかがわれる。昭和 12 年建立。昭和 54 年に移築（理工学部のシンボルとし、理工学部エリアの中心に設置されている。）
れ	<b>横浜新道（よこはましんどう）</b> 横浜新道は、正式には、保土ヶ谷区常盤台⇄戸塚区矢部間の 9.8 キロをしめし、インター名で行けば、「常盤台」⇄「上矢部」を言う。第三京浜、国道 1 号三ツ沢間は、接続路（ランプウェイ）となっている。横浜新道は、高速道路ではなく、「自動車専用道」（正式には一部）で制限付。1959 年（昭和 34 年開通）
	<b>レンガ坂</b> 峰岡町三丁目公園の近くにある階段坂道。大正 3 年に西谷浄水場からの水道管を鶴見方面へ給水するための給水管を埋設する際に、階段をレンガで築造したことからこう呼ばれるようになった。全長 75m で 130 段の急階段で、常盤園が栄えていたころは人通りも多く屋台も出たといわれている。昭和 10 年竣工（峰岡町三丁目）
わ	<b>和田村道橋改修碑（わだむらみちはしかいしゅうひ）</b> 保土ヶ谷中学校入口にこの碑がある。（国道 16 号線沿）和田町から上星川に至る八王子道は導水路が通り、また突き出していた崖下を上り下りを繰り返す険しい山道であったため大変な難所であった。しかしながらこの道のほかには道はなくここを通るしかなかった。1730 年代に近郊の人々が協力して数年を要してこの難所の導水路 3 か所に石橋をかけ和田山を削り道を改修した。大正の末期、これを記した碑が帷子川の底から発見された。（釜台町）・・・（かまだい 50 周年誌に詳細記載）
	<b>和田稲荷（わだいなり）</b> 峰岡町三丁目に所在する稲荷、案内板によると・・・武州橘樹郡和田村稲荷大明神の由来を尋ぬるに昔源頼朝卿治承年中に平家の逆族を追討せんため白根不動明王に参籠ましまし御伴には和田義盛殿を後し奉り當十一面観音を拜参此所に宿有り其夜義盛枕上に大悲の尊體影向ましまし義盛に託していわく汝知らずや此地に稲荷霊社有ることを自後汝此神を信ぜば心中の志願成就すべし義盛ゆめさめて後奇異のおもいをなし速やかに頼朝に告奉っていわく某今夜不思議の大悲菩薩の霊夢を感拝し奉る伏して」願わくは八富所おいて些少の社地を寄贈し賜る。・・・以下略（峰岡町三丁目）

---

## 郷土の歴史と常盤台連町 40 年

---

### 編集委員

山口 和秀	常盤台北部自治会（編集長）	三ツ木卓三	コスモ横浜常盤台公園自治会
田宮 照夫	常盤台中部自治会（副編集長）	能塚誠二郎	横浜常盤公園ヒルズ自治会
山岸 祐雄	常盤台住好自治会	本多 千也	常盤台みどりヶ丘自治会
相良 武男	常盤台西部自治会	神原 久典	アンジュの丘自治会
田村 友啓	ビラージュ JEF 常盤台公園自治会	鈴木 好行	峰岡町三丁目町内会
小林 利彦	常盤台東部自治会	清水 秋江	同
川田 勝美	同	望月 后子	同

### 参考文献

わが町ほどがや（80 年史）	フォトアルバム思い出の保土ヶ谷
保土ヶ谷区史（70 年史）	北部自治会 50 年史
保土ヶ谷ものがたり（50 年史）	北部自治会 30 年史
保土ヶ谷いまむかし（写真集）	釜台自治会 50 年史

---

### あとがき

この歴史書が企画されたのは、平成 23 年 2 月であった。それは常盤台地域の記録、また連町の記録が失われその再生が困難と危惧されてのことだ。そして書の発刊は 2 ケ年間の連町重要事業として総会で決定された。編集委員長は、当初地域の最長老でもあり、またこの地域の歴史を熟知していた常盤台西部自治会長堀時勝氏に決定し実行年度に入った。ところが間もなく堀氏が体調を崩し、同年 4 月に帰らぬ人となってしまった。急遽その後任として私が引き受けることとなったのである。

全くの白紙状態の中での右も左も分らない素人編集長、連町の懐も分っているだけにプロの応援をお願いするのは無理である。まずは 11 自治会から各 1 名の編集委員の選出をお願いし、第 1 回目の編集委員会を開催した。会議終了後、大ピンチに陥った。それは各自治会の設立時期に大きな年の差があり歴史認識が全く異なること。戸建自治会と集合住宅自治会との連町に対する認識の差が大き過ぎること。また同時に編集委員の皆さん自身の関心度の差があまりにも大きいこと。広域と編集委員の都合で全員が一堂に会することはおろか、連絡すら取ることが難しいこと。等々、これは編集委員を一つにまとめることさえ不可能であるという結論に達した。やむを得ず個別に皆さんに協力を願うこととして、資料の収集・編集を進めた。

本書には多くの資料と写真の掲載を予定していたのであるが、費用の関係で資料と写真は必要最少限にとどめた。本書に掲載できない貴重な資料、写真を次世代に残すために、別にディスクを添付することにした。ディスクには「本書（カラー版）」・「資料編」・「写真編（カラー版）」とし、できる限り多くを収めた。

多少の苦労はあったが、何とか期日内に編集委員および連町役員の皆さんのご協力で所期の目的に沿った書を発行することができたと思っている。その中で川田勝美氏、山田きぬえ氏にはこの書の生命線ともいえる貴重な資料の提供を戴き感謝申し上げたい。

編集長 山口和秀

---



## 連町記念誌発行事業協力法人

ご協力ありがとうございました。

(50 音順)

N0.	法 人 名 等	住 所	電 話
1	有限会社 金子商事	横浜市保土ヶ谷区常盤台 69-53	045-341-8000
2	釜台薬局	横浜市保土ヶ谷区常盤台 52-31	045-331-0002
3	有限会社 ぎんが邑	横浜市保土ヶ谷区峰岡町 3-417、4F	045-331-0468
4	横浜市常盤台地域ケアプラザ	横浜市保土ヶ谷区常盤台 53-2	045-339-5701
5	船員保険健康管理センター	横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-2	045-335-2265
6	有限会社 小石川電建	横浜市保土ヶ谷区常盤台 67-10	045-332-8852
7	横浜市常盤台コミュニティハウス	横浜市保土ヶ谷区常盤台 53-2	045-348-8277
8	三光興産 株式会社	横浜市保土ヶ谷区常盤台 61-39	045-335-0481
9	有限会社 新藤組	横浜市保土ヶ谷区常盤台 58-38	045-335-5121
10	介護老人保健施設 スカイ	横浜市保土ヶ谷区常盤台 84-1	045-348-1007
11	理容スガワラ	横浜市保土ヶ谷区常盤台 23-13	045-331-8549
12	有限会社 鈴木屋本店	横浜市保土ヶ谷区常盤台 31-24	045-333-3033
13	有限会社 鈴木屋本店天王町店	横浜市保土ヶ谷区天王町 1-32-12	045-331-2558
14	横浜船員保険病院	横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1	045-331-1251
15	横浜常盤台郵便局	横浜市保土ヶ谷区常盤台 50-11	045-333-7712
16	洋菓子ナカムラ	横浜市保土ヶ谷区常盤台 52-32	045-333-7272
17	有限会社 バイパス	横浜市保土ヶ谷区常盤台 21-23	045-331-4848
18	聖ヶ丘教育福祉専門学校	横浜市保土ヶ谷区常盤台 66-18	045-335-2312
19	増井建設 株式会社	横浜市保土ヶ谷区常盤台 34-1	045-333-0803
20	森のルーナ保育園	横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1	045-339-1152
21	特別養護老人ホーム 夢の里	横浜市保土ヶ谷区常盤台 75-1	045-335-0265
22	株式会社 谷津建設	横浜市保土ヶ谷区常盤台 61-28	045-337-2488
23	米山ケーブル TV	横浜市保土ヶ谷区常盤台 59-3	045-332-5847
24	特別養護老人ホーム レジデンシャル常盤台	横浜市保土ヶ谷区常盤台 74-7	045-348-8001

協賛団体 常盤台地区社会福祉協議会

このCDには、本書75ページと、本書に掲載できなかった常盤台地区に関する貴重な資料（87ページ）・写真（41ページ・200枚）を「資料編」・「写真編」としてカラー版で収録しました。  
変わり行く常盤台の地に住む次世代の多くの皆さんに見ていただき、郷土愛増進の一助となれば幸いです。

平成 25 年 3 月  
常盤台地区連合町内会

資料はPDF形式、写真はJPEG形式で収録されています。





区の花・すみれ